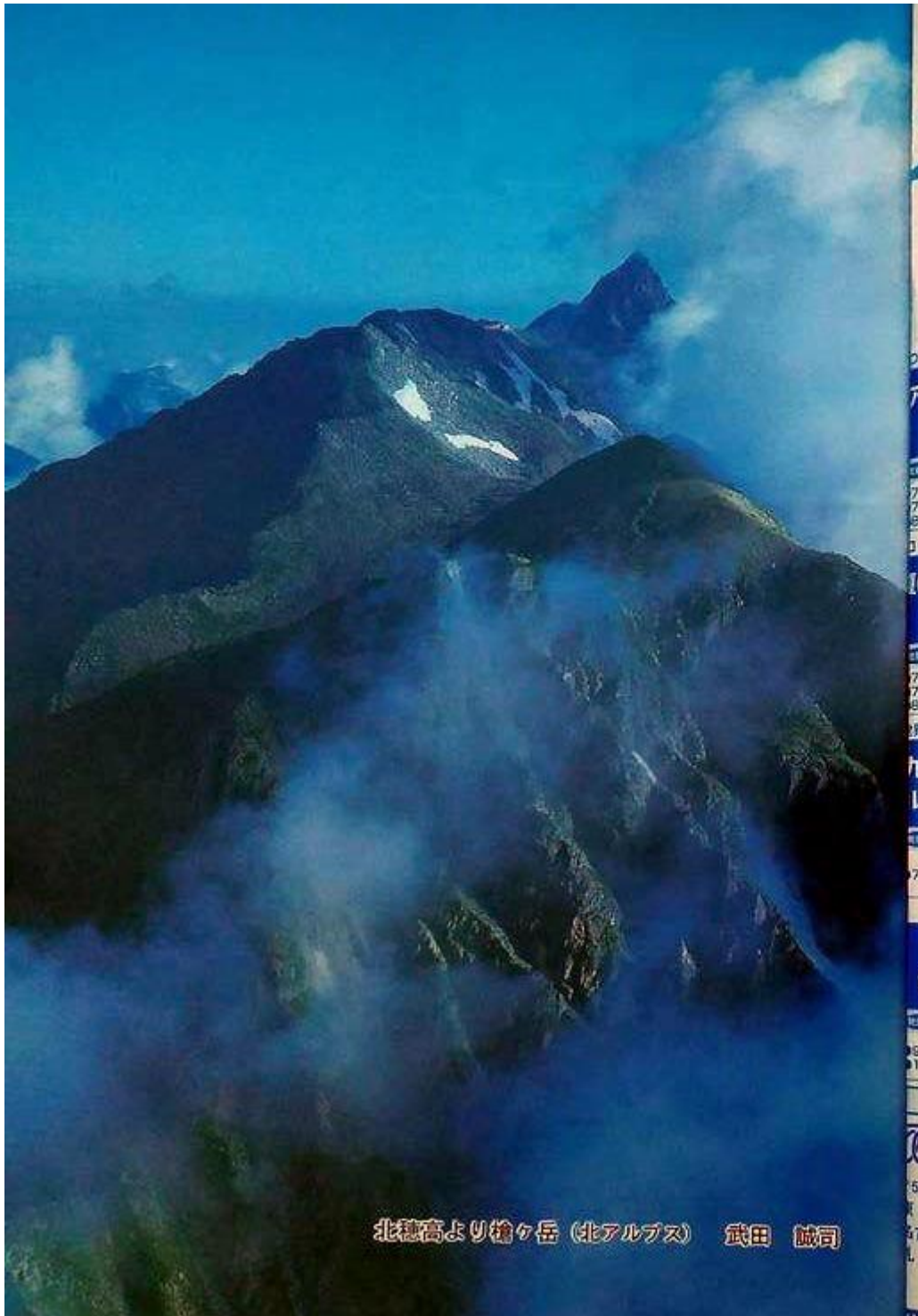


北穂高より槍ヶ岳（北アルプス）　武田　誠司

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

つの山上ホテルに泊まり、3つのピークにも登頂

アルプス・スカイライン ハイキング 9日間

出発地 大阪・名古屋・東京
7/10発……¥440,000
7/24発……¥468,000
8/21発……¥446,000

牧歌的な風景、遥なる大岩峰、東アルプス最大の氷河

チロル・ドロミテ、オーストリア 3つの最高峰展望と絶景の谷 9日間

出発地 大阪・名古屋・東京
●7/4発……¥480,000
●7/11●7/18●8/5発……¥498,000
●8/1発……¥552,000

地元ではツール・ド・モンブランとして人気のコース

モンブラン山群一周 トレッキング 9日間

出発地 大阪・名古屋・東京
●7/15●8/26発……¥470,000
●7/29発……¥496,000

ロッキーのハイライト部分をハイキング三昧！

1のカナディアン・ロッキー・トップ10 満喫ハイキング 10日間

出発地 大阪・東京
7/4発……¥446,000
7/18●8/15発……¥498,000
8/1発……¥542,000

シンプルなロッジライフで深い感動が待っています

アシニボイン・ロッジと レイクルイズ 8日間

出発地 大阪・東京
●9/12発……¥462,000
●9/24発……¥474,000

山小屋から山小屋へ、雄大なパノラマを独占！

エスプラナーデ 山小屋縦走トレッキング 10日間

出発地 大阪・東京
●7/17●8/14発……¥568,000
●7/21●7/29発……¥578,000
●8/2発……¥598,000

世界遺産とシーズンごとの高山植物を楽しむ

九寨溝、黄龍と四姑娘山 山麓ハイキング 9日間

出発地 大阪
7/7●7/22●8/19発……¥258,000

華麗で内容充実のペルーアンデスのトレッキング

アンデス・ブランカ山群 トレッキング 11日間

出発地 東京
●6/28発……¥398,000
●8/9発……¥546,000
●9/13発……¥398,000

究極の山岳景観が間近に、秘境デオサイ高原も探勝

K2・バルトロ氷河ヘリ・フライト とコンコルディア着陸 12日間

出発地 東京
●6/26発……¥538,000
●7/17●8/28●9/18発……¥516,000

台湾の最高峰と第2峰に登頂！

玉山と雪山 台湾の2座登頂7日間

出発地 大阪・名古屋・福岡・東京
9/24発……¥244,000
10/8発……¥256,000

手近な4,000m峰登頂とオランウータンの森

Mt.キナバル登頂と ボルネオ島大自然満喫 8日間

出発地 大阪・福岡・名古屋・東京
●8/5発……¥308,000
●8/9発……¥248,000
●10/28発……¥224,000

快適な「KLMオランダ航空」でアフリカ最高峰に挑む

キリマンジャロゆったり登頂と サファリ 11日間

出発地 大阪・東京
●6/22●7/7●7/20発……¥576,000
●8/3発……¥598,000
●8/17●8/31●9/14●9/29発……¥576,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。　http://www.alpine-tour.com

国土交通大臣登録旅行業第490号／(社)日本旅行業協会正会員 ⓡ(社)全国旅行業協会

アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003　大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F

東　京／☎03(3503)1911　大　阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福　岡／☎092(715)1557
札　幌／☎011(711)7106　仙　台／☎022(265)4611(転送)
(株)りんゆう観光　広　島／☎082(542)1680(転送)

e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

Photo essay

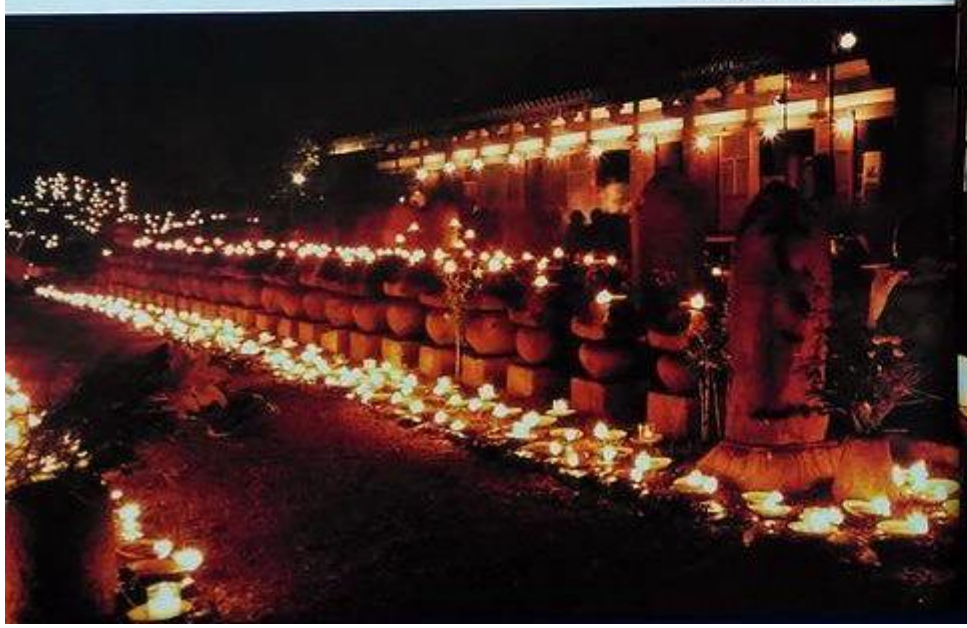
文目

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

夕刻　無数のろうそくが点った
ろうそくの光の宴「なら燈花会」
灯心の先にできる花『燈花』
ろうそくの灯りで埋め尽くされ
ゆったりとした時が流れる
ライトアッププロムナードなら
夜空に浮かびあがる平城宮朱雀門
猿沢池の水面に影を落とす五重塔
あらゆる戦争の戦没者を供養し
平和を祈る東大寺万燈供養会
参道の石燈籠廻廊の釣燈籠全てに
灯りがともる春日大社中元万燈籠
日本一のスケールを誇る送り火
若草山からのロマンチックな夜景
夏のひとときいにしえの都に佇む

燈花会（奈良町）

地蔵盆（奈良・元興寺）



格子戸（奈良町）

季節の実景

盛夏

花蓮（南越前市南条）

撮影　武市通治

逆立ち

雨の後

朝の蓮田

紅蓮

白蓮

北山賛歌（京都北山・久多峠） 山中　茂

クガイソウ咲くお花畑（湖北・伊吹山） 中川　光郎

サーレク東南部（スウェーデン北部・本文38頁参照） 利倉　正洋

コバイケイソウの群生（越後・平ヶ岳） 高岡　富美子

アーベントロートの山 ―立山（北アルプス）―

奥田　英一郎

雄山の肩に月昇る

地獄谷の噴煙

夕陽に映える立山連峰

新ハイキング　別冊　関西の山
'06 7・8月 盛夏 第89号

●目次

表紙：松田敏男「双六岳より望む黒部五郎岳」（北アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー百号、他）山の版画集「光る山山」刊行（東京新聞出版局）。京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア
文月……撮影　由井　収　文　松永　惠一　2
季節の実景（盛夏）「花蓮（南越前市南条）」…武市　通治　4
（口絵）武田誠司　中川光郎　高岡富美子　山中　茂　利倉正洋　奥田英一郎
随想（山のエッセイ）
再び北の山へ……生駒　聳峰　10
山の自然学……鷲見　守康　12

紀行
駒ヶ岳・宝剣岳・空木岳・南駒ヶ岳・越百山（中央アルプス）…鷲見　守康　14
叫越から烏帽子岳（京都北山）……小山　誠次　18
谷川岳（上越）……田中　明　24
連載　標高による山の紹介シリーズ29　△△89mの山
間ノ岳・静ヶ岳・経ヶ岳・七面山……松田　敏男　28
御池岳の谷と三国岳の毘沙門谷へ（鈴鹿）……長谷川雅俊　30
妙見谷から金剛山へ（金剛）……木村　太郎　34
秘境サーレクを歩く（スウェーデン）……利倉　正洋　38
アムネマチンと黄河源流（中国・チベット）……内田　嘉弘　43
連載　三角点を訪ねて㊶
隠れた花の山、焼石岳へ（東北）……礒部　純　60

●旗振り通信の資料X……柴田　昭彦　52
●エリヤ別徹底研究　伊能ウォーク　―Nやまと
⑱越部駅～壺阪山駅　⑲壺阪山駅～桜井駅
⑳桜井駅～長谷寺駅（奈良）……上田　俸弘　46
●文学歴史探訪ハイク㊴
河内鋳物師の里（中高野街道・下）（大阪）……松永　惠一　64
●〈山のレポート〉山の地名を歩く㉙
〈とケ・ガとがは一族郎党……西尾　寿一　74
●〈山のレポート〉
夏の北海道の山々……生駒　聳峰　76

コースガイド
1 能登ヶ峰（鈴鹿）……長宗　清司
2 北海道の剣山（北海道）……金谷　昭
3 1等三角点の大洞山（美濃）……山田　明男
72 70 68

せせらぎ……79
新ハイサービスチェーン……82
新ハイ関西山行計画……88
新ハイ関西山行報告……96
編集後記・広告案内……112

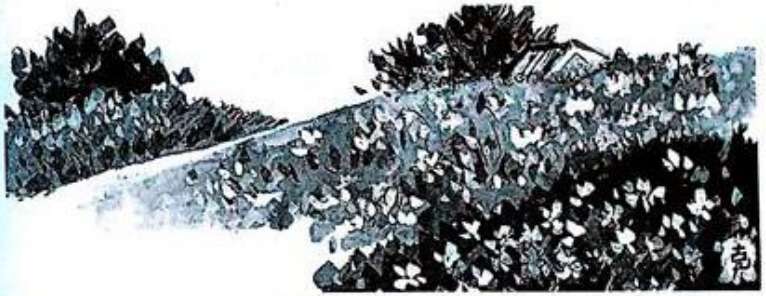
巻頭言

次の例会にはどのコースを計画しようかと、「比良山系」「京都北山」の登山地図（昭文社）を眺めていてふと思った。

赤線の入った登山道で歩いていない所が無い、既に登った山ばかりである。実は、新ハイ関西版を発行しようと考えた頃より近郊の山はすべて下調べで歩いているのだ。もちろんそれ以前に登った山も多い。若い頃より、週末はテントを背負って通った。新ハイのリーダーとして主だったコースはほぼ例会に組んできた。日帰りで行ってみたい未知の山が無くなったのである。このことが、前号で書いた、何か得心のいく方向を考えねばと思った主な要因でもある。

地図を見ていてようやく方向が見出せた。これからは、地図に登山道の無い山や尾根を歩いてみたい、ガイドブックに取り上げられないやぶ山を登ってみたいと思うようになり、早速、荒物屋で鉈と鋸を買った。そして、4月29日の夜叉ヶ妹池からの帰りのバス内で「今後の例会はやぶ山を歩く」と宣言したのです。7月から「やぶ漕ぎ山行」を計画します。興味のある方はご参加ください。

新ハイキング関西（代表）村田　智俊



再び北の山へ

生駒　聳峰

私が三角点マニアであることは、読者の皆さんは先刻ご承知のことと思うが、妻は「マニアなどとはとんでもない、貴方は三角点気違いですよ」と言う。

全国1等三角点972点で、登頂してないのは20点余り、そのうち無人島など交通の便が無く通常では行けない所が半分で、残り11点は北海道にある。

北海道には1等三角点が224点あり、20年近くも通っているが、困難な山ばかりが残った。それらの中には、毎年アタックしていても登れない山がある。

全1等三角点を登頂するには、どうしてもこれらの山を残すことはできない。最初のうちは1年で20～30山も登ったが、ここ数年は2～3山止まり、昨年などは1山しか登れなかった。

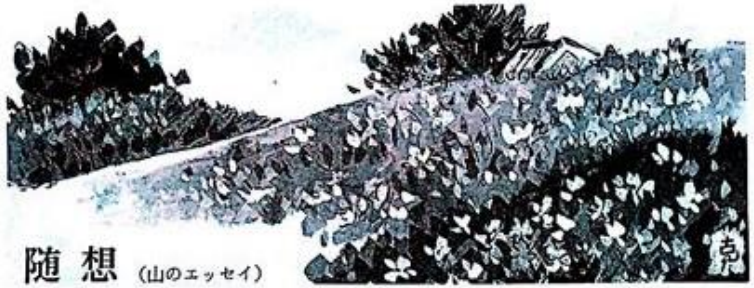
残った山で、毎年アタックして敗退している山が2山ある。

三角点マニアにしか知られていない山だが、道北天塩町の民安山と、道南今金町の瑠笏岳である。どちらも毎年手を変え品を変え、5～6回挑戦しているが、登頂できずにいる。もちろんどちらもやぶ山で、踏み跡一つ無い。

民安山は標高わずかに182㍍。こんな低い山がどうして登れないのか、自分でも情けない限りであるが、この山は最初からケチが付いていた。10数年前の第一回目には地蜂の襲撃に合い、一瞬気を失い天塩の病院で点滴を受ける始末。二回目は、国が測量に入ったとの情報を受け、道が出来ていて登頂したが、刈り払われた山頂を、いくら探しても標石が発見できず、2時間余りもササを掻き回して断念した。

数年が経ち、登った友人からの情報で、三角点はもう一つ奥のピークだとわかった。2万5千分の1の地形図の、ちょうど継ぎ目になっていて、自分の不注意の見落としである。測量会社も間違って、手前のピークを刈り払ったのだと思う。何しろ北海道の話なので、情報が入ったとしても、すぐ飛んで行くわけにもいかず、数年が過ぎ、今度は間違いなしと行ってみると、道はやぶに塞がれ跡形もなく、準備不足で登頂できず。次の年はやぶ漕ぎの準備もおこたりなくアタックしたところ、思ったより猛烈なやぶに阻まれ、テープ切れのため前進できず。また次の年には、登山口まで行ったものの、前日の山行で疲れていたこともあり、猛烈なやぶを知っているので、最初から意気消沈で、やぶに突入できず、半ば諦めの状態であった。

国土地理院の測量は、大体10



随想（山のエッセイ）

年ごとくらいにあるようだが、今回また測量に入ったという情報を得た。しかし、登山口に行ってみたが道が無い。測量に入っても、新しく「点の記」に記載されるのは2年程後になるので、ルートが不明である。

今年はこの山一つを目がけて、はるばると北海道の北の果て、天塩まで来ている。何年何回この山に手こずっておることか、今回は最後の挑戦と、不退転の決意で、妻と2人で猛然とやぶに突っ込む。

テープを引きずって2時間の格闘の結果。10年越しで登頂を成功させた。登ってみると、何と裏から良い道が付けられている。地形図を見ると、30分もかからない道である。調査不足もよいところだが、車を置いているのでまたやぶ漕ぎで下山した。しかし、10年越しの山に登頂できたので、何の不満も無い。

情報の無い山は唯一「点の記」だけが頼りだが、やぶ山では、3～4年で道は消滅する。

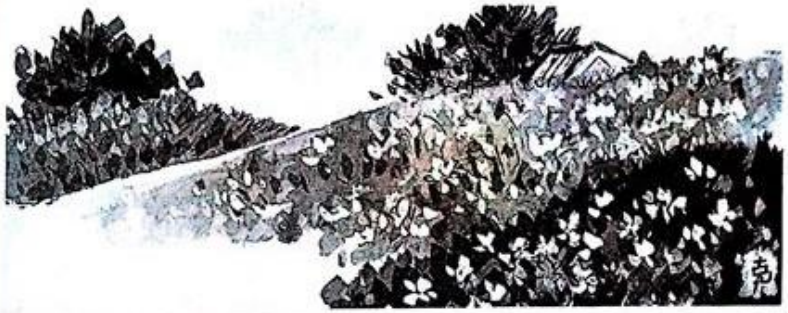
ここにもう一つ、道南に瑠笏岳という山がある。一回目は取り付きの林道を間違えて登れず。次の年は「点の記」のルートがやぶに没し、数人がかりのやぶ漕ぎも及ばず時間切れ。その次の年も前回よりも前進できたが、山頂ははるかに遠く、やはり時間が足りずに断念した。

「点の記」のルートは、ササ刈りをされていないと無理なようなので、しばらく足が遠のいていたら、測量に入ったとの情報がもたらされた。

ルートは前の測量時と全く違う反対側とのことで、まだ発表されてない「点の記」を、岳友が北海道の測量部まで出向いて確認してきた。

今度こそは絶対登れると計画すると、たちまち同じマニアが数人集まった。ところが現地に行ってみると、測量部の入ったルートが発見できない。以前は測量というと、ササ刈りして道を付けたものだが、最近は予算の節約からか、道を付けずに入っている。

GPSと地形図片手に6時間のやぶ漕ぎの結果、隣のピークで時間切れ、断念するよりほかはなかった。他にも登りたい山があるので、まずそちらの山に向かい、1週間程して再度瑠笏岳に挑戦する。猛烈なやぶに恐れをなし、脱落者も出たが、残りの者は猛然とやぶに突っ込んだ。何しろ登頂できないと、いつまで経っても目的は達成できない。先の登山で、山の様子も明確なので、今度は間違いなく登れるだろう。標高わずか500㍍の山である。結果は3㌔余りもテープを引きずり、悪戦苦闘の7時間のやぶ漕ぎ、実に10数年越し七回目のアタックで、登頂を果たした。下りも5時間を要し、12時間の戦いであった



が、全員心も軽く、疲れも感じず、鼻唄まじりで温泉に走った。

この年は他にも渡島大島・小島など、北海道の行きにくい山々を2山登ることができて、私としては大成果であったが、まだ残る7山には、やはり何回も敗退している山が含まれ、体力の衰えとともに、登れるかどうかの自信も無い。

見果てぬ夢はいつまで続くのだろう。

山の自然学

鷲見　守康

4月上旬のある夜、さわやかな春風にも似たメールが私の携帯電話に届いた。発信者は新ハイ会員のMさんで、仕事帰りの新幹線車内から、岩波新書『山の自然学』を読んでの感想を寄せてくれたのだ。

「偶然読みました。既に読まれたことと思いますが、小生にとっては興味深い内容でした。」

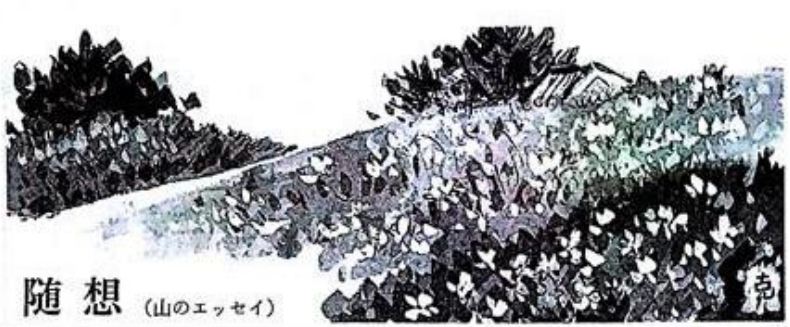
抑制した手短な表現の中に、新鮮な感動に包まれたMさんの顔が見えたような気がした。

自然観察山行にしばしば参加されるMさんには、サブリーダーをお願いすることもある。そのせいか、他のリーダーの山行時にメンバーの皆さんから花の名を尋ねられることがあるそうで、なかなか花の名を覚えられないMさんは「私は自然観察山行では落第生だから……」と苦笑されたこともあった。

そんなMさんにとって『山の自然学』は、目から鱗が落ちるような思いだったのかもしれない。

人と人との関係をつくるとき、相手の名前がわからなければなかなか親しくなれないのと同じように、名前を覚えなければ花に親しむことは難しい。けれど、一つ一つの花の名を覚えれば、それだけで「自然」が見えてくるのだろうか。自然観察会に参加していた当時からのそんな疑問は、山を歩くようになって次第に大きくなっていった。

例えば花の写真にしても、背景をぼかし、花の姿だけをクローズアップしたものより、森とか山岳など自然の中に写し込まれたもののほうが私は好きである。花の大写しの写真は名前を見分けるには便利だけれど、自然から切り離されてしまったような虚しさがある。花の名前を覚えるだけなら園芸品だっていいのだから。



随想（山のエッセイ）

花の名前より、森の姿を知りたい。山の全体を知りたい。そして、山岳や森という自然の中で、花を見つめていきたい。そんな思いを持ち続けていた。

小泉武英氏が編集した『山の自然学入門』（古今書院）に出会ったのはそんな頃だ。

「日本では自然観察といえば、一本一本の木や草花、虫や鳥など、個別の生物が対象になっていることが多く、自然のたたずまいそのものは、風景として眺められても観察の対象とされることがあまりなかったように思われる。」

『山の自然学入門』のそんな件には、わが意を得たりという感慨をもった。そして、「山の自然学」という言葉に、新鮮でかつ、わくわくするような響きを感じて、夜更けまで何度も何度も読み返したのだ。

若い頃、どんな学問を学びたいのか、学ぶべきなのか、わからぬまま大学へ進学してしまった私には、実に興味津々たる「学問」だったのだ。

それから後、小泉武英氏の『日本の山はなぜ美しい—山の自然学への招待』（古今書院）『山の自然学』（岩波新書）『山歩きの自然学』（山と渓谷社）『登山と自然の科学』（大月書店）などの著作を読んだ。

「〈山の自然学〉は……いわば、登山者のみなさんが山で見る風景や地形、高山植物など、山の自然全体をそのまま研究対象にした、ごく素朴で素人的な学問なのです。」そして「……その特色は、自然を地形・地質から動植物・昆虫まで、全部ひっくるめて、あるがままに把握しようという点にあります。欲張った、でもなかなか楽しい学問分野、それが〈山の自然学〉なのです。」

こんな風に、山を歩きながら山の自然に親しんでゆきたいと考えている。

新ハイ例会自然観察山行、中央アルプス北部縦走

駒ヶ岳・宝剣岳・空木岳・南駒ヶ岳・越百山

中央アルプス

鷲見守康

チャーターバスでJR岐阜駅を発ったのは9時15分過ぎ。高速道路をひた走り、正午過ぎに駒ヶ根市の菅ノ台バスターミナルに到着した。バスターミナル周辺には整理員が配置され、私たちのバスを目にするやてきぱきと誘導する。ロープウェイの利用予約はしていなかったが、まもなく団体専用のバスが用意された。

菅ノ台周辺の混雑の無さは予想外だった。以前、ひどい混雑を体験していたから、このシステム化された手際の良さには驚くばかりだ。しらび平からロープウェイに乗車し、14時前には千畳敷ホテルに着いていた。

中央アルプス北部縦走を計画したとき、当初は夜行で桂木場に到着し、将棋頭山を経て駒ヶ岳に至るつもりでいた。ところが、早朝の食事を兼ねた休憩場所がなかなか見つからない。また最近、夜行明けでの長丁場の登りが辛くなってもいた。そんなこんなで軟弱化し、ロープウェイを利用することにした。

乗越浄土には14時30分着。ここから濃ヶ池を経て馬の背尾根をくだり「聖職の碑」を見て、登り返す行程も頭にあったが、ガスに覆われて四囲の見晴らしも無く、肌寒さもあって気力が失せたため、平凡に中岳を越え駒ヶ岳に向かった。

中岳の休憩時、私の持参したインスタントコーヒーの瓶が爆発し、ロケットのように噴射したコーヒー粉を頭から被る「事件」があった。菓子袋が気圧の作用でパンパンに膨張するのはよく体験することだが、瓶の場合、もっともやわらかい紙の蓋に圧力が集中したため、紙の蓋を爪で傷つけた途端、膨張した空気が一気に吹き出したようだ。

15時40分、駒ヶ岳山頂に立つ。ガスが切れ、南への稜線が眺められた。少し木曾前岳側にくだり、頂上木曾小屋に到着した。小屋に入ると、まず食堂に通され、茶菓子の接待を受けた。室内はストーブが焚かれ暖かい。普通、山小屋では、受付で宿泊料金を支払い、割り当ての部屋に案内されるのが当たり前となっているから、この小屋の主人の心のこもったもてなしに感心する。混雑する時期だが、部屋も1人ふとん一枚の割り当てだった。

主人は上松町で酒屋を営んでいると言う。話好きで、食後、21時近くまで山小屋経営の苦労話などを聞かされた。

翌日は高曇りの状態で見晴らしが良く、縦走には絶好の天候となった。今回の山行は梅雨明け前のため、天気を心配したが、最後まで雨には降られなかった。そして、山行3日目には梅雨も明けたようでよく晴れ渡り、4日目の朝まで晴天が続いた。

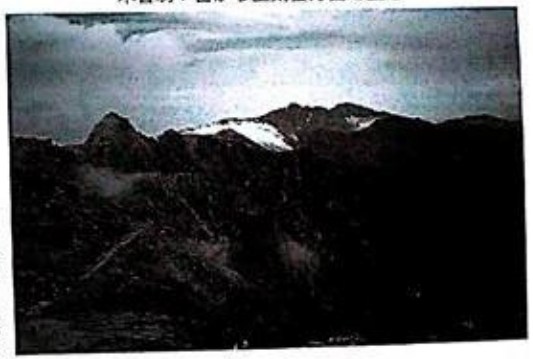
中央アルプス北部縦走略図

頂上木曾小屋を6時過ぎに出発。メンバーの足も揃って快調に歩いたが、思いのほかアップダウンがきつく、木曾殿山荘まで、休憩時間を含め10時間を要してしまった。

事前に木曾殿山荘へ連絡を入れた時、小屋側から「縦走の場合は早立ちしてください。ガイドブックの所要時間は参考になりません。かなり時間がかかりますよ」と助言を受けていたのだが、まさにその通りであった。

縦走路では80種を超える高山植物が生き生きと花を咲かせていた。この年は、全国的に花がよく咲いて、ここ中央アルプスでもすばらしかった。特産種のコマウスユキソウ（ヒメウスユキソウ）、南アルプスと中央アルプスにしか分布しないハハコヨモギなど、花好きな人は足止めされてしまうほどだ。大群落という規模のお花畑こそないものの、中央アルプスには、お花畑と砂礫地の分布とが一致しているというおもしろさがある。花崗岩の山脈である中央アルプスは、岩石の割れ方がお花畑の形成に強く影響を与えているようで、コマウスユキソウやハハコヨモギのお花畑も砂礫地に見られ、砂礫

木曾駒ヶ岳から宝剣岳方面を望む



空木岳山頂

地以外では大きな岩塊が積み重なり、ハイマツ帯になっている。

16時過ぎ、木曾殿山荘に到着。すごい混雑であった。縦走路におけるこの小屋の位置からして、登山者が集まるのはやむを得ないが、その混雑のひどさに閉口した会員もいる。

サブリーダーの狩野さんや三井さんと相談し、人いきれで暑くなる二階の大部屋を避け、一階の食堂を割り当ててもらえればと、こちらから小屋側に申し出た。夜中、トイレに立つのもそのほうが便利なのだ。この選択により、混雑したなかでも何とか安眠を確保できたのだった。

姉妹の経営で知られていた木曾殿山荘だが、今は男性（姉の伴侶？）が小屋の主人のような顔で取り仕切っている。その主人によれば、東京の新ハイキングはよく利用するとのこと。「関西は初めてのご利用ですね。これから先、ご利用ください。」と笑っていた。

翌朝6時過ぎ小屋を出発。まばゆい青空を背に空木岳がそそり立っている。いきなりの長い急登である。登るにつれ、東川岳から駒ヶ岳の山々があざやかな姿を現し、昨日歩いた稜線が浮かび上がってくる。

1時間ほどで第一ピークに達し、さらに30分ほどで空木岳山頂だった。第一ピークからは巨岩が累々と続き、その間をぬって進む。空木岳から赤椿岳を越え、1時間ほど歩くと南駒ヶ岳だ。振り返ればすばらしい景観である。山脈全域が花崗岩で出来た中央アルプスの山岳風景は、壮大かつ希有で、独特な美しさと楽しさがある。とりわけ、宝剣岳と木曾駒ヶ岳の間にある中岳西面捲道、そして空木岳から南駒ヶ岳の間は、トア（石塔）や奇岩・怪石などが続き、大変に印象的だ。

空木岳から南駒ヶ岳への縦走路の三ヶ所では、構造土の一つである線状土を見た。二ヶ所目のものはとりわけ圧巻であり、花崗岩の砂礫が斜面下方に向かい、砂と小石がみごとに振り分けられ、線状を形成していた。真ん中に人頭大の石が配置され、その前にはクモマスミレが花を咲かせている。線状土は、あたかも京都の古寺の庭園のような光景をつくり、まるで人の手が入ったような感じさえする。実に見事であった。

南駒ヶ岳山頂では、ゆっくり1時間の昼食休憩とした。晴れ上がった空の下、夏のアルプスの大きな展望を味わい、なごやかなひとときを過ごした。

去り難い思いを抱きながら出発。話ほど険しくない仙涯嶺を越え、越百山に到着したのはちょうど14時であった。Hさんによれば、越百山はいくつものピークを越えて達することから「越百」と名付けられたという説があると言う。なるほど、北端の駒ヶ岳から数えればどれほどたくさんの峰を越えてきただろう。百にも達するのではないか、という思いはわかろうというものだ。天気はくだり坂なのか、雲行きの怪しくなった空を眺め、縦走の疲れもあって南越百山へ立ち寄るのは取り止めにした。

越百小屋には15時前に到着。外観は昔ながらの風情で、夫婦で切り盛りする山小屋である。この日は連休明けの平日なので、小屋はさほど混雑しないだろうと考えていたが、毎日新聞のツアーとぶつかり、狭いスペースで肩を触れ合って寝ることとなった。陽が沈み、消灯となれば小屋内はまっ暗。汲み取り式のトイレも遠く、闇夜の用足しは途上で「遭難」するかもしれない、という冗談も出るくらいだ。宿泊者には無料であるが、飲み水も乏しい状態であった。

しかし、食事は前評判に違わず素敵だった。野菜サラダと天ぷら、そしておでんと量も豊富、味は抜群だった。下界の名のある食事処と比較してもひけをとらない。おそらく、数ある山小屋の中で五本の指に入るのではないか。翌朝の朝食後、出発前のひとときに主人がたててくれたコーヒーも感動ものであった。

私たちが出立すると、主人はしばらく後からついて来て、名残り惜しそうに見送ってくれた。

（平成17年7月16日～19日歩く）

条線土の斜面（空木岳～南駒ヶ岳）

▲参考タイム▼

〈16日　くもり〉（集合）JR岐阜駅9・15（貸切バス）駒ヶ根市菅ノ台バスターミナル12・20（路線バス）しらび平13・30（ロープウェイ）千畳敷13・50―乗越浄土14・30～35―木曾駒ヶ岳15・40～50―頂上木曾小屋16・00（泊）

〈17日　くもり〉頂上木曾小屋6・15―木曾駒ヶ岳6・25～35―宝剣山荘7・05～15―宝剣岳7・30～40―三ノ沢分岐8・05～30―檜尾岳鞍部10・40～11・00―檜尾岳11・40（昼食）12・30―熊沢岳13・55～14・10―東川岳15・40―木曾殿山荘16・10（泊）

〈18日　晴れ〉木曾殿山荘6・15―空木岳第一ピーク7・10～20―空木岳7・55～8・15―赤椿岳9・20～30―南駒ヶ岳10・20（昼食）11・20―仙涯嶺11・40―越百山14・00～10―越百小屋14・50（泊）

〈19日　晴れのちくもり〉越百小屋7・00―上の水場7・40～50―展望台8・05―下のコル9・00～15―福栃橋登山口9・45～50―林道駐車場10・20（送迎バス）道の駅大桑11・20（貸切バス）南木曾温泉11・40（入浴・昼食）14・00（貸切バス）岐阜駅16・30（解散）

＜地図＞

昭文社＝「木曾駒ヶ岳・空木岳」

京都北山

南桑原から村井に到る
叫越から烏帽子岳

小山誠次

今回は比良山系を離れて、針畑川沿いの南桑原から叫越に登り、正座峰（生姜峰）を往復した後、再び叫越に戻り、そこから尾根筋をたどって白倉岳連峰の烏帽子岳に達する計画を立てた。

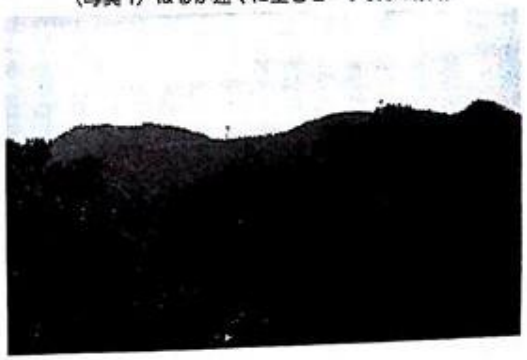
平成17年9月17日、降水確率は京都府の南北共、午前・午後を通して0％、滋賀県は南北共、午前・午後を通して10％だった。

7時45分出町柳駅発朽木学校行きの京都バスの増便はなかったので、立ち席の人がそこそこ多かった。出発時、京都市内上空には高積雲が占めていたが、塔状にはなっていないので、天気予報通り雨の心配は要らないだろう。

本日は三連休の初日とあって、平、足尾谷橋、坊村と代表的な登山口には全て停車した。そのために葛川梅ノ木には8時50分着が3分遅れてしまった。ちょうど、バス停に到着した時、高島市営バスが反対側を通過したので、筆者は慌てて降車し、前川橋を渡ろうとするバスに合図をして無事に乗り継いだ。時刻表では、京都バスが到着し、2分後に高島市営バスが到着することになっているので、本来ならうまく連絡できるのだが……。

さて、9時16分南桑原に到着。準備を整えて同20分に出発した。バス停すぐの標識は立派だが、実際の登山口に立っている標識は古くて文字が判読しにくく、うっかりしていると見逃しやすい。山道に入るまでの10㍍程は草ぼうぼうで、烏蛇（シマヘビの黒化個体）が前を素早く横切った。帰宅してから妻に話すと、不吉の前兆だと笑う。

叫越登山道はスギ・ヒノキの植林と、ブナ・ミズナラ・クヌギ・クリの自然林が入れ変わり登場するなかで、一部山腹を捲く道が危なっかしくなりつつある。



（写真1）はるか遠くに望むピーク858の鉄塔

既に実用的でなくなっているためであろう。

ひと汗掻いて標高653㍍の叫越に到着した。多くの案内書で見るお地蔵さんの姿が無い！　盗まれたというよりも、谷底に転落したのかもしれない。台座の「萬靈等」の文字が空しい。また、自然石の標石には「右くわはら、左へら」と案内されているので、霊洞谷から栃餅谷を登って来た人のための昔の案内であろう。実際に叫越は、今たどって来た道、正座峰への道、栃餅谷への道、平良への道、そして本日予定の尾根筋への踏み跡と、合計五本の道が交差している。

そこでまず、水分補給の後に正座峰（標高725㍍）に向かった。多少急ぎ足も加わって11分後に正座峰に到着した。山頂は少し切り開かれて3等三角点が埋設してあるものの、全く展望は無い。単に低山の山頂というだけである。よく見れば、東方に向かう踏み跡が確認できた。ちょっと休憩してから、叫越に戻る途中、ピーク858の送電線鉄塔が南東はるか遠くに望まれた（写真1）。今からあそこを越えて行くのだと思うと、いささか興奮する。

10時35分叫越に戻り、水分補給して予定ピッタリの10時40分、南向きに尾根筋をたどり始めた。計算上、烏帽子岳まで約3・8㌔である。首からシルバーⅢ型コンパスを掛けて、事前に進行方向を調べておいたほぼその通りに足を向ける。叫越からすぐは135度、次いで190度、さらには230度と尾根をたどり、ミ25度方向に進んでピーク685に達する。このあたりは尾根が広く、方向を定め難いので要注意だが、幸いにも目印のテープが案内してくれる。叫越からの踏み跡は、尾根の狭い所は誰もが通るので明瞭だが、広い尾根になると、途端に不明瞭となる。

ピーク685からは地図上では不明だが、極端に狭い下りの尾根になった。予定通りに進むと、谷に向かっていることに気がついたので、修正して一部山腹を捲くようにし、少しやぶを漕いで尾根上に戻った。

そのまま狭い下りの尾根の鞍部に達し、登りに転ずる箇所は、ここも峠である。11時10分着。土地の人は古叫と呼んでいる。実は出発時、土地の古老に教えて貰ったばかりの名称で、古叫のほぼ東西には、あまり踏まれていない古い道筋がある。先程の叫越からの平良への道といい、古叫を跨ぐ道といい、いつかは通ってみたいものだ。ここで5分間休憩とする。

古叫からは170度に尾根が続く。今回の計画では、叫越から古叫までを第一ステップ、古叫からピーク858の鉄塔

（写真2）近づいてきたピーク858の鉄塔

下までを第二ステップ、そこから烏帽子岳までを第三ステップと区切っていた。第二ステップを最も険路と考えていたが、実際はそれ程でもなかった。

11時28分標高720㍍に達した。山道にはヤマボウシの実が落ちているので、新鮮な実を食べようと見上げるが、残念ながら木にはもう実が一つも残っていなかった。山道は植林と自然林が交錯するなかに、造林公社の標柱が一定の間隔で設置してあるので、全くのやぶ漕ぎではなく、あまり人が踏み入らないというだけである。

11時45分ピーク795に達する直前では西側が開けていて、針畑川を挟んで経ヶ岳とヘラ谷奥（イチゴ谷山）の眺望がすばらしい。15分間程ゆっくりとその風景を楽しんだ。その後、急坂を少し登ると、いささか空腹を覚えたので、おにぎりを一個食べた。本来の昼食場所までまだこれから60㍍以上登高しないといけないので、腹加減をセーブしたつもりである。

出発後、ピーク858の鉄塔は、先程の正座峰からの下山路で眺めたよりもはるかに大きく見える（写真2）。すぐそこまで来たという感じだ。ここで標高820㍍である。

そして、12時39分ついにピーク858の鉄塔下に達した。鉄塔はピークの頂上に建設されているので、周囲の樹木が伐採され、西側の眺望は、先程のピーク795直前の地点以上の雄大さである。

ここで改めて経ヶ岳とミゴ越を越えてヘラ谷奥に続く全景を写真に撮った（写真3）。写真では、経ヶ岳の右手少し遠くに位置する三国岳（標高959㍍）が最も高いのがよくわかる。一般的に針畑川の両岸を比べると、東岸のほうが貧弱な山容といわれるが、ここからは山麓から山麓まで瞭然たる風景である。ヘラ谷奥から北東にのびる長い尾根もよくわかる。また、ヘラ谷奥から南方へ続く尾根が東向きにカーブする下端には小川集落も確認できる。ただし、白倉岳や比良山方面は視界に入らない。送電線を張る方向にのみ伐採されているからである。

新製品紹介
◆ウォーキング W◆
2気室切替式短期縦走モデル
☆32ℓ☆
*カラー　ミントグリン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重量　1550g
*素材　高密度ナイロン
*価格　¥15,750
☆28ℓ☆
*カラー　ミントグリン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重量　1400g
*素材　高密度ナイロン
*価格　¥13,650
オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac
・雨蓋内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内臓により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。
イモック山遊行くらぶ
春、夏、秋、冬、
季節を気にせず
里山・名山・高山を
訪ねます。
詳細はお問合せ下さい。
イモックと呼んでください
IMOCK.
KOBE
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号 カナゾノビル2F
TEL (078) 621－5851
FAX (078) 621－3528

（写真3）左からヘラ谷奥、経ヶ岳、三国岳

この場所で先程の昼食の続きをとることとした。青空のなかに巻積雲が浮かび、心地いい西風が汗グッショリの身体に吹き抜けるなか、カレーヌードルに熱湯を注ぎ、ゆっくりと味わった。皮肉なことに、筆者は人手の入らない自然のままの山を求めてはいるが、鉄塔建設が無ければこの眺望も得られなかったのである。

さて、約40分間の休憩後、計画より約1時間早いが、烏帽子岳に向けて出発した。見れば、ほぼ東向きに下りの山道が続いている。ここで初めて山道と表現しうる程の明確な道となった。しかし、実はこれは巡視路なのである。本日の山行計画当初は、叫越からずっと尾根上をたどるつもりだった。が、今通っている巡視路は、当然ながら尾根上を目指すものではないことを後で思い知らされる。

間もなく、東側に近接している二本目の送電線を頭上に通過した。そのまま下りの山道をたどっていると、左手遠方には百里ヶ岳とその左側には根来坂峠と、余分ながら最近開通した林道も眺められる。ここから約10㌔離れている。道端の日陰にはアキチョウジが控え目に咲いていた。

さて、この巡視路はピーク858からの尾根の北側山腹を捲くように設けられている。最初の右手のコブはわざわざ尾根上をたどらなくとも捲いて通過できるので、今の道をたどればいいのだなと早合点してしまった。しばらくそのままたどると、突然峻険な下り道となり、その後もなおくだっている。この時になってやっと、この道は巡視路で送電線下の複数の鉄塔に向かっているのだと気がついた。改めて、谷を挟んで烏帽子岳に続く山嶺を樹間よりとくと凝視すると、方向も間違っていることに気がついた。

そこで、善後策としてこのまま山腹を右回りに捲いて南方向に進めば、目的の尾根にのれるのではないかと判断し、木々の密集した山腹斜面をたどるルートを選んだ。ある程度まで進んだ所で、やぶだけなら問題はなかったのだ、斜面が急峻になって進行が困難となった。ならば、

山腹を捲かずに直登しようと考えてルートを探したが、部分的なガレ場に遭遇したので、直登も断念した。

結局、元の山腹を捲いたルートまで戻った。そのうえ、さらに元々の巡視路まで戻ったほうがいいと最終的に判断し、かなり時間をロスした。そして、やっと元の巡視路にたどり着いた。

ここまでで気分的には相当疲れてしまった。昼食後にトカゲを楽しんだのと雲泥の差である。が、巡視路上に佇んでいても埒が明かないので、とりあえず見通しのいい場所まで戻って考えることとした。逆に登り道をたどっていると、目前の樹幹に明らかな熊の爪痕を発見した。今朝方のバスの運転手の話では、朽木の市場に熊が出現したと言う。

その後、ようやくピーク858の鉄塔の一つ北の鉄塔下まで引き返した。14時57分である。何と、昼食後出発してから1時間40分も道迷いしてここにたどり着いたことになる。

ここでじっくりと落ち着いて風に当たり、まだ余裕のある飲料水に口をつけ、敷物の上に仰臥して青空を眺め、冷静さを取り戻した。約30分間の休憩中、今までのミスが全て理解できた。ピーク858までは慎重に絶えずコンパスを使っていたが、それ以後は全く使わなかったことも大いに反省した。

気分を新たにして元の巡視路まで戻り、そこから目前の尾根上を目指して植林帯を約30㍍直登すると、少し広い尾根上に達した。コンパスを見て方向を確認しながら進むと、目印のテープも視認できた。樹間からは白倉岳も時に垣間見える。本来のルートに戻ったのである。

最後はほぼ東方にまっすぐ進み、16時2分無事鳥帽子岳（標高916㍍）に達した。本日の最高地点である。

安堵した後、飲水休憩もそこそこに先を急いだ。というのも、17時37分の村井バス停発の便に乗らないと帰れなくなってしまうからである。

ここから走りはしなかったが、急ぎ足でくだった。16時5分鷹ヶ峰への分岐点に到着。しばらくして出合った大杉に軽く抱擁し、なおも先を急いだ。16時50分松本地蔵着。軽く合掌する。この手前と少し先には、スズメバチ注意の札が掲げてある。なおも急いで無事に17時5分村井バス停に到着した。

何はともあれ、強い渇きを癒すために自動販売機に直行し、清涼飲料水を1㍑飲んだ。その後、予定通りのバスに乗って18時16分、JR安曇川駅着。18時20分発の京都行き普通電車では満足と反省の時間を過ごした。

本日の教訓は、巡視路はあくまでも送電線と鉄塔を巡視するためだけの道であること、初めての道は最後までコンパスでよく確認すること、予定以上に時間短縮できても喜び過ぎないこと、以上である。

（平成17年9月17日歩く）

≪コースタイム≫

南桑原バス停（36分）叫越（11分）正座峰（14分）叫越（10分）ピーク685（15分）古叫（13分）標高720㍍（17分）ピーク795（11分）標高820㍍（15分）ピーク858鉄塔下（道迷いを含めて1時間40分）ピーク858より一つ北の鉄塔下（28分）鳥帽子岳（3分）鷹ヶ峰への分岐点（45分）松本地蔵（15分）村井バス停

≪地図・地形図≫

昭文社＝「京都北山」2万5千＝久多

夏山シーズン到来！

今年7月からの山旅ラインナップ 一部ご紹介

北海道

7/12(水)～7/15(土)～9/9(土)～ 2泊3日
大雪山縦走と十勝岳 121,000円～

8/4(金)～6(日)・9/1(金)～3(日) 2泊3日
トムラウシと十勝岳 128,000円～

7/5(水)～9/2(土)～9/17(日)～ 3泊4日
羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳 138,000円～

9/13(水)～16(土) 3泊4日
どっぷり大雪山 四色縦走 144,000円

8/26(土)～29(火)・9/2(土)～5(火) 3泊4日
日高山脈最高峰 幌尻岳 151,000円

8/5(土)～9(水) 4泊5日
幌尻岳と羊蹄山 167,000円

8/27(日)～30(水)・9/2(土)～5(火) 3泊4日
渡渉なし 幌尻岳新冠コース 151,000円

東北・越後

7/27(木)～30(日) 3泊4日
ゆったり花の鳥海山と月山 108,000円

7/19(水)～23(日) 4泊5日
ゆったり飯豊連峰縦走 120,000円

8/5(土)～8(火) 3泊4日
花の飯豊山縦走 116,000円

8/4(金)～6(日) 2泊3日
尾瀬 至仏山と燧ケ岳 79,000円

北アルプス

7/28(金)～30(日) 2泊3日
白馬岳から栂池自然園 48,000円

7/19(水)～23(日)・8/19(土)～23(水) 4泊5日
水晶岳・鷲羽岳・黒部五郎岳・薬師岳 94,000円

7/21(金)～23(日) 2泊3日
コマクサ咲く 燕岳 49,000円

8/12(土)～15(火)・8/14(月)～17(木) 3泊4日
三俣蓮華岳・鷲羽岳・水晶岳・野口五郎岳 89,000円

8/5(土)～8(火)・8/7(月)～10(木) 3泊4日
塩見岳・間ノ岳・北岳縦走 79,000円

南アルプス

7/20(木)～24(月)・9/14(木)～18(月祝) 4泊5日
ゆったり荒川三山から赤石岳 104,000円

7/28(金)～8/18(金)～9/6(水)～ 4泊5日
ゆったり光岳から聖岳 94,000円

ポーター同行プラン

7/30(日)～8/3(水) 4泊5日
らくらく 大雪山・旭岳からトムラウシ 240,000円

8/1(火)～4(金) 3泊4日
らくらく 花の沼ノ原からトムラウシ 229,000円

8/7(月)～11(金) 4泊5日
らくらく 渡渉なし幌尻岳新冠コース 240,000円

8/17(木)～21(月) 4泊5日
らくらく 飯豊連峰縦走 200,000円

その他多数コースあります！

2006年4月▶2007年3月 送料無料

総合カタログ ご請求ください！

低酸素室

高山病はこれで解決？！

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m～4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください！

●対応料（1日）（南関東地域）メンバーズ会員 ¥25,200

オーダーメイド山旅のご提案 どんな山旅も自由自在

日帰りの山歩きから海外の山旅までどんなコースもお好みのまま！

◆山の会や気の知れた仲間だけで希望の日程・コースで山旅を楽しめます！

◆バスなら希望の場所から発着できます。◆ゆっくり日程や最短日数の山旅もできます。

お見積もり無料です！お気軽にお問い合わせ下さい！

アミューズトラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒530－0001 大阪市北区梅田1－11－4 大阪駅前第4ビル7階

☎ 06－6456－3366 ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp E-mail:amtosa@amuse-travel.co.jp FAX 06-6456-3377

アルプス的山容の日本屈指の岩場を展望

谷川岳

上越

田中明

近年、夏は都市化によりクマゼミが異常繁殖しているようだ。だが、私は暑い夏のセミの声をうるさいとは思わない。この音をBGMとしてつつがなく暮らせる幸せをしみじみと感じることがうれしい。

このところ、裏庭のように足を運ぶ、京都西山のボンボン山で次第に顔見知りができてきた。

6月頃、谷川岳に行こうと声をかけられ、早速調べたところ、なかなかの山ではないか、これは行かないてはないと仲間入りした。

ガイドブックなどによると、谷川岳は標高2000㍍には及ばないが、北に一ノ倉沢岳、茂倉岳、武能岳をなし、西のオジカ沢の頭、万太郎山、仙の倉山、平標山とともに谷川連峰を形成する、わが国屈指の岩場を有する山塊である。また、谷川岳は上級者向きの山と考えられているが、10分で天神平まで運んでくれるロープウェイを利用すれば、手軽な登山コースもあることから、最近中高年層や一般登山者にも人気の山となっているようだ。

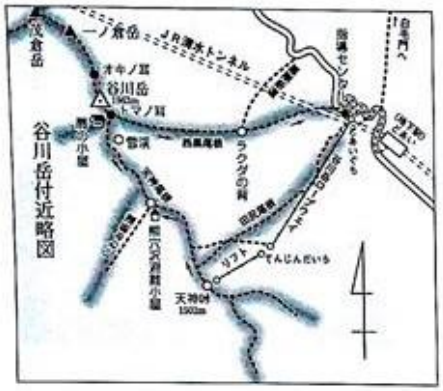
その登山は、梅雨明けの酷暑が始まる海の日の後にやってきた。しかし、私はその直前に新ハイの定例山行で尾瀬の至仏山から帰ってきたばかりで、運悪く風邪を引いていた。出発日には何とかこれなら大丈夫だろうと思えるくらいに回復したと、自分勝手な判断をしてのスタートとなった。

厳剛新道分岐から見る西黒尾根

ところがこの判断が大きく山行を狂わせてしまい、同行のAさん、Kさんお2人には多大な迷惑をかけることとなってしまったのである。

今回の行程もまた強行軍である。「前夜発日帰り登山後、夜行帰り」の青春18きっぷ利用で、これぞ究極の格安登山である。

それでなくとも山行が続き、4泊5日の尾瀬から帰り、疲労と夏バテ気味のところで夏風邪を引いたためになかなかすっきりしない。これを押しての谷川岳行きとなったのだから押して知るべしであろう。思えば浅はかな行動をとったものである。あえてこの痴態を公開して、山はかくあるべきだと警鐘を鳴らせたらと思い、ペンをとった次第で、気楽な山紀行をご笑読いただくこととする。



夜の9時過ぎに京都駅を出発、大垣駅から「ムーンライトながら」で時間で東京だが、蒸水に疲や疲の逸級で、ほとんど眠れないばかりか、窮屈な席でエコノミー症候群になりそうだ。2人から「シンドイようだから山行きは止めて帰ったほうがいいよ」と、この後も高崎、水上と乗り換えの都度、「今からでも帰り」と、しまいには強制するように注意してくれるも、こちらの山行きの心はもうどうにも止まらない。「イエご迷惑でしょうが、何とか頑張って歩きますから、お願いします」と最後は懇願する始末に、2人も仕方ないかと顔を見合わせ笑っている。

京都を出て約11時間で終着の土合駅、これがまた知る人ぞ知るもぐら駅で、改札口まで500段の階段登り。電車でくたびれ果てた身体にアップアップの階段のダンブローが始まったのだ。

地上ではもう酷暑が容赦なく展開していた。谷川岳ロープウエイ駅までの舗装歩きを最後に、ロープウエイ・リフトでようやくひと息つけた。標高1500㍍の天神峠到着までしばし休ませてもらい、ありがたい20分であった。

天神峠からいよいよ登山開始である。標高差約500㍍だからと気持ちを楽に稜線を歩き出した。キオンにヨツバヒヨドリが咲き、これからどんな花が見られるのか楽しみだなと思った。しかし、それはこの時だけだった。

身体が思うように進まないのだ。2人には「先に行ってください。マイペースで行かせてください」とお願いするが、早くも足を引っぱることとなってしまい、どんどん遅れるのがわかる。

それでも何とか執念で、咲いている種を見逃すまいと懸命である。ミヤマシグレ・モウセンゴケ・ゴゼンタチバナ・コバイケイソウ・ニッコウキスゲ・シモツケソウが咲いていたのだろうか。

木道からブナなどの木の間越しに谷川岳ピークが見え出す尾根道になると、熊穴沢避難小屋が現れた。

「大丈夫か」とAさんの声に迎えられ、こぎれいな避難小屋でひと息入れた。「まだほんとの登りはこれからだぞ、でもゆっくり歩けば雪渓に出る。すると、もう肩の小屋もすぐだから」とKさんが励ましてくれる。

木道のない急坂は暑くて息が上がりっ

キオン

ばなしで苦しいことこのうえない。それに寒さを感じて震えもくるようになり、カッパで寒さをしのぐ。どうやら熱も出ているようだ。雪渓の広がりが飛び込んできた。雪煙の舞うのを見てよけいに震えがきたようだ。道うように急登を頑張ると、肩の小屋が顔を見せてくれた。

やれやれこれで頂上に着いたも同じだ。登山者の中に2人を目で追うも姿が見えない。小屋内で昼食だろうと覗いてみると、「やぁ先にやってるよ、大丈夫か？　でもまだまだきつい西黒尾根の岩場の下りが待ってるよ、無理なら天神尾根を引き返してもいいよ」と、Kさんが矢継ぎ早にこちらの顔色を伺うように覗き込んで言うのだ。「イエ、なんとか歩けると思いますので、予定通り西黒尾根をよろしく願います」と答える声にも元気がない。「よし、せっかくだから頑張ろうよ」とAさんは言い、2人のどちらともなく声をかけ、トマノ耳まで行こうと腰を上げた。

5分ほどでトマノ耳であるが、ガスっていてあたりはホワイトアウト状態だ。オキノ耳手前のコルにはユキワリソウ・ホソバヒナウスユキソウなどのお花畑が待っていると、ガイドブックがちらっと頭をよぎったが、ヨレヨレの我が身からそんな声も出せない。

双耳峰のもう一つのピーク、オキノ耳はもちろん、一ノ倉沢の岩壁も周囲の視界がガスに奪われていたので、早々に西黒尾根に突っ込んだ。その途端また大きな雪渓で、右側にスパっと切れ落ちる斜面を見ただけで恐れをなした。

どう進むのかなと案じる間もなく、Aさんが「あの上をトラバースだ」と指差す。的確な指示に従い、何とかまずは第一難関をやりすごした。

さらにすぐ急な岩場の多い下りとなってきたが、マイペースでゆっくりくだると、少しずつ花も見つけられるようになってきた。

この尾根は天神尾根に比べ人影もほとんど無く、花はやや多くなってきたようだ。単独の先行者がどんどん小さくなり、後ろの高い所を見上げると、2～3人のパーティが小さく見え隠れしている。

切れ落ちる雪渓の残るマチガ沢を眼下にハクサンフウロ・クガイソウ・ミヤマトウキなどが咲き、さらに鎖場を越えるとイブキジャコウソウ・トリアシショウマ・ニッコウキスゲなどが見られ、今回ほとんど群落は無かったが、キンコウカだけは岩場の陰の草地で群生が見られた。疲れた身体にはこの群がるキンコウカが唯一癒されたお花であった。

鎖の緊張が続く岩場の下りだが、岩陰にノギランと共にホソバヒナウスユキソウが初めてのお目見えである。

10日ほど前に尾瀬の至仏山で見たばかりのお花であるため、この少なさでは感動もない。それより足元の危険な岩場が気になる。南側の西黒沢へも急斜面が落

ち込み、振り返れば山頂付近の岩稜が荒々しく見上げられるやせ尾根上である。

そんな岩稜に地味な黄緑色のアオヤギソウが咲き、そばには緑のなかに暗赤色でよく目立つコオニユリもちらほら咲いて、なかなかの絵になっている。

午前中はヘトヘトで苦しみばかりであったが、岩場とはいえ下り道だ。風邪気味の身体も何とかお花にごまかされているのだろうか。しんどさもいくらか楽になった。「よし、その様子なら最後まで大丈夫だろう」とAさんが太鼓判を押して励

ハクサンフウロ

ましてくれる。

だが、ほんとうのところは辛い下り道であることに変わりはない。足元に注意しながら必死で2人の後を追うように進み、ようやくガレ沢のコルで、左に巌剛新道の指導標が現れた所で大きくひと休みである。

「あれを見て」との声に振り向くと、マチガ沢を隔てたシンセン岩峰、さらに北側上部の一ノ倉沢衝立岩も薄っすらとガスをまとって姿を見せている。「すごいですね、さすが日本有数の岩場をもつ谷川岳とはあの風景なんですね」といささか興奮気味である。もちろん谷あいを蛇行する湯檜曽川の向こうには白毛門・笠ケ岳に、奥の朝日岳も天を突くように見えている。景色をしばし楽しんでラクダの背から三本のクサリが最後の緊張、後はブナやダケカンバの樹林帯に入る。普通なら気持ちのいい尾根歩きが期待できると思っていたが、この道がとてつもなく長い。風が全く通らずに暑い暑い時間帯で、疲れがどっと出てうんざりだ。

鉄塔が見えたら車道も近いとのことだったが、ようやく一ヶ所の水場に着くと、へたりこみたいほどに疲れた。水分補給でホッとしたもののバテバテで、車道に出た時は地獄を脱した感であった。

2人には「申し訳ありませんでした。私の風邪を押しての山行きにお付き合いいただき、面目ありませんでした」と詫びた。2人共「まぁよく頑張って歩いたね。つぶれることもなく下山できたのだから、よしとしよう」と笑顔を見せてくれたのが救いでもあったが、今後の大きな反省材料が残り、塩辛い谷川岳となってしまったのである。

帰路、遭難者の慰霊碑にお参りした。「谷川岳に呑まれた遭難者は700名を超える」と、ご冥福をお祈りするばかりだ。

それにつけてもこの時季では花の佳境には早かったのだろうか。

自らの体調の悪さも手伝い、天下の谷川岳で大きな感動を受けるのは容易ではなかった。

（平成17年7月21日歩く）

＜参考タイム＞

天神峠9・50—熊穴沢避難小屋10・40—肩の小屋11・55（昼食）12・35—トマノ耳12・40～50—西黒尾根—ラクダのコル14・05—車道16・15—土合17・10

＜地図＞昭文社＝「谷川岳」

標高による山の紹介シリーズ 29

松田敏男

新ハイ関西89号

標高△△89mの山

間ノ岳（3189メートル 南アルプス）
静ヶ岳（1089メートル 鈴鹿山脈）
経ヶ岳（889メートル 京都北山）
七面山（1989メートル 身延山地）

間ノ岳

大きい山が連なっている南アルプスの中でも特に大きいと感じる山は、赤石岳・仙丈ヶ岳・間ノ岳だ。その中で最も高い山が間ノ岳だ。日本第四位の高峰だ。そんな大きくて高い山なのに、知名度や人気度となるとぐんと低くなってしまう。たった4㌔しか違わないのに、すぐ隣の北岳の陰に隠れてしまう地味な存在だ。

だから私は間ノ岳がこよなく好きなのである。間ノ岳という名前も全くぶっきらぼうだ。気どりや構えるところがない。そんな間ノ岳でも派手な所が一つある。山の名簿をアイウエオ順に作ったとしたら、一番なのだ。

36年前、大学生の時に友人と4人で白峰三山（北岳・間ノ岳・農鳥岳）を縦走した。快晴の間ノ岳山頂からの北岳の姿が、たまらない程高貴だった。そして夕立後に農鳥小屋から見上げた間ノ岳の砂礫で出来ているような山体の色の変化も印象深かった。少し離れた熊ノ平付近から見る大人的風格。間ノ岳は玄人好みの名峰だ。

（昭和45年7月28日歩く）

⋀コースタイム⋁
北岳山荘（2時間）間ノ岳（1時間）農鳥小屋

⋀地図⋁昭文社＝「甲斐駒・北岳」

静ヶ岳

紅葉の名所、永源寺の前を流れる愛知川は、上流域で木地師の里の君ヶ畑がある御池川を、続いて白い岩肌が美しい渓谷の神崎川を北に南に分け、茶屋川という名前に変えて御池岳の懐に源をもつ鈴鹿山脈一の大きい川だ。

その茶屋川が鈴鹿国定公園域に入った所にある支流が、県境の主脈から流れる太夫谷だ。太夫谷出合のすぐ南の尾根の末端に取り付き・861を目指した。・861の手前には小さな池があった。登山道の記載が無いところから推し測っていた通り、美しい尾根だった。シャクナゲやイワカガミなどが濃い色で美しく咲いていた。

静ヶ岳の山頂から登山道を竜ヶ岳の方面へ少しくだって北へ鋭角的に曲がる。背の高いササ原のトラバース道だが、進んで行くうちに主稜線を歩いているという不思議な感じのする所だ。そのすぐ西側の脇にセキオノコバという凹地があって水を湛えている。話をしながら歩く人たちには全く気づかれない幸せな池だ。

セキオノコバの池

静ヶ岳付近略図

その摺り鉢のような下で、私たち5人は静かに昼食をとって神秘的な雰囲気を堪能した。（平成10年4月29日歩く）

⋀コースタイム⋁
茶屋川太夫谷出合尾根末端取付地点（1時間30分）・861の手前の池（1時間30分）静ヶ岳を経てセキオノコバ（2時間）往路を下山

⋀地形図⋁2万5千＝竜ヶ岳

経ヶ岳

京都市左京区の久多を流れる久多川は、下流域で安曇川と合流して琵琶湖へ流れ込む。だから地形的には滋賀県のほうが自然なのだが、その久多の東に連なる滋賀県との境の山々は奥深くて自然が多く残されている感じが地形図からうかがえて、以前から行ってみたい山域だった。そういう山は残雪期に入るのが一番なので、2月初旬に時高さんと2人で登った。

夜に久多の集落を北上すると、林道が雪の壁となった行き止まりに着いた。それは久多最奥の民家前だった。

翌朝、降雪中の視界不良の林道をラッセルし、経ヶ岳の南西尾根を登った。山頂が近くなった所で東に進路を変え、雪深い山頂に着いた。ラッセルに次ぐラッセルだったが、山中深くに分け入った充足感に浸ることができた。

（平成7年2月5日歩く）

⋀コースタイム⋁
久多最奥の民家（3時間30分）経ヶ岳（2時間）往路を下山

⋀地形図⋁2万5千＝久多

七面山

もう30年近く前になるが、雨予報だったにもかかわらず、行かなくてはいられない思いが募って行った大峰の山だ。結局、終始雨のなかを歩いて富士山も南アルプスの展望も論外だったが、白装束の人たちの行列と、宿泊所の敬慎院で10人以上の人たちと一枚の長い布団で寝たのが強く印象に残っている。

（昭和53年4月29日～30日歩く）

⋀コースタイム⋁
角瀬（4時間）敬慎院を経て七面山（3時間）角瀬

⋀地形図⋁2万5千＝七面山

夏の鈴鹿へブチ山行

御池岳の谷と三国岳の毘沙門谷へ

鈴鹿

長谷川　雅俊

いくら山が好きといっても、毎週ハードな山行をすると疲労が溜って意欲も萎えてくる。雨が降っても躊躇する。最初から気分がのらない時もあれば、世間のしがらみから逃れられない時もある。

かと言って山を休んでも、家でグータラしているだけで結局次の一週間は、山へ行けばよかったと自責の念にかられる始末。そういうわけで考えついたのが「ブチ山行」。

ブチ山行というのは、とりあえず山へ入って、1時間でも2時間でもよいから山のなかを徘徊することである。

世の中には、ピークを踏まなければ山登りではないと思っている登山者も多いようだが、小生の場合は、人に出会わず、野生動物と遭遇し、なにげない花を愛でる、それで十分満足なのである。

そんな山行を紹介してみたいと思う。

その1、御池岳・無名谷

今日は、以前から気になっていた谷を登る。犬帰し谷と奥村水場谷の間に三本の谷が丸尾尾根に突き上げているが、犬帰し谷の一つ下の谷に車を停め仮眠する。

5時35分出発。右岸やぶの急斜面をかき分けながら登り、すぐに旧道に出る。旧道から下りて堰堤の上にのり、周りを散策する。左岸側の植林帯に入るとフタバアオイの群落があった。

無名谷で見たフタバアオイ

こんなにたくさんのフタバアオイを見るのは初めてだ。写真を撮るが、まだかなり暗いのでデジカメの感度をISO・1600にして写す。100ミリマクロでシャッタースピード15分の1、絞り下2・8手持ち。当然ぶれてダメもとと思っていたが、パソコンで見てみたら、とても雰囲気がよく、好きな写真の一つになった。もうヤマビルが体に張りついている。

谷芯に戻って、再び登り出す。かなりの急斜面で右岸側を灌木につかまりながら、ぶら下がるように15㍍程登る。下を見ると心臓がキュッとして高鳴る。ここから落ちたらかなりヤバイ……。

6時47分、高度500㍍で二股（160度と200度）に分かれる。寒山の方へ行きたいので160度へ進み、545㍍で谷に沿って130度へ進む。7時26分、620㍍で霧雨になる。670㍍付近ではカタクリの花は終わり、シャクナゲ・イワカガミ・ツクバネ（?）・（アカヤシオ?）等が咲いている。かなりの急斜面で、しかもザレているのでとても登りづらく、すぐにズルズルと落ちてしまう。

7時57分、丸尾尾根の稜線に飛び出す。高度計は715㍍だがガスって何も見えない。尾根のくだりでは支尾根に迷い込むといけないので、コンパスを26度に合わせて下りる。8時23分、690㍍に白石の標柱があり、そこからは0度へ下りる。660㍍に炭焼き窯跡あり。

8時37分、寒山到着。高度計を665㍍から645㍍に修正する。休まず0度へくだり、605㍍で300度へ、シロヤシオが咲いている。8時49分、590㍍でスリバチ状の沢芯を200度へ下りる。このあたりが奥村水場谷の源頭部なのだが465㍍で今年初めてのチゴユリに出会う！　この花は小生のもっとも好きな花の一つで、このようなへんぴな場所でひっそりと咲いているのを見ると余計に感激してしまう。

勝手知ったるミカエリソウの群落地のなかをくだり、いつもは左岸側の急斜面を国道へ下りるのだが、今日は右岸側から下りようと試みた。やはり、後数㍍が下りられず、ここで落ちたら足首の骨折は避けられそうもないので、諦めて、もう一度登り返し、左岸を下りる。植林用（?）のかなり古いロープがあるとはいっても、ここもかなりヤバいので、慎重に草の根元をつかんで、斜面を押さえつけるようにして下りる。9時45分、無事鞍掛林道に着陸し、ホッとする。

車に戻るために歩き出し、すぐに旧道への入口があったのでそちらへ進む。

谷に出合うと、ムラサキケマンとツボスミレが咲いていた。ツボスミレも写真に撮ったがこれもよい写真となった。鹿の骨が散乱していたが、角が付いていなかったのでメスであろう。残念。

次の谷も通り過ぎ、今日登った谷に出合うと旧道は終わり。60㍍程くだると、愛車が待っている。時間は10時26分。

（平成17年5月1日歩く）

≪参考タイム≫

駐車地5・35—旧道5・54—堰堤上6・15—二股6・47—丸尾尾根稜線7・57—寒山8・37—奥村水場谷源頭部8・49—奥村水場谷出合9・45—駐車地10・26

≪地形図≫2万5千＝篠立

幻　ノ　池

その2、御池岳・コグルミ谷

今日は野暮用があり、名古屋の自宅へ朝9時までに帰らなければならないので、コグルミ谷駐車場を2時12分出発。ここで一番気をつけなければならないのは、コグルミ谷出合までの国道を、峠族の暴走車に轢かれずに歩くこと！

ヘッドライトの灯りを頼りに、コグルミ谷を右岸から入り、すぐに左岸斜面に取り付く。

このあたりは、登山道と谷底との落差が大きい所もあるので暗闇のなか、転落しないように十分気をつけねばならない。

タテ谷分岐を2時39分通過、クルマグラやマムシグサが咲いている。720㍍位の所で一度立ち止まって周りを見渡す。

実は恥ずかしい話なのだが、昨年の8月にこのあたりで迷ってしまったのだ。これは小生がよくやる失敗なのだが、常に自分がどこを歩いているのか把握している場合はよいのだが、無心に登っていて、急に我に返った時などは、「ここはどこ？」状態になって恐怖心から足が動かなくなってしまう。仕方がないので明るくなるまでヘッドライトを消して（貧乏性なので電池代がもったいない）立ったままじっと待つ。しばらくすると、周りに何となく白いものがボーと浮かび上がってくる。石灰岩の白い石や岩なのだが、これが見えるようになればホッとして歩き出せる。

今日は迷うこともなく、長命水を3時1分通過、ここから近藤岩へ至る道は荒れていて、谷へ落ちないように気を引き締めて歩かねばならない。

しばらくして谷芯と同じ高さになった所で左岸に渡り登って行くと、右手からガラガラにガレた谷が合流し、本流の谷を2㍍程の高さの垂直の岩壁になるので慎重に攀じ登る。くだりの時によく尻餅をつく所である。

すぐに835㍍の近藤岩に到着。今日の安全登山をお祈りする。谷を離れ、尾根をトラバースしながら登るが、新しく取り付けられた五合目のプレートの所でうっかり転倒してしまった。暗闇ではホワイトアウトの時と同じで、上下の感覚が無くなって体がふらつくので気をつけねばならない。

3時33分、天ヶ平に到着。そのまま法楽の小径に入ると、小鳥の第一声がピーッと聞こえる。3時52分、ツメタミズに着くと、ウグイスとカエルが鳴き出した。そのまま谷の左岸を県境稜線へ直登し、幻ノ池まで下りる間に、バイケイソウの花芽、マムシグサ・コケイランが咲いていた。1時間半程写真を撮って、5時58分に下山、駐車地に6時58分着。

さあ帰ろう！

（平成17年6月12日歩く）

〈参考タイム〉

駐車地2・12—コグルミ谷出合2・19—タテ谷分岐2・39—長命水3・01—近藤岩3・14—天ヶ平3・33—ツメタミズ3・52—幻ノ池4・05～5・58—天ヶ平6・11—コグルミ谷出合6・54—駐車地6・58

〈地形図〉2万5千＝篠立

その3、三国岳・毘沙門谷

明日はたぶん雨だろう。手軽に行ける所はないかと考えて、阿蘇谷左岸尾根でダイラの池へ行くことにした。ダイラの池なら1時間もかからないので小生のプチ山行にはピッタリ！

時山に23時37分着。仮眠して朝4時起床。いまにも降り出しそうな気配だが、欲が出てきて急きょ、毘沙門谷から登ることにする。

4時45分出発、途中、牧田川右岸にいつの間にか新しい堰堤が出来ている。五段以上ありそうでビックリする。

左手、牧田川右岸に現役の炭焼き小屋を見て毘沙門谷出合に5時37分着。ここにも現役の炭焼き小屋と窯があるが、今日は火が入っていない。360㍍にイノシシの骨が散乱しているので合掌する。右岸、左岸共に窯跡あり。400㍍にも左岸に立派な窯跡・小屋跡あり。420㍍には古い丸木橋が架かっている。510㍍にも左岸に窯跡・小屋跡あり。

7時2分、535㍍で谷が二股（右146度、左86度）に分かれ、立派な窯跡が両岸にあって雰囲気のよいたおやかな源流帯になる。左俣へ入り550㍍でも左岸に窯跡・小屋跡あり。575㍍で再び二股（右146度、左86度）になり、右股へ入る。ここにも右岸に窯跡、左岸にも立派な窯跡が二つもあった。610㍍、615㍍、630㍍、655㍍にも窯跡や小屋跡があったが、630㍍で谷は伏流になった。総じて非常に歩きやすい谷で、どうして登山道として使われないのか不思議である。少なくとも右岸尾根よりは、はるかに趣があるのだが。

8時1分、700㍍でダイラの頭、北側の峠に到着。高度計は715㍍だったのでまあ正確である。この峠は小屋が建っていたそうだが、西尾氏の本（『鈴鹿の山と谷』、ナカニシヤ出版）でも峠の名前は載っていない。

そのままっすぐ（72度）ダイラの方向に下りたが、下りすぎて阿蘇谷左岸尾根にのるのが大変だった。

8時53分、540㍍地点に到着。ダイラの池は590㍍程の所なので、再び登り返す気力も無く、すぐにくだり、時山に9時24分着。空を見上げると青空が出てきた。

（平成17年7月10日歩く）

〈参考タイム〉

時山4・45—毘沙門谷出合5・37—二股を左へ7・02—二股を右へ7・16—峠8・01—阿蘇谷右岸尾根8・53—時山9・24

〈地形図〉2万5千＝篠立

三国岳・毘沙門谷付近略図

イワタバコの谷を歩く

妙見谷から金剛山へ

木村太郎

金剛

大阪府と奈良県にまたがる金剛山は、国内では富士山に次いで登山者の多い山である。金剛練成会の登拝回数捺印を目当てに、毎日のように登る熱心なファンがいる。

登山者に人気の大阪府最高峰へ、私が担当している「ファミリーハイク」では、平成15年2月に、鞍取坂コースを歩いた。その日はお天気に恵まれ美しい樹氷に出会えた。

平成17年8月に、久し振りの金剛山山行を計画した。夏の山歩きになるので、涼感を求めて妙見谷コースを歩くことにした。

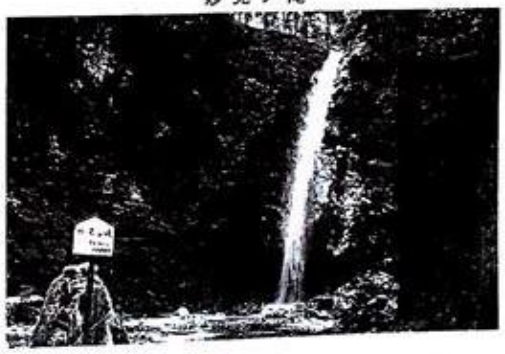
金剛山の谷では、黒栂谷道から入るカトラ谷が花の多い谷として知られている。この日歩く妙見谷は、中腹の妙見ノ滝と上流地帯のブナ林が見所の谷である。早春にはショウジョウバカマやミヤマカタバミの姿に出会える。

花が見られる谷なら、8月には夏の花が咲いているはずだ。水と花のシンフォニィを奏でる谷を歩けば、下界の暑さから逃れられるだろう。関西の近辺で、夏の山歩きができる数少ない貴重な山域といえよう。

富田林駅から金剛バスに団体割引で乗り込んで、金剛登山口で降りる。マス釣り場に向かって車道を行き、妙見谷橋を渡った所が登山口である。車止めゲートを抜けて、水音響く谷沿いの林道に入る。草むらにいろいろな夏の花が顔を見せている。

豊中市の本間さんが花の名を覚えるために主だった花の名をメモしている。この日は15種類になったという。花好きの女性メンバーは、自分が見つけた草花を指差し、その花の名を言い合う。名がわからない時は、花にくわしい茨木市の吉

妙見ノ滝



條さんの出番で、すぐに名が伝えられる。

ダイコンソウやキンミズヒキの群れのなかに、ヤブカンゾウやヤマユリが目立つ。カサブランカを美しいユリと思っている都会人に見せたい、美しい野のユリが咲く。夕方に聞くマツヨイグサは、花びらを半開きにしてほのかな香りの姿を見せている。

簡易舗装の林道が最後の堰堤で終わり、ゆるやかな斜面の草地を下りていくと、妙見谷の沢身に入る。われわれは谷を横目に、山道らしくなった登山道を歩く。徐々に高度を上げ、六段の滝が見える谷左岸の道が弓なりに曲がる場所に出る。

沢歩きの滝を高捲く岩場のロープが谷底に見えている。登山道にも断崖の道を伝う補助ロープが張られ、段差をまたぐ鉄梯子が架けられている。雪の季節に妙見谷を訪れ、アイゼンで通過したが、肝を冷やした地点である。

団体登山なので、危険を避けるため迂回道を使う。谷に背を向け急な斜面によじ登り、大廻りして谷道に戻る。右岸に転じた道は谷に接し、岸辺に線香花火が弾けたようなイワタバコを見る。

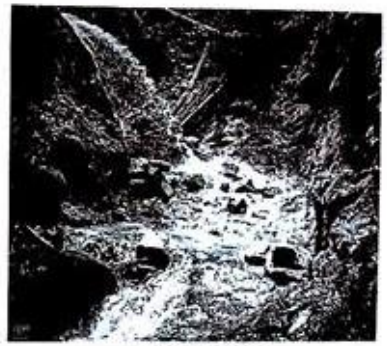
谷を渉り、落差15㍍の妙見ノ滝と向き合う広場に集まる。休憩を済せた先客の女性グループが出発した。われわれ仲間は水分を補給し行動食を口にし、三々五々に憩う。冷風扇のような滝そばの、飛沫に濡れた岩壁にはイワタバコが群生している。

滝壺を捲いて左岸の露岩を乗り越え、妙見ノ滝を行き過ぎる。ちょっとしたスリルを味わい、ロープをつかみ滝上に出る。先客の女性グループは滝上の道を登らずに、右岸に出る捲き道を歩いている。妙見谷の核心部、きらめく銀河の流れに入り込むように、われわれは滝上の水流を徒渉した。

ここからこのまま沢身に入り、飛沫に濡れて沢を溯行したなら、どんなに気持ちが好いだろうと言いながら右岸の道に出る。吹田市の岩本さんは沢歩きに意欲満々の口振り、ワラジを履いて歩きたいと言っていた。谷には極端な障害物もなく、流れる水量もさほどではなく、登山靴でも入れなくはない。

谷の流れと着かず離れずに並行している谷道は、植林帯から雑木林に変わり始める。谷岸にはイワタバコ、谷道にはクサアジサイが彩りを加えて、花々が星を流すような銀河の谷が続く。

花が大好きな生駒市の渡部さんが、きょうは一度もカメラを取り出さない。カメラの調子がよくなくて持って来ていない



妙見谷の水しぶき

と言う。谷道は少し崩れている場所もあり、固定ロープがあったりで油断はできない。写真を撮るよりも安全に歩くことが最優先なのだ。

谷道が途絶え谷本流に引き込まれ、大きい露岩に行く手をふさがれる。露岩の右端に湧き水の落ちる水場があり、頃合いなので小休止をとる。谷水は清らかだ。谷本流の源頭部が金剛山上なので、谷水は汚れて飲めないが湧き水は清らかだ。心遣いのコップが置かれていて、おいしい山の水を口にした。

バス停から妙見ノ滝まで約40分。妙見ノ滝から休憩している水場までが約40分。ここから谷源頭部まで20分程、さらに金剛山上まで20分程かかる。あと3分の1の登りを残した行程なので、一気に登るとメンバーに伝え出発した。

水場とは対岸の露岩の窪みから小滝のように飛沫が落ちている。男性メンバーの誰かが、先程の休みで帽子を水浸しにして頭を冷やしていた。さらに右岸の濡れた岩場を滑らないように登った。低山の夏はサウナにいるようなもの、半袖シャツが汗びっしょりで身体にへばりつく。谷は涼しいはずだが、それ以上に今日は蒸し暑い。

谷上流は登山道が無くなり、本流を歩くしかない。登山靴が少し濡れる程度で問題ないが、石がゴロゴロして歩きにくい。源流に近づくにつれ登りの傾斜が増し、疲れて苦しそうな男性メンバーが出てきた。山上まで一気に登るつもりだったが、無理はできないと判断し、谷源頭部に着いて小休止を入れた。

ひと息ついて見上げれば、ブナの木々が緑を繁らせている。崩壊を見回せば、女性メンバーは元気いっぱいの顔で寛いでいる。奈良市の成川さんも小柄なのに疲れた様子を見せていない。岸和田市の山中さんは友達の藤原さんと話を弾ませ、余力を残している。女性メンバーのパワーと底力には舌を巻く。

いよいよ谷を脱出する時が来た。ブナ林の山道に突入する。よく踏まれた道で急坂だが歩きにくさはない。谷から抜け出す時、この季節にはやぶを潜ぐ所が多いが、この谷は腕をまくっていても傷つくこともない。左手に千早本道が見え、ゲートをすり抜けて転法輪寺前の山頂広場に飛び出した。

私が職場にいた当時からの知り合いで、登山仲間でもある吹田市の中澤さんと村上さんは、次は北アルプスの槍ヶ岳に登ると言う。彼女たちにとって今日の山歩きは、ちょうどよい訓練になったようだ。無事に妙見谷を登り終え、自信に満ちた顔になっている。

金剛練成会の手によって去年整備された、国見城跡裏山の木立ちのなかでお昼にした。泉州方面の市街は見渡せたが、関西空港は霞んで見えなかった。涼てつく海風が吹く頃ならば、もっと見通しが良かっただろうに。

サブリーダーをお願いした長岡京市の

国見城跡にて憩う

川上さんは、名古屋市からの藤本さんと並んでベンチに腰を下ろした。奈良方面集合の山行に時々来られる橿原市の永富さんは、私のそばの草地に坐られたので話ができた。

永富さんは普段、大和高田市の前川さんと山歩きをしていると言う。新大阪駅集合の山行に誘ってみたが、集合場所がわからないと言う。少女のような気持ちの持ち主なのか、奈良から離れた場所へ出向くことが心細そうに聞こえた。

楽しいお昼が終わり、点呼して全員を確かめる。恒例により初参加者の挨拶をいただいて出発する。下山コースは、奈良県側に最近路できたという郵便道をとる。高天彦神社から葛城古道を跨ぎ、御所市船路バス停近くの「かもきみの湯」へ歩く計画である。

転法輪寺から南へ進めば、春にカタクリが群生する文殊岩屋がある。山頂に近いため、ちはや園地のカタクリよりも開花は遅い。時は真夏、カタクリは無いので、東に登り金剛山最高地（葛木岳1125m）の、一言主大神をまつる葛木神社へ廻る。

葛木神社の階段をくだり、ブナ林に吸い込まれる。冬には樹氷がきれいだった高谷から、青芝の大和葛城山を眺めた。水越峠を挟み金剛山と葛城山の二座は、熱い友情に結ばれているように見える。冬も夏もこの二山は、われわれに多彩な夢を与えてくれる。

この日の妙見谷では、岩壁を噛む流れに心の安らぎを感じた。日常の疲労感が、すっかり消えて無くなっていた。

金剛山よありがとう、感謝の気持ちを伝えて山を下りてゆこう。さすがに大阪府の最高峰、われわれの回りに和らいだ光が舞い下りていた。

（平成17年8月11日歩く）

＜コースタイム＞

近鉄富田林駅（金剛バス30分）金剛登山口バス停（15分）妙見谷橋（30分）妙見ノ滝（30分）妙見谷の水場（20分）妙見谷源頭部（20分）千早本道出合（10分）国見城跡（20分）郵便道取付（55分）高天ノ滝（10分）高天彦神社（40分）かもきみの湯（御所市コミュニティバス15分）近鉄御所駅

＜地形図＞2万5千＝御所・五條

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!
・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

ラップランド最大の原野の紹介とトレッキング

秘境サーレクを歩く

利倉正洋

スウェーデン

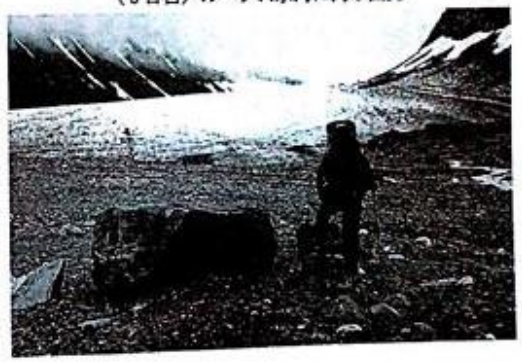
●はじめに

定年直後から始めたスウェーデン北部のトレッキングも、昨年の夏で四度目となりました。最初は日本でも比較的知られている「王様の散歩道」を2年続けて歩き、次いで「バジェランタレーデン」という140㌔のトレッキングコースを歩きました。こうして毎年歩いているうちに「サーレク・ナショナルパーク」という、手つかずの自然が残っている特別な場所があることがわかってきました。そして昨年の夏、約20日間をかけてこの原野を歩きました。予想していた以上にすばらしい経験でした。今回は、まだ日本で知られていないサーレクを紹介したいと思います。

●サーレク（Sarek）とは

スウェーデンの最北部、北極圏のライン辺りがこの国一番の山岳地帯です。そのほぼ中央にサーレクはあります。面積が大阪府とほぼ同じ1970平方㌔。全体に右下がりの菱形の形で、長辺が約75㌔、巾50㌔ほどです。

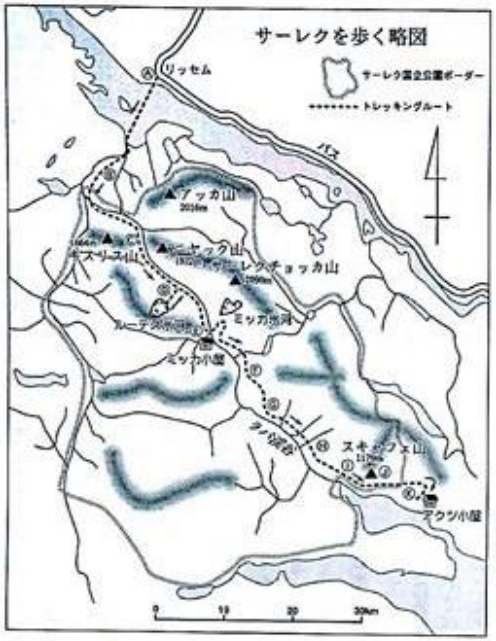
整備されたトレッキングコースは無く（踏み跡は一部あり）、山小屋もありません。大きな氷河をかかえた標高2000㍍級の山々がいくつも散らばっていて、その山々の間を歩き、流れを渡って彷徨するのです。スウェーデンでも最もワイルダネスな場所といえます。ノルウェー側からの湿気を含んだ空気が山に当たって雪や雨を降らすので、夏期は湿潤で水量も増え、降雨時の渡渉が問題となります。一部の谷の周辺に白樺林や針葉樹が見られるほかは、ほとんどが丈の低いブッシュ地帯、湿地帯、あるいは岩のゴロゴロした草地です。動物はトナカイやムース（ヘラジカ）、大鷲などの猛禽類、レミング と呼ばれる山ネズミがいます。昨年たまたま生誕百年だった国連二代目事務総長のハマーショルド氏も幾度かここを訪れているようです。



（5日目）ルーテス氷河に向け出発

●きっかけ

一度歩いてみたいと思いつつ、なかなか機会を見出せずにいました。ところがよくしたもので、一昨年、バジェランタレーデンを歩いた時に、中年のデンマーク人（ヘニングという）と知り合いになりました。偶然に私と同い年（1942生）の彼は30代の頃から毎年のようにサーレクを歩いていたのです。もうこれは願ってもないことです。私のほうから彼に翌年のサーレク同行を約束させたというわけです。



●計画と準備

さて、山小屋はありませんから、テントと食料が必要になります。そこで、約20日間の行程を三つのパートに分け、各パートの終わりにサーレクの外側に出て、山小屋で食料を補給することにしました。

ヘニングは比較的メインコースをパートⅠに持ってきてくれました。それは、サーレクの北端から入り、約10日間をかけて東南へ斜めに抜けるというものです。距離はざっと100㌔あります。途中の氷河に寄ったり尾根を越えたりしますが、大体はゆるいアップダウンの原野を歩きます。食料は1日600㌘として、約7㌔を持てばいいわけです。パートⅢは日程調整用として、帰りの飛行機に確実に間に合うようにしました。というのは、大雨の場合、渡渉する川の水嵩が減るまでテントでチンすることが多いからなのです。実際、パートⅡでは新雪を見る嵐が吹きすさび、3日間テントで寝ていました。歩く時期は8月の中後半としました。これは、川の水量が減ることと蚊が少なくなるだろうという、彼の配慮からでした。

これまでの山小屋泊まりとはかなり荷物の内容が変わりました。新たにテント・寝袋・ザック等を購入しました。ザックは余裕をみて95㍑を奮発しました。重さは最大で25㌔くらい、食料が減ってくると19㌔程度になったと思われます。新しい装備のテントの使用訓練を兼ねて11月と5月に京都の北山から2泊3日かけて小浜まで歩いてみました。荷物は重くて

（7日目）ラパ渓谷を見下ろす台地にて

も気分はルンルンでした。

●トレッキング記録（紙面の都合上、パートIのみを要約します）

いつもは関空からストックホルムに飛ぶのですが、今回はヘニングの住むボーンホルム島（スウェーデンのすぐ下、デンマーク領）へ行きました。数日間滞在した後、8月9日の朝、北へ向けて出発。そしてその日の夕方、ストックホルム駅からイエリーバレ駅までの約14時間の夜行列車に乗ったのです。

1日目、A（リッセム村）→B点（小川の辺、ヤッカヤッケン）

イエリーバレ駅（バス）→リッセム村（ボート）→対岸。食料満タンのザックがズシリと腰にくる。バジェランタレーデンを約8㌔歩き、ゆったりと流れる小川のあたりに着く。ラップランド初の幕営は蚊とブヨの攻撃で始まった。

2日目、B→C点（ニヤック山の手前）

歩くこと約6㌔でバジェランタレーデンと別れ、いよいよサーレク国立公園に入る。氷河から流れるミルク色の川に沿って広い土手を行く。わりとしっかりした踏み跡がある。さすがメインコース。右手にキスリス山（1664㍍）の氷河が、行く手には、おむすび形のニヤック山（1922㍍）が徐々に近づいてきた。とにかく広い。空が大きい。くもり。夕方ヘニングが急にシャリバテになった。小さい流れでマットを敷いてコーヒーを沸かす。英語では「シュガー・コールド」と言うらしい18時、右手側の山の斜面から流れてくるセセラギの岸辺にテントを張った。ラップランドは水が豊富なのでどこでもテントが張れてしまう。夜、今回初めて持参した短波ラジオでNHKが受信できた。

3日目、C→D点（ルーテス氷河へ2㌔の石河原）

10時出発。昨日に続き広い草原を行く。途中いっしょになった年配のスウェーデン人3人グループと風を避けて窪地で昼食。トナカイの乾し肉を分けてくれた。やがて幅の広い河に着く。水が白く冷たい。本日一番大きい渡渉だ。ヘニングが4㍍の細引を出した。2人の手首を通せるよう両端がワッカになっている。無事渡り終えたころ曇ってきた。踏み跡を離れ、昔氷河が運んだであろう岩がゴロゴロした（デブリス）広い河原をしばらく登り、テント地を探す。夜、雨になった。

4日目、D点で停滞

霧雨のため沈殿。全食料のチェック。

（8日目）ビエラチャツカ山のコル

5日目、D→E点（ミッカ小屋）

テント内8度。昨夜はけっこう寒く感じた。上部にあるルーテス氷河に向けて出発。いくつかのモレーンを乗り越え、10時過ぎ氷河の先端にのる。手前30㍍位はヘタをするとふくらはぎまで潜る泥沼であった。表面の雪を取り除くと青氷が現れ、ちょっと感激。来た道を引き返す。先日渡渉した河までくだり、その河に沿って進む。霧雨。トナカイが時々遠望される。左右に氷河をもった山々があり、その間の広い盆地を進むといった感じだ。

サーレクの中心ポイントとなるミッカ小屋に到着。緊急電話用小屋（無線）と自然観測小屋（ドアはロックされている）が隣接して建っている。すぐそばの濁流峡谷に架っている橋（冬期はヘリコプターで取り外す）を渡らなければ各所に行けないのである。美しい盆地の感じだ。少し青空が出る。

6日目、E点（近くの山と氷河へハイキング）

すぐ横の1217㍍のピークへ空身で登る。登るにつれて周囲の山々が見えてくる。ピークからは向こう側のミッカ氷河へくだる。ゴロ岩斜面のトラバースを繰り返し、やっと氷河の舌にたどり着く。氷河の両サイドの崖を見ると氷河が徐々に後退している様子が覗えた。

7日目、E→F点（ビエラチャツカ山のコル）

くもり。9時過ぎ出発。急な流れの渡渉後、川の土手で昼食。後から来た4人組が渡りやすい場所を探して上下をウロウロしている。草原を行く、池塘が多くワタスゲが揺れる。やがて左手のビエラチャツカ山（1573㍍）を捲く形で徐々に高度を上げる。身の丈のブッシュと霧雨、ザックが大きいので体力を使う。眼下にラパ渓谷のデルタ状の流れを見下ろす台地に出て大休止。河はウネウネと彼方まで流れている。かなりの急斜面（落ちるとヤバイ）を直登して広々とした鞍部（コル）に到着。気持ちのいい草地でどこにでもテントが張れそう。2人共何度も寝転んで一番良い場所を選ぶ。

8日目、F→G点（ラパ渓谷を見下ろす白樺斜面）

朝、動物の足音がするのでベンチレータから外を覗くとトナカイの群れだった。ゆっくりと出発。やがて広い山上湖、湖面がキラキラ輝く。ゆるやかな峠を越えると急な下りとなり、はるか下方に再びラパ渓谷が見下ろせる。双眼鏡で見ると砂州の間の池でムース（ヘラジカ）が水草を食んでいる。森のなかにも数匹が小さく見え隠れする。このあたりはサーレクでも野生動物の楽園であり、貴重な場

（12日目）アクツ小屋からのスキャフェ山

所とされている。ラバ渓谷はサーレク最大の流れで、所どころにあるデルタの模様は芸術的でさえある。下りの途中、低い白樺の間にテントを張る。周りは一面のブルーベリー。ビタミン補給にとたっぷり食べる。

9・10日目、G→H→I点（ラバ河岸）

この2日間はラバ河沿いに森の道を歩いた。特にきつい登り下りもなく、左からの流れを幾度となく渡渉。濡れた靴下をザックに引っ掛けて乾かす。二晩とも白樺林の空地でキャンプ。蚊除けと燃料節約のために焚き火を楽しんだ。

11日目、I→J点（スキャフェ山の麓）

雨が止んだのでテントをたたんで出発。河を離れて湿地帯を山に向かって進む。もう踏み跡は全然無い。徐々に傾斜がきつくなってきた。最後のほうは下生えをつかんでよじ登る。森林限界になり、やがて台地状の尾根に到着。きつかった。テント地を決める。すぐそこに鎌の形をしたスキャフェ山頂（1179㍍）が見える。星が輝く。今夜は冷えそう。

12日目、J→K点（アクツ小屋）

8月21日、明け方マイナス2度まで下がった。晴れ。ここは1000㍍の標高。10時出発。トナカイが険しい岩山のあちこちに散在している。スキャフェ山頂への分岐に着いたが、今回は登らない（片道で30分くらい）。ここでのんびりと甲羅干しをする。ヘニングは携帯電話を試みる。しばらく広い稜線を歩いた後は小屋までの長い下り。18時アクツ小屋到着。久しぶりに多くの人間に会う。なんだか懐かしい。缶ビールを買ってヘニングと乾杯！

●あとがき

この後、パートⅡ・Ⅲを10日間かけて歩きました。パートⅠとはまた違ったおもしろさがありました。旅の終わり近く、9月1日の深夜にテントからオーロラを見ることができました。小さいものでしたが、生まれて初めてのオーロラはまことに感動的でした。

北欧専門の旅行社もありますので、ぜひ皆さんもトライしてみてください。ラップランドのトレッキング全般については、グーグルでキーワード「北欧トレッキング」と入力していただくと、私のHPが出てきます。参考にアクセスしてみてください。

（平成17年8月10日～21日歩く）

アムド・カム地方の山旅

アムネマチンと黄河源流

内田嘉弘

中国・チベット

2005年5月20日から、チベットのアムド・カム地区を旅してきた。アムドは青海省から甘粛省にかけて、カムはチベット東部から四川省、雲南に跨る地域である。

連続する4000㍍級の山々

5月28日、朝食はホテルを出てバザール近くの食堂で済ませる。共和のバザールには香辛料・干ブドウ・野菜・果物などを売る露店が並んでいて、近くの店では菜種油の搾り機が置いてあった。朝食後、国道214号線で西へと向かう。しばらくは山間の道を行く。緑が少ない。成都から北上して紅原高原を走り、合作から夏河、同仁に抜け、25日西寧に入った。27日は、青海湖の鳥島へと向かったが、鳥インフルエンザで鳥島への分岐点でストップさせられたので、引き返して共和まで行く。

紅原高原などで見られた黄色い花は見かけなくなった。山の斜面には羊の放牧が続いている。

山間の道を抜けると5000㍍級の雪山二山が右奥に見えた。道は一直線に走り出し、360度平原が続くようになった。10時河卡鎮通過、左に雪山が見える。10時40分、3900㍍の峠に着く、アムネマチンは雲のなかで望めないが、40

アムネマチンⅡ峰

00㍍級の前衛の白い山々と、手前には草原が広がっている。くだると河卡山南の分岐点で、国道214号線を離れて左に入る。この道はアムネマチンの麓・瑪沁へ向かう近道だ。約37㌔走行して興海の街に着いて昼食にしたが、街の先にある橋が壊れていて通行不能との情報を得て、来た道を戻ることになった。

道端にはアヤメに似た小さな花を見かける。アヤメの原種だろうか。分岐点に戻り、国道214号線を西へ走ると前方に鋭い雪峰、左にも雪山が続き出した。姿の良い山が現れるとそのたびに車を止めてはカメラを向ける。進行方向に見えてきた雪峰は格尓木崗（5038㍍）と査子崗日（5256㍍）であろう。黄溝河を渡り左上へと登って3675㍍の峠に着く。振り返ると草原と山々が広がり、峠の左に4473㍍の尖った峰が印象的だ。峠をくだって水塔拉河沿いに走ると、先程の4473㍍峰から4578㍍峰、万石山（4965㍍）、雅爾吉（4960㍍）、扎曲儿崗（4770㍍）、太郎山（4483㍍）、尖山（4930㍍）の雪峰が水塔拉河の源頭へと続いており、また、この川の反対側にも4415㍍峰、4465㍍峰と雪山が並んでいる。

3972㍍、3978㍍のゆるい峠を越えてオラレ峠（4377㍍）を越えると温泉（これは地名）に着く。熱水招待所の看板が掲げてあるから温泉なのだ。小型車の数は極端に少なくなり、大型トラックばかりとすれ違う。曇り空のなか、4331㍍の峠を越えると雪が降り出した。くだると雪もやみ、湿原の奥に霞んで湖が見える。興海（苦海）と地図に書いてある。もう周りには雪は見られなくなり、草原にはキャン（野性のロバ）が5、6頭動いていた。やがて国道214号線と瑪多への分岐点花石峡に着いた。今日はこの分岐点にある雪山賓館泊まりだ。

アムネマチン

5月29日、朝7時の気温は6度、水溜りは凍っていた。花石峡よりマイクロバスは南への舗装路を行く。左を流れている川（東曲）も凍っている。遡るに従って東曲は湿原になり雪原が広がってきた。前方には4958㍍級の雪面が朝日に染まっている。この山の麓を通り過ぎて左岸に渡ると、岩峰の裾を捲くようにして登りになり、未舗装となって沁馬雪山峠（海抜4677㍍の標識）を越える。

左にある雪山は雪煙を上げているから上空は風が強そうだ。道は山襞を切ってうねうねと曲がりくねっている。タルチョが旗めく仏塔を過ぎ、左奥に真っ白なクジラの背のような長稜が見えた。アムネマチンだ。この付近であんなに大きな山塊はアムネマチン以外は考えられない。やがて道は下りになり、右下に湿原が現れた。長い長い下りが終わって昌麻河に出合って左へ「瑪沁」と出て、峠まで28㌔とある。道標に従い左に折れると車一台しか通れない道で、河原を走るなどの悪路を行く。右の谷奥に吾和美奈（5418㍍）の岩峰が望め、付近の河原には小さな穴が数多く見られ、ナキウサギが時々姿を見せていた。そして、それを狙う猛禽類が上空を舞っているのをよく見かけた。道はデコボコ道で悪路が続くが、ドライバーは見事に乗り越えて行く。やがて道は右の方へと廻り込み支尾根を上るようになり、阿尼瑪卿峠（4760㍍）に着いた。ここからアムネマチンが見えるはずだが、北にある山が邪魔をしていて望めない。身仕度を整えて北にある山へと向かう。北側の谷に一旦くだり、

谷を跨いで沢沿いに登る。台地に抜けると湿原で、巧く凸部をたどらないと水が染み出すから、注意して上部の雪原（4900㍍）に抜け出た。北方目の前に笠ヶ岳のような雪山が現れた。アムネマチンⅡ峰（6268㍍）だ。本峰（6282㍍）は残念ながら雪のなか……。早速スケッチブックを拡げてエンピツを走らせた。少し興奮気味になりながらも二枚描いた。

アムネマチン主峰は1981年上越山岳会が、Ⅱ峰は1984年に長野県山岳協会と中国合同登山隊が初登頂している。

黄河源頭の記念碑

下山して昌麻河まで下り、沁瑪雪山峠へ上る頃に雪になり、来る時に見えていたアムネマチンの長稜は姿を隠していた。16時過ぎに花石峡に戻り、国道214号線を南へと向かう。左に見える黄河は湿原のなかを大きく蛇行している。広い湿原の水溜りにはオグロヅル・アカツクガモがいる。やがて「瑪多」と道標が出て、右折して3㌔ほどで瑪多に着いた。県政千部招待所に泊まる。

黄河源頭

5月30日、8時20分、ジープ三台で出発する。黄河源流へはマイクロバスでは無理でジープでなければ行けないのだ。街を出るとすぐに未舗装となり、草原を行く。道標も無い轍だけの道は、地元のドライバーでないと走れない。左に吟江塩池が見える。そこには中国最初の発電所がある。野生のロバが30頭程と野生の馬1頭、キツネ（サファと言っていた）1匹を見かける。やがて、光り輝く碧水の鄂陵湖の湖岸を走るようになる。湖岸の緑の斜面には白い羊の群れが草を食み、それが空の間に動いているからよいカメラアングルである。草原には10㌢ほどの小さな穴があちこちに開いている。ドライバーの話では、ユキネズミの穴で、その毛皮は高く売れるのだと言っていた。私はナキウサギだと思っていたのだが……。上空にタカなどの猛禽類をよく見る。

多卡寺院に着くと仏塔の上にケアシノスリの営巣が見られた。雛がいるようで親鳥が時々戻ってきて餌を与えているようだ。この寺院の裏から廻り込むようにして丘へと向かった。ジグザグの道をジープは登って行くが、急坂は登り切れずに登り直しを繰り返しながら山頂に着いた（13時）。標高4440㍍の頂にはヤクの角をデザイン化した長江・黄河源頭記念碑が建っている。山頂からは東に鄂陵湖、西には扎陵湖の青い湖面が広がり、北方には馬尼特（5400㍍）の山並、西方には三角錐の雪山・扎加（5280㍍）が、東方には5047㍍峰が望める。

14時過ぎに源頭を後にする。私の乗っているジープは不調、ラジエーターが漏れているようで、時々止まっては水を足したり、鄂陵湖に下りて行っては水を汲んできたりしたので、最後尾になり、夕方近くに瑪多に戻った。

（平成17年5月28日～30日歩く）

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑱
越部駅～芦原峠～壺阪寺～壺阪山駅

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月18日［＝1809・2・2］

前夜より雨。逗留。終日雨、夜は止て大曇。

文化5（1808）年12月19日［＝1809・2・3］

朝曇天。6ッ半頃［7時］、越部村出立。越部村、土田村（此所も紀州殿領）界より初［メ］、土田村、桧垣本村（池田支配所）、芦原村（岡上・此村へ印杭を残し）、壺坂寺（西国順礼札所）迄測［ル］。それより高市郡高取領清水谷村、子嶋村を経て、土佐町迄測［ル］（即、植村駿河守城下町）、止宿紺屋久右衛門、着後植村駿河守内・宮崎丹治、大庄屋久保市兵衛・池田伊兵衛、町年寄池田保兵衛・鈴木久右衛門等出る（池田伊兵衛止宿詰）。〈伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

●実施日　平成13年11月20日㈫　晴れ
●参加人数　14名

天気が良いばかりでなく、11月下旬とは思えない暖かさ。9時45分近鉄越部駅を出発、すぐに国道169号線に出て左折（西進）し、国道を歩く。歩道が無く、トラックやダンプなどの大型車が飛ばすので危険を感じる。すぐ道路の南側に、I⊡147・3136㌔の標石あり。越部と土田は江戸時代、紀州領だった所。国道370号線との接点よりなお国道沿いを北上し、芦原トンネル手前の「道の駅」で休憩とするも、売店等は「本日休業」。再び国道をさらに北上し、トンネル手前から旧国道へ入る。

江戸時代の道は芦原峠へまっすぐ付いていたらしいが、今はゴルフ練習場があって道は迂回している。峠の登り口のゴルフ練習場あたりに大淀町と高取町の町界がある。峠を境としない珍しい境界となっている。峠まで人家があるので道は舗装されている。この地点に11時40分着（海抜290㍍）。この先、道が無くなるので庭先を借りて昼食とする。

12時30分出発、道無き旧国道へ入る。

峠で写真撮影。この芦原峠越えは、トンネルが出来る昭和36年までバスが走っていた由。草はぼうぼうと生えているが、片側が石垣になっていて、幹線道路であったことを思わせる。もっともNTTの電話線は杉林のなかを直下しているので、昔、歩道はそちらに付いていたのであろう。道はついに無くなり、上田先生と上村氏が持参の鎌で、蔓や雑草を打ち払いながら進む。それでも左側には防護石垣があって、これに沿って行けば間違いなく新道に出られる安心感を与える。この間1㌔余だが、約40分要して芦原トンネルの北側へ出た。

再び国道169号線を北上、700㍍位行った所で北北東への道に入り、壺阪寺への道をたどる。バスの走る舗装道路に出て、南南東へ歩いて壺阪寺着14時15分。門前で写真を撮って14時30分出発。

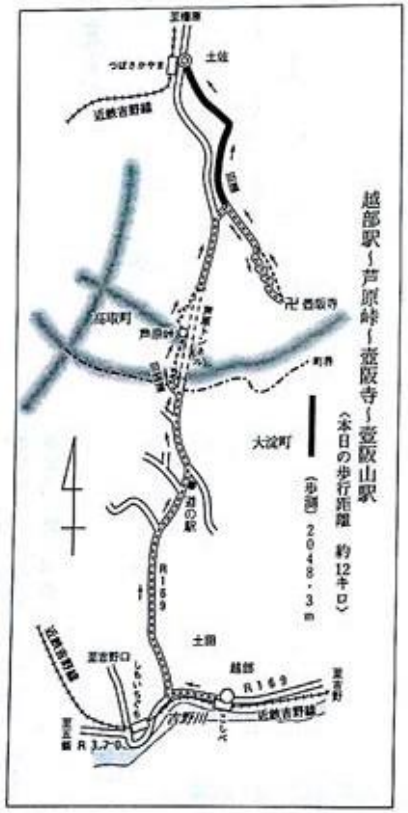
壺阪寺はいま紅葉が美しい。もうすぐ落葉する最後の美しさだろうか。帰りはバス道を右折して駐車場脇の旧道をくだる。いったんバス道には出るが、国道169号線の手前から右折して旧道に入り、細い街並の中の道を土佐の方へ歩く。旧道の入口から歩測開始。壺阪山駅前まで。

途中バイクに乗った森田氏に出会う。「バイクには何とか乗れるが、歩くまでには至らぬ」と言う。。歩測を終えて壺阪山駅着15時30分。

歩測は2㌔と少し距離が長かったためか、名人も出ず残念だったが、ほとんど全員が達人域であったことは喜ばしい。新たに拡幅された所以外、国道とはいえど片側歩道さえ無い。採算のとれない高速道を造るより、このような危険な国道の改善を、まずやってほしいと実感した。

（記録・伊藤　晋）

〈地形図〉2万5千＝吉野山・畝傍山



旧道芦原峠（左右切通し）にて

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑲

壺阪山駅～欽明天皇陵・吉備姫王陵～見瀬町～久米寺～橿原神宮～今井町～八木町～桜井市戒重町～桜井駅

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月20日［＝1809・2・4］

朝晴曇。六ツ半［7時］前、高市郡土佐町［上土佐のこと］出立。同所より初［メ］、土佐村［下土佐のこと］、勧学寺村（三ヶ所家続、即、高取領）、真弓村、御園村、平田村（此村に文武天皇御陵あり。同村に石にて製せる猫の形ににたるもの四ツ五ツあり、古物なり。又、鬼の雪隠、鬼の真那板［まない］という石郭あり）、見瀬村（是村迄高取領）、五条野村（植村駿河守御預所、此所にも御陵と見る石郭有と）、久米村（神保右近知行所）、久米寺（雲禅山東塔院久米寺古義智山）、石川村（高取領）、畝傍村（神保右近知行所）、持統天皇の御陵あり（小社を立置）。大久保村（神保右近知行所）、山本村（同上）、四条村（高取領）、神武天皇の御陵あり（小社を立）、今井町（高取御預所、家八百軒余。此所にて中食）、南八木村（高取領）、それより十市郡北八木村（木村宗右衛門御代官所、右側は南八木、左側北八木也）、木原村（小堀中務支配所。此村は天神山を持、天神山は耳成山也。街道より耳なし山へ左三町ほど）、山ノ坊村（藤堂和泉守領分、耳なし山へ五六町）、石原田村（木村惣右衛門御代官所）、西ノ宮村（藤堂和泉守領、水野遠江守知行、佐藤美濃守知行入会）、大福村（藤堂和泉守、同佐渡守領、多賀左衛門知行）、新堂村（内、岸上村、藤堂和泉守領、横内村、多賀左衛門知行入会）、それより式上郡戒重村（織田左衛門佐領）迄測［ル］。止宿石井宗八郎（酒造屋にて領主より名字帯刀、別宿油屋善治郎なり。着後織田左衛門佐内、馬場磯右衛門来る。午前植村駿河守郷同心、同御預り所同心案内。此夜雨。佐久間達夫編著より引用）

●実施日　平成13年12月11日㈫　くもり
●参加人数　14名

近鉄壺阪山駅9時10分集合。前日の小雨も上がり、鉛色の冬空で寒い一日になりそう。足の怪我で16回より休んでいた森田さんの参加は嬉しく、特に地元の人なので心強い。15分出発。国道169号線を渡り、土佐街道を北へ町中を通り抜け、また国道に合流し北上。高取高校の表示を見て旧道に出て高取川に沿って歩き、あすか駅前広場で休憩した。

駅前の国道を渡り、国道に沿って、歩道が狭く民家の軒下を歩く（右手に榎木龍神の碑と「阪合村道路元標」あり）。そして、大きな道標「左　なら　京　大阪　久米寺　たへま　法里う寺　たつ田」を見、300年の伝統を誇る〝みみなし地蔵尊〟（石仏は耳が無い）看板を過ぎ、欽明天皇の石段を上り、吉備姫王墓の猿石（天智・天武天皇の祖母の墓域内に四体、これは江戸時代に付近の水田から発掘されたもの）を見る。元の道に戻り、白橿団地を左に、丸山古墳を前に見て、国道169号線を渡り見瀬町に行く。

国道を渡ってすぐ歩測開始。久米寺

（別格本山雲禅山久米寺）まで約1・5㌔。

久米寺にて久米仙人の説話と説明があった。北門より出て、近鉄南大阪線を渡り橿原神宮境内に重文・旧織田屋形（橿原神宮文華殿、柳本藩織田家屋敷表向御殿、後、柳本小学校に使用）を見て、神宮に参拝。壬午の絵馬（上村淳之氏画）の横で、私と北之間さんで撮影してもらう。北門を出て畝傍山登山口を過ぎ、航空母艦瑞鶴之碑を左へ、若桜友苑にて昼食にした。（12・05着）。

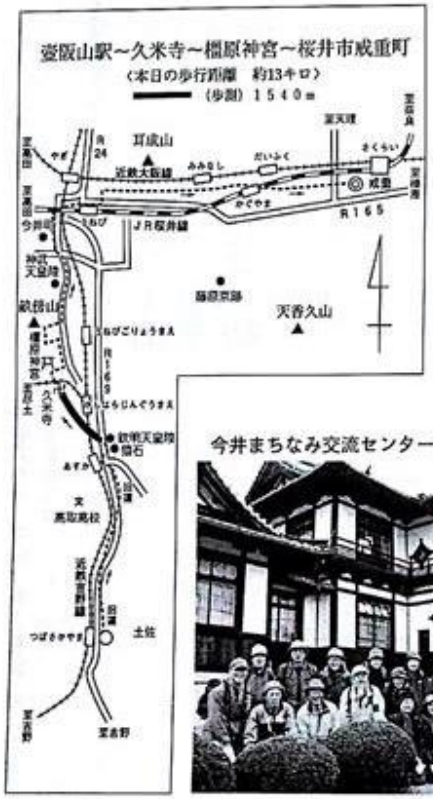
12時45分出発。外参道に出て、神武天皇陵・宮内庁書陵部で説明を聞き、綏靖天皇陵前を通り国道24号線・165号線の交差点を渡り今井町に、今井まちなみ交流センター華甍（旧高市郡教育博物館）にて休憩。

13時40分出発。今井町ならではの髪技屋（散髪屋る美＝業界紙にも掲載されたとのこと）、道標「東　はせ　いせ」、すぐ正面のたこやき屋の横にエノキの巨樹あり（裏に太神宮の石灯籠と「今井町道路元標」）。飛鳥川に架かる朱塗りの蘇武橋を渡り、JRの高架橋の下を通り右折、近鉄八木西口駅の踏切を渡り東へ、JR畝傍駅前に橿原神宮の大きな石標あり。駅には天皇陛下の迎賓所（休憩所）がある。延命院を過ぎ左折し、中津道と大阪街道・伊勢街道の交差しているあたり、八木札の辻旅籠街の面影があり、二階には格子が入った家が残っている。

東へ直進、国道165号線を渡り米川を過ぎ、弘法大師が〝しゃくり〟が止まらず困っていた時に助けた神を祀っている所あり（喉にもきくとのこと）。東へ東へと歩き、近鉄耳成駅への分岐で休憩（森田さんの足の具合を確認）。西ノ宮神社を過ぎ、JR香久山駅前、近鉄大福駅分岐を過ぎると、今日の終着桜井市戒重町に入った。酒造屋の石井宅はわからず。寺川を渡る（磐余橋か？）橋詰に大きな祠があったが、何を祀るかはわからない。16時20分着。全員無事に歩けたことに感謝してここで解散。（記録・上村浩弱）

〈地形図〉2万5千＝畝傍山・桜井

壺阪山駅～久米寺～橿原神宮～桜井市戒重町
〈本日の歩行距離　約13キロ〉
（歩測）1540m



今井まちなみ交流センター「花甍」前にて

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑳

桜井駅～安部文殊院～桜井駅～横大路～旧伊勢街道～脇本～黒崎～十二柱神社（出雲）～吉野館（長谷寺前）～長谷寺～長谷寺駅

上田倖弘

●実施日　平成14年1月22日㈫　くもり
●参加人数　16名

桜井駅に16名集合。低い雨雲、寒風、雨滴のなか9時15分出発。横大路に出て西進して仁王堂を通り、戒重を南下する明日香道との交差点に着く。今日の伊能ウォークの出発点として9時30分出発し、東に返す。数分で寺川の支流の中に、川幅を3対2に分けた位置に建つ「分水記念碑」を発見した。水不足の大和で先人達の苦労と知恵に感銘する。9時50分、安部文殊院に着く。上田先生から文殊院の縁起を開き、本堂、西古墳、晴明堂等に参拝し、花壇に造られた干支の牛を眺めながら休憩。10時10分出発し、南西300㍍の「安部史跡公園」を見物する。法隆寺方式の伽藍配置だったが、松永禅正の放火で灰燼、今は塔と金堂の土壇のみとなっている。なお、ここは忠敬時代には未発見のため本人は立ち寄っていない。

10時30分に出発し、桜井駅に一旦帰りトイレ休憩。

11時に駅を再出発し、横大路を東進する。真正面に横大路新設工事の折りに進

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月21日［＝1809・2・5］

朝曇晴。6ツ半［7時］前、戒重村出立。同村より初［メ］、谷村（桜井村内、津領）谷村枝二王堂迄測［ル］、印杭を残し、阿部村（津領、満願寺領入会）字長門村、茶屋本村、大門村、八町村、安部山満願寺（真言宗、南都東大寺末。坊舎十三院、御朱印五石、本尊文殊菩薩）を測［ル］。又、二王堂より初、去十一日［伊能ウォークIN やまと12で「桜井村制札際迄測残印をなし（後日初瀬へ測量繋）」とあるのを参照］残杭へ繋ぎ、それより式上部外山村（津領）、慈恩寺村（池田仙九郎御代官所）、脇本村（高取御預所）、黒崎村（同前）、出雲村（池田仙九郎御代官所）、初瀬村（高取御預所　長谷寺領）迄測［ル］、九ツ［正午］頃に済。止宿年寄伊賀屋善五郎（山添氏）、別宿玉屋新兵衛。着後初瀬観音へ参詣。豊山神楽院長谷寺真言新義惣本山、御朱印高五百石。本坊、小池坊にて宝物を一覧す。寺中筆頭六坊（金蓮院、月輪院、慈心院、慈眼寺、梅心院、歓喜院）。此日九ツ頃雨、無程止。それより曇天、夜も曇る。此夜長谷寺使僧悟心宿へ来る。此僧下総組にて学察三の側の頭（巡山十三四年、出生は江戸目白産御徒津田茂十郎の由）。

〈伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用）

路目標にしたといわれる外鎌山が空いっぱいに見える。やがて忠敬が初瀬測量のための「残杭」（01・5・15）の場所を確かめさらに進む。横大路の道幅は5～6㍍位だろうか、両側は古い家並で小売店も多くホッとする眺めだ。

栗原川橋を渡る。やがて右側に「茶臼山古墳」が見え、正面はいつの間にか端正な三角の朝倉富士（外鎌山の別称）。宇陀ヶ辻で国道165号線に合流し、近鉄の鉄橋下をくぐると三輪山が目の前に見え、視界がパッと広がる。国道を横断して、旧伊勢街道に入る。

出発以来霧雨が降ったり止んだり、それに北西の強風も絡んで露出部は冷たいが、歩いても汗ばまず、むしろ快適。11時45分脇本の地蔵堂に詣る。堂横に庚申塚がある。集落の道幅は車二台のすれ違いは無理だろうが、両側の家並は古く常夜燈も数基残り、賑わった街道の面影を残している。11時55分黒崎の地蔵堂前を通る。薄日が差してホッとするも東の間、雨足が強くなり、フードや傘の数が増える。12時05分流地蔵堂前通過。12時07分国道を横切り出雲の十二柱神社に向かい12時10分着。先生の説明あり。境内には「武烈天皇泊瀬列城宮（なみのきのみや）跡碑」「野見宿禰五輪塔」がある。

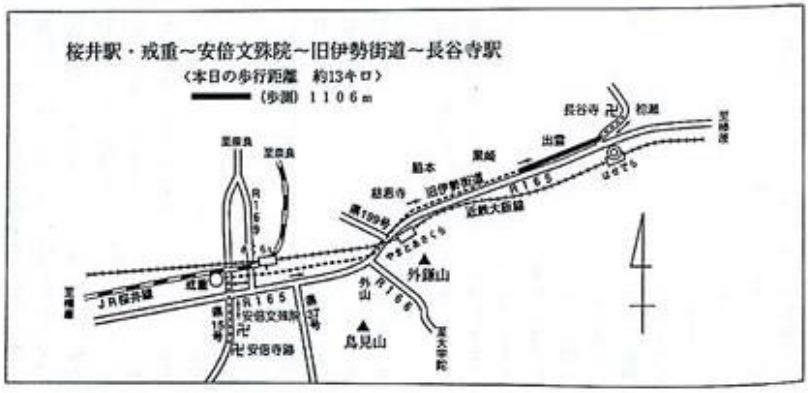
12時15分出発し、神社正面を起点に歩測に入る。途端に皆黙々と歩き始める。小生はメジャー用車をロードセンターにと心がけるが、対向車（者）も来るし、デコボコもあり、なかなか正確にいかない。ひょっとすると真値は歩測者の中に？　長谷寺門前道と国道の分岐点付近の、先生の指定位置で歩測終了。12時50分寺前の吉野館の食堂に全員が入り、ここで歩測値の申し出と結果を発表する。

13時45分食堂を出発し、長谷寺仁王門を背景に全員の記念写真。ゆるやかな登廊を登りながら天狗杉、蔵王堂、貫之の梅等を眺めて、14時10分本堂に着く。各自十一面観音に参詣の後、先生から長谷寺縁起を拝聴し、舞台からすばらしい眺めを満喫する。天候もようやく回復し、あさ緑の空から陽が差してきた。14時40分本堂を出発。登廊に貼ってある「千社札」を先生の解説で、生まれて始めて丹念にながめながらくだる。

15時20分長谷寺駅に着き、ここで解散。

（記録・元田　隆）

〈地形図〉2万5千＝桜井・初瀬



連載

旗振り通信の研究 ㉚（補遺7）

旗振り通信の資料X

柴田昭彦

【事典の中の旗振り山】

『三省堂日本山名事典』（2004年）に「米相場の手旗信号所」と解説されている山は、雲山峰（うんざんぼう）、桶居山（おけいやま）、天狗山、鳴尾山（なるおやま）、西大平山、旗振山（神戸市）、畑山（姫路市）、妙見山（いね谷山）の八つであった。

【大平山（おへら）・桶居山（姫路市）】

大平山が旗振り場であることについては本誌65・72号に、桶居山については本誌67号に紹介している。

平成17年8月、大阪府立中之島図書館で朝日新聞データベース「聞蔵」を用いてキーワード検索してみたところ、平成4年8月15日付の朝日新聞朝刊（発行、大阪）の兵庫（姫路）欄に、次のような記事が掲載されているのを見つけることができた（マイクロフィルムは兵庫県立図書館に所蔵されている）。

相場伝えた旗振り通信研究

「旗振り通信」って、知っていますか。江戸末期から大正時代にかけて、見晴らしのいい山頂で旗を振り、遠方まで米相場を伝えたという。このユニークな通信法を姫路市飾磨区東堀、市文化財嘱託調査員木谷幸夫さん（六二）が研究している。

木谷さんが編集した市の文化財見学シリーズ最新号『別所町をたずねて』でも、通信の中継点になった大平山を紹介。「場所を特定するのが苦労で、何十回も登りました」。現地に足を運び、地元の伝承を教えてもらうことが大切だ。「正確さと速さは、初期の電話と競争できるほどだった。古代ののろし伝承と関連させてもおもしろいでしょう」

この記事の中で紹介されている、文化財見学シリーズ㉘『「別所町」をたずねて』（姫路市教育委員会文化部文化課、平成4年2月29日発行）は兵庫県立図書館にあり、次のような記事が見つかる。

「大平山旗振り信号所跡（北宿）　江戸時代、大阪堂島には各藩の蔵屋敷が軒をならべ、米相場がたち、明治以降も米穀取引所が置かれ、米相場は旗振り通信によって、各地に伝達されていた。『別所村史』によると、明治27年頃、北宿の大平山頂上に、堂島と兵庫の米相場を姫路に伝達する信号所が置かれ、北宿の村民3名が、これに従事していたとある。信号の径路は、堂島―尼崎―御影山―須磨一の谷―魚住金ヶ崎山―北宿大平山―姫路となっており、途中に兵庫の相場をうける鷹取山、加東郡方面への中継点魚橋山があった。大平山信号所は、山頂から南下した岩場付近とみられ、土器片の散布地があり、北宿集落から専用登山道の跡も認められている。」

「桶居山（佐土新）　佐土新の北、飾東町夕陽ヶ丘の南にあり標高247・56メートル。地元では、おけすけ山とよび、桶伏山・桶振山・桶助山などの別名がある。『大正の姫路』高橋秀吉著に『オケスエ山が本名だが、子供達はなまってオケスケ山という。200メートルそこそこであるが、米の取引相場の通信に旗振山として、要地とされていたのも昔話となってしまった』とある。山頂に三等三角点が置かれ、『播磨鑑』によれば、この山で宮本武蔵が天狗より兵法を習ったといわれる。」

『播磨鑑』（一七六二年頃成立）には「桶居山（おけいやま）」とあり、「此山ニテ古ヘ宮本武蔵天狗ニ兵法ヲ習ヒシ処ト云」と記されている。

【雲山峰（和歌山市）】

雲山峰が旗振り中継所であったことは、小島昌太郎・近藤文二「大阪の旗振り通信」（『明治大正大阪市史第五巻』昭和8年）の中で、明治時代に落合山（井関峠の東方約半里）で中継されたとあり、吉岡章氏が『大阪周辺の山を歩く』（山と渓谷社、1998年）で雲山峰が旗振り場所であったとしていることから裏付けられる（本誌62号）。

吉岡氏はずいぶん前に和歌山市教育委員会で年配の方から雲山峰の件を聞いたことがあったという。筆者は平成13年頃、同市教委に問い合わせてみたが、旗振り場の情報は得られなかった。

平成17年になって、児嶋弘幸『和歌山県の山』（山と渓谷社、1995年）の雲山峰の項目に山頂での旗振りについての記述があることに気付いた。

そこで、平成17年11月に児嶋氏に尋ねてみたところ、その記述の出典は、和歌山県自然保護課編集『紀のくに　おもいでの道―』（和歌山県自然公園協議会発行、昭和53年）であることを教示いただいた。この本の「青少年の森と墓の谷コース」（渡辺光男執筆）のコラム「このコース付近、あれこれ」には次のように記されていた（202頁）。

「雲山峰（中略）藩政期から明治中期まで、通信機関が完備していなかった頃、和歌山の米問屋・米株取引所などが、大阪堂島の相場の速報を受けて、旗振り信号で和歌山へ伝えたところで、その旗の振り方を望遠鏡でうかがい、日々の相場の変動を知ったのだという。またこの山は、近海を航行する船の目印にもなっていたといわれる。」

この記述が吉岡氏や児嶋氏の記述の出典であることは内容から明らかである。執筆者の渡辺氏はおそらく古老から聞き取りをされたのであろう。

【長者橋・鴻池新田会所（東大阪市）】

本誌79・82号で、東大阪市の「長者橋」について紹介したが、平成17年4月23日に現地調査を行ったので報告しよう。

長者橋は、東大阪市川田2丁目の市立北宮小学校の南西の交差点名で、そのすぐ南に架かるのが「長者大橋」である。『東大阪市の歴史と文化財』（改訂版、平成15年）によれば、長者というのは鴻池家のことで、明治43年に行政区画が変更されるまでは、この場所が鴻池新田の東端であったということである。近鉄東大阪

長者大橋（東大阪市古箕輪・吉原）

線（現けいはんな線）吉田駅の北西1キロにあり、徒歩20分ぐらいで長者大橋に着く。

長者大橋の南にある古箕輪橋の東の藤五郎橋（明治34年の石碑がある）のそばに、説明板があり、ここから鴻池新田会所を経て、JR鴻池新田駅に至る遊歩道の案内地図がある。

本誌79号で紹介した東大阪市古箕輪の米屋さんの先代は、昔、一本だけしかなかった、この川に沿う「大坂道」をたどって、鴻池本宅に、内示を受けて荷車を引いて米を運んだのだそうである。空売り、空買いで儲けるために、鴻池家の情報（10日後にやる）をもらった。一週間から10日前には既に情報は入っていたので、古箕輪の米屋さんによれば「旗振りで米相場をはったというのはあとから作った噂話にすぎん」というわけである。

なるほど、鴻池家が米相場の売買で儲けるために旗振り情報が不要だということは理解できる。鴻池家に旗振り伝承は残されていない。それで間違いない。しかし、そのことが、米の相場を知るのに、西日本の各地で旗振りが用いられなかったという証明にはならないことは、当然である。旗振りで相場情報を得たということはまぎれのない事実である。

【旗振山（交野市）】

木下勇作『交野探訪』（彩図社、平成16年）には次のようにあった。

「大坂で米相場が立つ。その相場が名古屋―江戸に伝わる。手旗信号によって…。その中継地点の一つが交野の三宅山連峰にある。付けられた名前は「旗振山」。米相場を手旗信号で受け、それを次ぎの山に送るのだ。（中略）ある日、郷土史家の和久田薫さんから教えられ、興味津々……。」

【千鉢山（京田辺市）】

NPO法人やましろ里山の会が、一年間かけて整備してきた「京田辺尾根筋ハイキングコース」（京田辺市の高船から天王まで）が、2005年5月1日に開通した（HP「とっつぁんの道くさ」を参照）。

KENさんのHP「低山歩きとスケッチ」の「米相場通信中継所だった京田辺の千鉢山」（2005・8・15）のレポートによると、千鉢山の山頂には、やましろ里山の会の作成した看板が立ち、筆者の2003年12月5日付の京都新聞の記事（京都地名散策26、二石山）から通信ルート図が引用されていることがうかがえる。こうして、地元で、千鉢山が旗振り場であったことが周知されていくことは喜ばしいことである。

なお、旗振山（交野市）と千鉢山については、本誌62号で紹介しておいた。

【小塩山（京都市西京区）】

小塩山については、本誌79号で南春日町の安井庄次さんの相場中継地の証言を紹介し、85号で踏査によって山頂の状況を報告した。

安井さんにその結果を伝えたところ、次のような旗振り地点についての返信（平成17年10月22日付）をいただいた。

「小塩山には（中略）淳和天皇陵があり紀元二千六百年（昭和15年）記念に自動車の通れる道路がつけられたのですが、その後荒廃して使われていなかったのが、NHKのアンテナが立って以降、徐々に舗装され、比叡山にも丹波にも連絡が出来るアンテナの好立地として、NTT、大ガス、関電、京都市消防局、国土交通省、日通等十何本も林立し、ライフラインとなっています。厳密には山頂のNHKに向って左下（東南）のアンテナの左（南側）の地点です。（中略）周知されているNHKのアンテナの左下というか東南とされる方が無難かと思う次第です。」

小塩山の山頂（NHK中継所）

なお、85号で予告した『続　京都の地名　検証』（勉誠出版、平成18年秋発行）には、「小塩山」の項目を掲載する予定であったが、『京都の地名　検証』（平成17年）にすでに含まれていることから、掲載は見送りとなった。「ハナノ木段山（南丹市美山町）」と「梶山（京都市左京区）」（従来、大尾山と誤称されてきた山）については掲載しているので、参考にされたい。

【相場山（大津市）】

HP「そすいのさんぽみち」の「大津運河」の中に、次のような記述がある。

「また、藤尾学区のふるさと創生事業実行委員会が平成7年に刊行した『藤尾の歴史』によると、この送電線鉄塔のある山は『相場山』（325m）と呼ばれ、東海道本線の逢坂山トンネルの真上にあたり、眺望がよかったのでこの山に小屋を造り、大阪・京都の米相場を旗振りによって大津に知らせたという。」

『藤尾の歴史』は、滋賀県立図書館に所蔵されているので調べてみると、次のような興味深い記述があった。これは、市民センターニュースに連載の藤尾アラカルト（平成4～6年）を少し手直ししたものである。

「現在は、頂上一帯は雑木林におおわれて、眺望はきかないが、その当時は樹木がなく、見晴らしがよかったそうである。

藤尾奥町の海老池嘉男さん（大正4年8月17日生れ）が『明治21年生れの父から、この山で旗振りがされていたということを聞いている。』と話しておられる。」

この相場山については本誌57・79号で小関山として紹介しているので参照されたい。

郷土資料をていねいに探せば、まだまだ、知られざる、旗振り伝承が見つかることであろう。

【旗振り山と望遠鏡】

読売新聞大阪本社編『モノ語り日本史　歴史のかたち』（淡交社、平成17年）は新聞掲載記事をまとめたものである。この中に「星光、伊能図に投影」（岩橋善

兵衛と科学草創期…普兵衛の望遠鏡をみる）の記事（指尾喜伸執筆）があり、次のような記述が見える。

「あるいはまた、大阪から東京への道筋には、現在も『旗振り山』の通称の山が各地にある。

江戸時代、天下の台所、大坂・堂島の米相場は全国に影響した。一刻も早く伝えるのに、一方が手旗で合図する相場を他方が望遠鏡で見て、山から山へと伝えられた。そんな、知られざる〈情報戦〉があった。

近年、大学の研究者らが、堂島から大津市まで五つの山で中継して当時を再現する試みを行った。数分で合図は伝わった。」

この再現実験については、本誌57・63号で紹介している。平成3年に行われたもので、五つの山とは、千里山、阿武山、天王山、大岩山（伏見区）、小関山（相場山）であり、所要時間は6分45秒であった。

【天狗山（備前市日生町）】

平成18年1月4日に見つけた、加古川市の向井清隆氏のHP「山チャリ」の「行きはよいよい　帰りは…天狗山」（2005・12・10）の山行記事では、日生町の寒河コミュニティセンターにおいて、「旗振り通信」という二枚の資料を得たことが紹介されていて、その一部も転載されていた。その中の「旗振り通信の知識」というのが、本誌88号で紹介した岡山市の吉田節雄氏の「旗振り台で旗振り通信」に含まれているうちの一枚とほぼ同一であることがわかった。

「旗振り通信」という資料には、吉田氏作成の資料（知識・中継所・通信方法・年表）の他、筆者のHP「旗振り通信ものがたり」から引用した「旗振り場一覧（岡山県内）」や『日生町誌』にある天狗山での旗信号の記事、米相場と民衆の生活、『図説　大阪府の歴史』（河出書房新社、1990年）から引用した「堂島の米相場」の図などが掲載されていて興味深い。

吉田氏に確かめてみると、「旗振り通信」のプリント二枚は、平成17年1月25日に岡山市の河合卯平氏（岡山大学山岳会）のグループで、旗振り山である天狗山の山行を行うにあたって、その説明のために河合氏が作成したレジュメであるという。河合氏は、その際に、吉田氏が平成16年9月頃にまとめていた資料を引用したということである。当時、吉田氏の手元にあった資料は限られていて、内容的には不十分なものであったので、結果的に「旗振り通信」のレジュメは、いくつかの誤りを含んだものとなっている。従って、寒河コミュニティセンターを通じて、向井氏のHPに引用された「旗振り通信」は、誤った情報を発信したことになってしまっている。

その後、吉田氏は、平成17年9月に再現実験を実施するにあたって、筆者の提供した資料を活用して内容の修正を行い、「旗振り台で旗振り通信」の資料を整えている。

筆者は、平成18年1月に、河合氏の「旗振り通信」のレジュメを吉田氏と協力して改訂することを提案し、河合氏の同意も得ることができた。その改訂版は、寒河コミュニティセンターの館長、森本敏弘氏にも送付し、今後は、旧版ではなく、改訂版を使ってもらうことになった。

向井氏のHPの「旗振り通信の知識」は旧版からの引用のままになりそうだが、

旗振りで大阪から「鹿児島」まで「1日」で伝達といった、裏付けのとれない情報が拡散しないことを願っている。

向井氏は、HPで「畳4枚分もの旗を振っていた」とか、「大学生たちが旗振り伝達の実験」で「大阪から山口まで十数分で伝達した」とか、寒河コミュニティセンターで耳にしたらしい誤った情報を記述している。向井氏はおもしろければよいという方針らしい。

ちなみに、もし、本当に、大阪から山口まで旗振り通信の再現実験を行ったのであれば、距離は約500㌔あり、広島まで40分といわれているので、どんなにスムーズでも山口まで1時間以上かかるはずである。

この大学生による実験とは、本稿で先にふれた平成3年の堂島・大津間47㌔の再現のことであろう。6分45秒を要したので、通信速度は時速400㌔であった。

河合氏が資料に掲載した『日生町誌』（昭和47年）の天狗山の旗信号の記事は次のとおりである（265頁）。

「天　狗　山（大字寒河）　封建時代から明治の中期にかけて、大阪堂島の米相場を全国に通信するのに山の上に信号所を設け、旗信号によっていた。寒河村では天狗山の頂上に信号所が設けられ、兵庫県室津からの旗信号を望遠鏡で受け、これを熊山信号所へ旗信号で送っていた。当時はたたみ三畳分ぐらいの大旗や頂上へ飲み水を運ぶ背負桶などが使われたが、これらの道具はいまは残っておらず、望遠鏡だけが現存している。」

この記事の下には「信号所で使った望遠鏡（岡照夫所蔵）」の写真が掲載されている。この内容を見ると、本誌69号で紹介した、中島篤巳『岡山県百名山』の中の記事と一致している。

筆者が、平成18年1月上旬に得た、吉田氏からの情報によると、河合氏らの天狗山登山（平成17年1月25日）の後、この望遠鏡のレンズ磨きが、所有者から森本館長を通して河合氏に依頼され、岡山市の業者によって仕上げられたという。河合氏が預かったときは、レンズの曇りのため、ぼんやりとしか見えなくなっていたのが、平成17年2月13日に、河合氏宅で、仕上がった望遠鏡を吉田氏がのぞかせてもらうと、よく見えるようになっていたという。その後、望遠鏡は森本館長から所有者に返却された。

筆者は、かねてより、天狗山で使用された望遠鏡に関心を持ち、実物を拝見したいものだと考えていたので、平成18年1月10日、森本館長に連絡をとってみた。翌日、望遠鏡の所有者である、日生町寒河の岡里美さん（昭和11年9月生れ、69歳）とご主人の岡秀善さん（昭和9年12月生れ、71歳）に電話連絡がとれて、自宅にうかがって、望遠鏡を見せてもらえることになった。

平成18年1月14日は、雨となったが、予定どおり、JR寒河駅から西北西に向かって、1㌔ほど歩いて、岡夫妻の自宅を訪れた。竹原建設の少し先で右に見えるログハウス風の家の上の方に岡家はあった。

岡家の望遠鏡については、オカニチ（昭和56年12月4日付）の新聞記事に詳しい（本誌69・75号参照）。この記事は、筆者の単行本『旗振り山』（ナカニシヤ出版、平成18年5月）で見ることができる。里美さんの曽祖父の岡竹治さん（昭和13年11月16日没、享年81歳）が天狗山で旗振りを行っていたという。毎日、家の裏手の谷道から上がり、西側から現在の尾根

道に合流して登ったという。

竹治さんは、里美さんが2歳の時に亡くなっているので、旗振りについての情報は、祖父の直治さん、父の照夫さん、直治さんの長女の小林一恵さん（小林大三夫人。照夫さんの妹）から聞いたものである。ただし、里美さん自身は、旗振りには、あまり関心がなかったので、今では詳しいことはよくわからないという。小林夫妻は今でもご健在という。

里美さんによると、オカニチの記事で「曾祖父は県庁に月に一度給料をもらいに行っていた」とあるのは新聞記者の間違いで、「年に数回給料をもらいに行っていた」と正しく話したのに、なぜか、嘘を書かれてしまったという。なお、給料の金額については、里美さんは聞いたことがないので、わからないとのことだった。

岡家所蔵の望遠鏡

里美さんが幼い頃、家には、赤と白の旗が残っていたという。すでに、ねずみなどが食い散らかしたらしく破れていて、大きさはよくわからなくなっていたが、たぶん、2尺ぐらいと思うとのことだった。『日生町誌』には3畳とあるが、大きすぎて扱いにくいはずである。各地でも、旗の大きさは1畳半が普通であり、天狗山では2畳というのが妥当と思われる。その後、家の建て替えのため、古いものはすべて処分されたので、旗振りに関係する物は望遠鏡以外、何も残っていないという。昭和56年の旗振り再現に関連して受けた取材で記録類がないか尋ねられたが、一切ないということだった。里美さんは、今になってみれば、もう少し、祖父に話を聞いておけばよかったと思うこともあるという。

本誌69号で紹介した石橋澄さんは、岡夫妻によれば、3、4年前ぐらいに亡くなったようである。筆者が石橋氏から最後の手紙をもらったのは平成13年1月のことであり、貴重な証言が残されたことは幸いであった。

里美さんによると、頂上の旗振り場の横には、土塀があったと聞いたことがあるという。おそらく、雨よけの小屋がつくられていたのであろう。通信方向については、兵庫県室津のほうから熊山方面に伝えたといい、赤穂市では旗振りの場所がわからないらしいと聞いているとのことだった。

筆者が、室津では旗振り伝承が残されておらず（本誌69・85号参照）、赤穂高山付近には旗振り伝承があることを岡夫妻に伝えると、「室津のほうから」ではなくて「室津のほうから」と聞いているので納

得できるとのことだった。おそらく、赤穂高山から受けて、熊山に伝えたというのが真相ではないだろうか。

岡夫妻に見せてもらい、写真撮影した望遠鏡は二本。レンズ磨きが行われたのは長さ75㌢の四段式望遠鏡（真鍮型）で伸縮自在、収納すると長さ25㌢。接眼部に小さい覗き穴を開閉できるスライド式のつまみがついており、先端の対眼部には、真鍮製の保護キャップがついていて、精巧なものである。一方、長さ122㌢の四段式望遠鏡（木製）のほうは、収納して両端にキャップをつけると長さ50㌢となる。表面は和紙で装飾されている。内側三段分の外装は比較的きれいだが、一番外側の外装は風化して剥落が進んできている。

岡夫妻は、平成17年に、日生町の公共施設で望遠鏡を保管してもらえないかと打診してみたが、保存に責任を持てないとのことで、断られたという。明石市では、黒田家の旗振り通信用の望遠鏡が市立文化博物館に寄贈されており、将来的には、岡山県立の公共施設での保存・展示が望ましいと思われる。

【おわりに】

筆者の単行本『旗振り山』（ナカニシヤ出版、平成18年5月）は、日本で最初の旗振り山と旗振り通信の本ということになる。主要な旗振り山のコースガイドや、通信ルート図、旗振り場一覧表も収録している。岡家の緑側で撮影した望遠鏡の写真がカバーを飾っている。本連載のまとめとして、読者にも愛読をお願いしたいと思う。

今後は『旗振り山』の発行によって、全国の新しい読者から、未知の旗振り場の情報が得られることを期待している。

今回で、本連載を終了しますが、新しい情報が得られた時には、再び報告することを約束しておきます。読者の皆様、本当にありがとうございました。

（おわり）

（平成17年7月25日初稿）
（平成17年12月28日改稿）
（平成18年3月21日追加）

新刊

大峯奥駈道七十五靡（なびき）

森沢義信著　A5判上製　二九四〇円

吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道・「奥駈」を著者自らが探査して、靡・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

— 好評発売中 —

新刊

富山湾岸からの北アルプス

佐伯邦夫著　四六判上製　一九九五円

原始に還った立山川遡行、北ア随一の美しい谷・黒薙川北又谷、黒部もう一つの秘境・弥太蔵谷……など18編の登山紀行とエッセイで北アルプスの北面を語る。

★表示の価格は5％税込です

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111　〒606-8161

連載

三角点を訪ねて ㊶

隠れた花の山、焼石岳へ

東北

礒部 純

この夏、宮城県気仙沼市の南、本吉町に暮らす母を訪ねた帰りに、せっかく東北まで妻と2人で車で来たのだから、東北の山へ登りたいと思い、焼石岳へ登ることにした。

焼石岳は栗駒山の北、水沢市の西に位置する。火山の噴火によって出来た山であるが、その活動時期が古いために浸食が進み、火山溶岩の荒々しさは姿を消してしまい、中腹には落葉樹林帯が広がり、山頂近くには数多くの沼や湿地が点在している。

春や夏になると多くの花が咲き乱れ、北の早池峰山と共に、色とりどりの花が楽しめる山でもある。若かりし頃、毎年のように栗駒山へは登っていたが、すぐ北の間近に見える焼石岳へは一度も登ったことはなかった。

東から焼石岳へ登るには、北上市から西に入った夏油温泉からと、水沢市から西の尿前からがあるが、日帰りなので距離の短い南の尿前から登ることにした。

本吉町を7時に出発。日本の南を通過する台風の影響でか、海から霧が発生し、日の光は見えず、天気がどうなるのか心配だった。日中なら空いているのに通勤ラッシュに当たったのか、道は停滞気味。時間はどんどん過ぎてゆき、イライラのし通し。やっと、気仙沼市を過ぎると道は空いたが、一ノ関インターへ乗ったのは8時半前。平泉を過ぎ、水沢市に近付くと、左手に雄大な焼石岳の姿が見えるはずだが、ガスに覆われ何も見えない。おまけにフロントガラスに水滴が付き始め、果たして山頂へ登れるのか心配になってくる。水沢インターを降りて、国道397号線を西へ。前を走るのろい大型トラックにまたまたイライラがつのる。石淵ダム手前の尿前林道入口に到着した時

姥石平から焼石岳を振り返る

は9時30分を廻っていた。これでは遅がけ登山を覚悟しなくてはならない。

工事中のため迂回路を通り、尿前林道に入ると、道は小石の多いガタゴト道に変わる。荒沢沿いの道に入ると、いっそう荒れてくる。あたりは美しい広葉樹林だが、小石を避けたりワダチを外したり、あたりの光景を見る余裕さえない。「本当に奥に駐車場があるのだろうか?」と疑いながら走ると、10時10分、やっと広場に着いた。そこには車が6台駐車してあり、焼石岳中沼登山口で間違いないとわかりひと安心。準備をしていると、昨夜、避難小屋で泊まっていたのか、1人の男性が早くも下山してきた。

予定より出発が1時間半遅れてしまったが、登れる所まで登ろうと、10時30分に出発する。山頂までの所要時間3時間30分である。途中で昼食をとらねばならないので、4時間はかかるかもしれない。案内板の横から小道を西へ入ると、あたりはカラマツ林。この林のなかに整備された道がのびている。登りにかかると、雨具に身をまとった単独の男性とすれ違う。聞くと、避難小屋のある上部では雨が降っていたそうだ。小さく登って尾根を一つ越えると、ブナ・ミズナラの目立つ雑木林へと変わる。道脇にはトリアシショウマやヤマアジサイが花を見せている。

地形図では急勾配と読めないが、実際にはかなりの急登が続く。道は思っていた以上によく整備されているが、丸太を打ち込んでつくられた階段に歩幅が合わず、足の上げ下げに苦労する。登り出して間もないのに額から汗が滝のように流れ落ち、たちまちシャツは水を被ったようにビショビショに濡れた。間近に谷の水音が聞こえてくるが、谷を見る余裕もなく、林のなかをひたすら登って行く。

急坂を30分も登ると中沼。林の間から見る水面は、神秘的なムードを漂わせている。沼の岸辺近くには水草が繁茂している。沼の南縁の道を西へ歩くと、道脇にはアキチョウジが咲いている。沼の西端近くで、湿原に渡された板の上を歩く。板道の両側は一面黄色と青紫のお花畑。黄色の花はトウゲブキ、青紫の花はタチギボウシである。沼の岸辺には、花の終わったコバイケイソウ、白い花のオニシモツケも点在している。

中沼からひと登りして、荒沢の中を登って行く。傾斜がゆるくなって道が谷側に移ると、谷にはミズバショウがいたる所に葉を大きく広げている。これまでミズバショウといえば花しか見たことがなかったが、花が終わるとこんなにも葉が出てくるのだと初めて知った。水の無くなった沢の中を30分も登ると上沼。沼の上に焼石岳が見えたが、すぐに山頂はガスに覆われてしまった。この沼の岸辺にもトウゲブキ・タチギボウシが一面に咲いている。よく見ると、ミツガシワやヒオウ

山頂のハクサンシャジン

ギアヤメの花も残っている。

上沼から石コロの多い道を登って行く。やがてブナ・ミズナラの林のなかの道となり、ゆるく登るとつぶ沼コースとの分岐に出た。大きなシシウドが立ち並ぶ湿地帯を抜けると銀明水に着く。12時10分の到着である。

ちょっとした広場になっていて、木造のベンチまで置かれている。ダケカンバの樹林に囲まれた岩の間から湧き出る水を飲むと、とにかくおいしい。銀明水と呼ばれる湧き水で、この焼石連峰の天竺山の山麓にある金明水と共に、東北の名水の一つに数えられている。その水に手を浸すと、20秒ももたないほどの冷たさだった。広場では、焼石岳からくだってきた横浜から来たという5人グループが休んでおり、山頂の様子を聞くと、晴れたりガスったりでマアマアの天気だったらしい。ここで昼食をとったのでは登る意欲がそがれると、言葉を交わした後、すぐ出発する。

すぐ先の狭い谷を渡り急斜面を登ると森林限界で、上には高い木は見られなくなる。湿地を通り、石コロ道を登って行くと、くだってくる若い男女のカップルと、もう一組の中年のカップルとすれ違う。話を交わし、「ここまで山頂からは1時間の下り」「山頂で晴れ間から鳥海山が見えた」との情報を得る。

ここから山頂まで1時間以上かかるのでは、このまま食べずに登るのは無理だと判断して、滝の見下ろせる草地で昼食にした。坐った草地には白と黄色の花が一面に咲いていたが、その花の名がわからず残念。昼食といっても腹に詰め込むだけで、ほんの15分休んだだけで、すぐ出発した。

この先、チシマザサのなかに付けられた石のゴロゴロした道を登って行く。ササやぶのなかにある木といえば、ミネカエデやナナカマドで、なかには星や色付いているものもあった。登るに従い左にはガスを被った横岳が、前方には草原とも見えるゆるい斜面が目の前に広がってくる。ゆるい所ではいくつもの湿原のなかを通って行く。道脇にはチングルマの種子花、ハクサンフウロが花を咲かせ、途切れることなく続いている。

ササも無くなり、広大な草原が目の前に広がると、やがて姥石平に着く。経塚山から夏油温泉へ向かう分岐である。ガスはだいぶ晴れてきたといっても、焼石岳山頂はいまだにガスに覆われていて見えない。分岐をまっすぐに進むと泉水沼。ここから見る焼石岳の姿は雄大だといわれているが、全容が見えないのが残念だ。少し歩いてふと見ると、ガスが切れて4人が焼石岳への最後の登りにかかっている。銀明水の上で人に会ってから、山頂まで誰にも会うことはないと思っていたが、この時間に、山頂で人に会えると思うと、何か心強い思いがする。

泉水沼の横から鞍部へ登ると、あたりは一面ハクサンイチゲのお花畑。ミネウスユキソウも咲いている。鞍部から最後の急登にかかると、それまで山頂を覆っていたガスが晴れ、陽も顔を出す。登る途中、雄大な西斜面の光景、雪を懐に抱いた西焼石岳の姿も満喫できた。14時5

分、焼石岳到着。昼食を入れて所要時間3時間35分、相当がんばって歩いたといってよいだろう。山頂には9時30分から登り出したと言う、仙台から来た二組のカップルがおり、挨拶を交わす。時間が時間、場所が場所だけに、よけいに親しみがわいてくる。

広い山頂広場の真ん中に埋められている三角点に挨拶する。点名「焼石岳」で、標高1547・9㍍、1等三角点である。標石は最近に埋め直されたのか真新しく、「一等」の字は左から右書きで、しっかりと磁石の南を向いている。

山頂からは360度の展望のはずだが、ガスが流れていて、西と北の方向が見えるだけ。ガスが無ければ見えるはずの早池峰山・鳥海山はもちろんのこと、すぐ南の栗駒山すら見ることができない。山頂付近の草原にはハクサンフウロ・ミネウスユキソウ・ハクサンシャジンが一面といってよいほど咲いており、花で有名な山だということも頷けた。

焼石岳山頂にて

山頂で果物の缶詰を食べながら、15分程、東と南方面のガスの晴れるのを待ったが状況は変わらず、14時25分、後ろ髪を引かれる思いで下山した。くだる途中には、登りで気がつかなかったキンコウカを見て、写真に撮る。泉水沼までくだり、振り返ると、幸いにもガスは晴れて、焼石岳が泉水沼の上にクッキリと姿を現していた。これが山の見納めと、写真に撮ろうとしたがフイルムは残っておらず、一枚で終了。あとはしっかりと、山の姿を目に焼き付けるしかなかった。

仙台市から来た4人グループと前後しながら、登って来た道を戻る。石コロの多い道なので、思った以上に注意が必要で、時間も短縮できない。それでも1時間ちょっとで銀明水までくだった。ここには銀明水避難小屋がある。この日は、この小屋へ泊まるという家族連れと、めずらしくも男だけの3人が登ってきていた。

ここで時間は15時30分。暗くなっては大変なので、10分休憩して下山にかかる。中沼へは1時間でくだり、登山口へは17時15分に戻った。

焼石岳は、栗駒山同様に百名山には入っていないが、二百名山に数えられる山。アプローチが長く、車でなければ比較的登りにくい山であり、それだけに登る人が少なく、自然が残されており、高山植物もいたる所で楽しめる山だと思った。

翌日は、蔵王連峰の屏風岳へ登ることにしているので、今夜の宿は南蔵王山麓の遠刈田温泉。水沢から遠刈田温泉まで東北自動車道を走ったが、宿に着いたのは20時。本当に尿前から遠刈田温泉までは遠かった！（平成16年7月30日歩く）

＜コースタイム＞

尿前林道入口（車30分）中沼登山口（30分）中沼（1時間10分）銀明水（1時間10分）姥石平（30分）焼石岳（1時間10分）銀明水（1時間）中沼（25分）中沼登山口

＜地形図＞2万5千＝焼石岳・石淵ダム

（問い合わせ先）

岩手県胆沢郡胆沢町役場商工観光課

☎0197（46）2111

文学歴史探訪ハイク ㊾

河内鋳物師の里（中高野街道・下）

松永惠一

河内鋳物師の里

大阪狭山市の狭山池の北東端から流れ出した東除川は、南河内平野をゆったりと北上、その後大和川に沿って西へ流れ、大阪市平野区瓜破南で大和川に注ぐ。同じく狭山池の少し西のあたりから流れ出た西除川も大和川を目指し合流する。この二つの川に挟まれた地域は、「河内鋳物師の里」として栄えた。

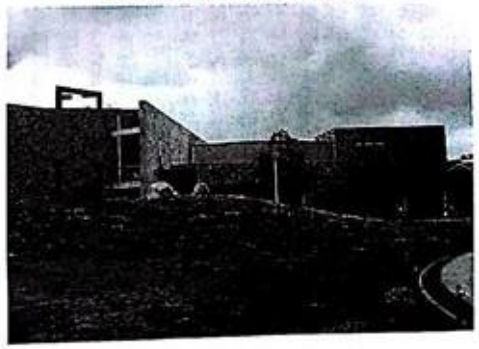
鋳物師は、鉄や銅などの金属を溶かして鋳型に流し込み、鍬などの農耕具、鍋・釜などの生活道具から、梵鐘（釣鐘）・仏像にいたるまでの製品を鋳造した技術者のこと。平安時代末期から鎌倉・室町時代にかけて河内国丹南郡は、鋳物師が集まり住んだ所で、美原の大保地区は「大保千軒」と呼ばれるほどの賑わいを見せた。源平の戦乱で焼かれた奈良・東大寺の大仏を宋の鋳工・陳和卿らとともに修復して脚光を浴びた河内鋳物師。彼らの足跡は鎌倉の大仏や、各地に残る「大工河内国丹南郡」などと記された梵鐘銘によってたどることができる。

中世の梵鐘の六割以上は、河内鋳物師によって造られたことがわかっている。その中で「丹治姓」の鋳物師は多くの作品を残した。彼らは奈良時代に鋳銭関連の要職を歴任し、中央でも活躍した豪族「多治比氏」にたどりつくと考えられ、古くから優れた鋳造技術を保持してきた名門。

高い技術を持つ河内鋳物師は、次第に河内を離れて地方に土着し、鋳物技術を伝えた。各地に「わが一族こそ河内出身なり」と誇る鋳物師がたくさんいたという。高岡銅器で知られる富山県高岡市に作業歌「やがえふ節」が残る。鋳物に使う地金を溶かす溶解炉に風を送り込むタタラと呼ばれる大型の足踏み式送風装置で作業する時に歌われた。

河内丹南　鋳物のおこり　やがエフ
今じゃ高岡　金屋町　エー

M・Cみはら（手前は「剣の丘」）



M・Cみはら

M・Cみはら（堺市立みはら歴史博物館）は、Museum（博物館）とCommunity（交流）をイメージしている。『カタチ造りの達人』をグランドコンセプトとして、

1　日本の中世において、みはらの地を本拠地・居住地として、他の追随を許さない技術を持ち、かつ、数々の偉業を成し遂げ、現在の日本文化の基礎を築いた鋳造技術者集団「河内鋳物師」

2　24領の鉄製甲冑が出土し、製作方法等を比較検討することで、複数の甲冑製作工人の存在と、彼らを統括・指揮する人物の存在を想定することができる資料を提供してくれた「黒姫山古墳」

を、それぞれのメインテーマとした常設展示室、そして特別展示室と講演会等の催しなど文化・芸術にふれ交流できるホールとの複合施設である。

パネルの専門用語がこなれていない感じがするが、映像やジオラマを駆使して、わかりやすくしようと工夫している。実際に触れられるようしている展示が楽しい。「河内鋳物師」のざらざらしている金物の鋳型。「黒姫山古墳」の出土遺物や墓石などの実物資料に触ることができる。

黒姫山古墳

黒姫山古墳は、仁徳天皇の妃・黒姫の墓と伝わる前方後円墳。古市古墳群と百舌鳥古墳群の中間に位置している。五世紀中頃に丹比氏によって築造されたと考えられ、中世には砦として使われていた。平野の真ん中に築かれた古墳は、前方部を西に向ける。全長114㍍、後円部径64㍍、高さ11㍍、前方部幅65㍍、高さ11・5㍍の二段築成。墳丘の周りに幅約15～20㍍の濠がめぐり、濠の外側に、古墳を立派に見せるために古墳を取り巻くように造られた幅25㍍の周庭と呼ばれる部分がある。

昭和22年、末永雅雄博士らによって発掘調査が実地された。後円部にあった石室は破壊されていたが、石室を取り囲むように並べられていた各種形象埴輪の破片が残っていた。前方部中央で発見された竪穴式石室から、24領という我が国最多の鉄製甲冑と、大量の鉄製武具や武器が出土し、大変な話題になった。昭和32年（1957）、国の史跡指定。

平成元年から環境整備が実施された。出土した甲冑等は、保存処理を終え隣接のM・Cみはらに収蔵・展示してある。

黒姫伝説

秋の田の穂の上に霧らふ朝霞
何処方の方にわが恋止まむ

この情熱的な恋歌を詠んだのは、「民のかまどに立つ煙」で伝わる仁徳天皇の皇后磐姫。たいへん嫉妬深いお人だった。

黒姫は吉備の国に住むたいそう美しい娘。やがて仁徳天皇の寵愛を受けるようになった。磐姫の仕打ちに耐えかねた黒姫は早々逃げ帰る。黒姫の船を見送り詠まれた天皇のお歌。

沖方には小船連ららくくろざやの
まさづ子吾妹国へ下らす

磐姫は怒り、黒姫を船から下ろして、徒歩で吉備の国へ帰らせたという。

想いを断ち切れない天皇は、「淡路島に行く」と内緒で吉備の国へ向かった。出迎えた黒姫と再会。歓迎の宴の青菜を採みに出た。天皇はお歌を詠まれた。

山縣に蒔ける青菜も吉備人と
共にし摘めば楽しくもあるか

天皇がお帰りになるときの黒姫の歌。

倭方に西風吹き上げて雲離れ
退き居りとも我忘れめや

倭方に往くは誰が夫隠水の
下よ延へつつ往くは誰が夫

黒姫山古墳（復元ゾーンより）

コース概観

松原市から河内長野市に向かう中高野街道は、平成17年2月1日堺市に編入合併された旧美原町を通る。南部の丘陵地域を除いて大阪平野に含まれる平坦な地には鉄道は走っていないが、阪和自動車道、南阪奈道路が通る。今も田畑のなかにため池が多く残る道を、赤々と炎立つ窯に向かう鋳物師に思いをはせながら歩いてみた。

近鉄南大阪線の河内松原駅下車。大阪阿部野橋から準急で一つ目の駅。駅前のロータリーから近鉄バス平尾行き（のりば4）に乗る。府道堺大和高田線から南大阪線の線路を越えて右折。狭い狭い道を通り抜ける。野村の西側に新ヶ池、大座間池、池に隣接して電波塔が見える。NHKラジオ第一放送の送信所で、少し南に第二放送の送信所が見える。西多治井から堺市（旧・美原町）に入る。角を曲がった大阪橋バス停で下車。

東除川が流れる。上流の古川橋までの約750㍍が、鋳物にまつわるモニュメントが美しい東除川緑道。河内鋳物師の歴史文化を学べるよう工夫が凝らされている。もちろんモニュメントや鋳物師ゆかりのエピソードを紹介する案内板は鋳物製。「わが一族は河内出身」と誇る鋳物師の故郷を、学びながら川筋を歩く。優しい風が吹き、美しい緑に包まれる。

古川橋から西に進み、黒山警察署から南に向かい、「河内ふるさとの道」に沿って歩く。舟渡池公園は桜の名所。たくさんの野鳥が暮らしている。池を右に見ながら北に向かう。目の前を近畿自動車道が走る。下をくぐると史跡黒姫山古墳がある。建設工事で陪塚的位置に存在した古墳が発掘されている。

整備された周庭にはガイダンス施設・復元ゾーンが設けられている。ツツジが植えられ芝生が敷かれた遊歩道を歩く。前方部が一部復元されている。二段築成の様子がよくわかる。白い葺石と赤い埴輪列の演出が見事。築造当時斜面には葺石が整然と敷き詰められ、二段になった墳丘の平坦部には、円筒埴輪と朝顔形埴輪が一定間隔で立ち並べられていた。後円部の上方には、形象埴輪列（盾・蓋・靫・短甲など）が内外二重で方形に配置されていた。古く石棺が搬出されたと伝えるが、詳細は不明。

前方部中央に造られた竪穴式石室は、副葬品を埋納する目的で川原石を積み上げて造られていた。長さ8㍍、幅約0・8㍍、高さ約1㍍余り、底に川原石が敷き詰められ扁平な砂岩の天井石八枚で覆われていた。石室内いっぱいに24領の甲冑を始め大量の鉄製武具、武器が収められていた。ガイダンス施設の入口広場には前方部の竪穴式石室、埴輪列が実物大で復元されている。北側の古墳広場には六基の陪塚的位置に存在した古墳を縮小した模型がある。

24領という驚異的な量の鉄製甲冑は、すべて鋲留めの短甲で、主に胴の部分を防御するためのものである。肩甲、草摺などの附属具が備わっている。襟付短甲が1領含まれているが、防御性に優れている半面、首を動かしにくいという難点もあるため、支配者や指揮者が着用した威儀具の性格が強いとみられている。セットになる冑は船の舳先のようにとがった衝角付冑と、前面に庇を持ち頂部を受鉢の形にした眉庇付冑の二種類があり、

いずれも鉄板を留めるのに当時の最新技法鋲留めが使われている。

北東に隣接するM・Cみはら（堺市立みはら歴史博物館）では、黒姫山古墳の築造の様子を映像や模型で紹介し、主だった甲冑を展示している。河内鋳物師の展示室では床下に真福寺（黒山）遺跡の梵鐘鋳造土坑を展示している。北隣は美原ふる里公園。鋳物が生成されるイメージを表現した噴水や、悠久の時の流れを感じさせてくれるモニュメント「刻の丘」がある。このあたりがかつて大保千軒と呼ばれた河内鋳物師の拠点。大保地区の長い歴史が育んだ古い町並が美しい。

国道309号線沿いの広国神社は、広国押武金日命（第二七代安閑天皇）を祀る。本殿横の祠には統合された河内鋳物師の尊崇する鍋宮大明神（烏丸大明神）の祭神石凝姥命、今井の菅原神社の祭神菅原道真公、大保の八坂神社の祭神素戔嗚尊のほか、多くの神々を祀る。遙拝所の横にある巨石は、黒姫山古墳から出土と伝わる。

国道を北に進むと道の向かいに「鍋宮大明神」の石碑が建つ。河内鋳物師の始祖を祀った地を記念し、昭和44年に建てられた。さらに北上し二つ目の信号を左折すると、法雲寺。中国式の伽藍があり、本尊は三千三百三十三体仏。ツツジの名所。西除川に沿って南に進むと平松寺。広島の厳島神社に写経を奉納した長和寺の名を記した手水先鉢が残されている。「長和寺大宝塔、願主実盛、大永四年（1524）八月吉日」。さらに南に進むと大饗の城岸寺。南北朝のころ楠木方の和田氏の居城があった。「たくまさん」と呼ばれる阿弥陀如来来迎図が伝わる。西に進み南海高野線の初芝駅に出る。

＜コースタイム＞

近鉄河内松原駅（バス22分）大阪橋バス停（30分）舟渡池公園（20分）黒姫山古墳・MCみはら（25分）法雲寺（15分）城岸寺（30分）南海初芝駅

＜地形図＞2万5千＝古市

＜費用＞

大阪阿部野橋駅～河内松原駅　290円
河内松原駅前～大阪橋　240円
初芝駅～難波駅　370円

（問い合わせ先）
M・Cみはら（堺市立みはら歴史博物館）
072（362）2736

特選コースガイド 1　鈴鹿

（里山シリーズ34　甲賀市土山町）

ササ原に幾何模様の獣道
能登ヶ峰

一般コース（★　）

長宗　清司

JR草津線貴生川駅北口から『あいくるバス』（土山本線上り）近江土山行きバスに乗車。近江土山で（大河原線上り）大河原行きに乗り継いで鮎河口停で下車する。

バス停から180㍍バックして、鯨川に架る橋を渡り、両岸桜並木の左岸を上流へ進む。やがて林道に入り、三つ目の谷で一服する。

杉林のなかにつづら折れのV字形の道が続き、直登の状況になって最初のピークで休憩。いったん窪地にくだって再び次のピークから左折気味に登ると、杉林のなかに3等三角点能登ヶ峰（759・7㍍）の頂上に着く。展望は全く無い。

尾根を左に移動し、少しくだるとゴルフ場を連想する芝生の風景に出くわす。美しいササ原は風の通る道筋なのか、全く立木が無く、緑色のジュウタンを敷きつめたようななめらかな斜面だ。正面には鈴鹿山系の山並が薄墨色の稜線を見せ、円錐形の鎌ヶ岳が奥にかすんで見えた。いままでの苦しさも忘れて思わず歓声をあげる風景である。

次のササ原は、下界を望める所で、昼食によい。途中、右側の杉木立の先にベンケイの美しい山容を見る。

シカが新芽を食んで、大きくのびないササはヒザあたりの高さなので歩きよい。姿は見せないがキュンキュンと、仲間に合図を送るシカの鳴き声が時々聞こえるだけの静寂の世界だ。

岩も倒木も無いササ原には、アセビの見事な株立ちが点在し、ある地点ではタニウツギの高木（3㍍はある）が群立して、いままさに花が満開である。

午後、さらに尾根を東進する。三つのササ原は鞍部になっていて、若緑一色の斜面には獣道が縦に五、六本、細筆で幾何模様を描いたように流れていて美しい。一方、右の断崖は大崩壊がいまも続く生々しい現場。突端に立つと、まるで庇の上にいるような不安定さ、不気味で怖い。ひび割れて、土が次の段階では落下する気配だった。

吊尾根にうまくのること二回、696のピークを越え、758の腹を捲いて、ササの草原四ヶ所に感激し、見事な尾根の縦走路に満足。シカ除けの金網の中を出たり入ったりして直登する。

能登ヶ峰延長尾根上のササ原の獣道

最後は、横谷山への登り鞍部で、右のゆるやかな谷をくだる。右の「仙ヶ岳」を目標にして、美しい県境尾根の「御所平」と並行して歩き、田村川の上流に出た。ここからもう少し谷をつめれば分水嶺に届くが、今回は田村川沿いの長い林道をくだる。右に先ほど自分らが歩き通した尾根筋を眺めながら、黒滝集落に向かってゆっくり歩く。左側、急峻な山並の上部は標高差のない御所平が長々と続いている。一ヶ所だけ谷から入る道筋を見つけた。

黒滝集落のはずれの川向うには、惣王神社（旧若宮神社）が鎮座し、毎年7月11日に奉納される花笠太鼓踊は、「土山の太鼓踊」として、滋賀県の無形民俗文化財に指定されている。山内巡回線のバス待ちの間に、時間があれば立ち寄るとよい。

なお、スタート地点の鮎河集落にある三上六所神社には、牛頭天王社・神明社のほか木地屋が奉紀した「大皇器地祖神社」が合祀されている。この神社の祭神は惟喬親王で、皇位継承の争いに敗れ、幽閉された君ヶ畑（東近江市永源寺町）で、轆轤の技術を杣人に教えたとされたことから、木地屋たちが尊崇する親王の偉業を讃え、後世に伝えるべく各地に建立したものである。

（平成12年6月3日歩く）

＜コースタイム＞

JR貴生川駅（バス33分）近江土山（バス17分）鮎河口（15分）登山口（1時間）能登ヶ峰（30分）最初のササ原（20分）696（1時間）横谷山との分岐点（15分）田村川上流（1時間20分）黒滝バス停（バス36分）近江土山（バス39分）貴生川駅

＜地形図＞2万5千＝土山・伊船　5万＝亀山

（問い合わせ先）

甲賀市役所企画部企画政策課
☎0748（65）0672

滋賀バス㈱交通対策室
☎0748（62）7011

㈱シガ・エージェントシステム近江土山営業所
☎0748（66）1251

特選コースガイド②

北海道

岩塔に剣が埋まる
北海道の剣山（つるぎざん）

一般コース（★　）

金谷　昭

日高連峰の主稜線北部にある芽室岳（1753・7㍍）より東に派生する支尾根末端ピークに四国の名山「剣山」と同名の山がある。十勝平野からいきなり立ち上がり、頂上は鋭い岩峰である。四国の剣山神社が分祠された霊山で、北海道ではめずらしい信仰の山として尊敬を集め、また展望が楽しめる山としても地元民には親しまれている。

アイヌの山名は「エエン・チエン・ヌプリ」で「頭の鋭く尖った山」の意味、頂上部には高度差60㍍にも及ぶ花崗岩の岩塔を擁し、その突端には剣が天に向かって埋められている。

登山口へはJR根室本線御影（みかげ）駅から10㌔以上もあり、公共交通機関は無く、タクシーかマイカーに頼らざるをえない。国道38号線より登山口の標識に導かれ、立派な舗装道路を行く。車道終点には宗教施設「高王山大自然霊光院」があり、その奥に剣山神社と広い駐車場、神社の脇には頑丈な登山小屋が建っている。

剣神社の左脇に登山届ポストが置かれ、そこが登山口となっている。明るいシラカバやヤチダモの疎林のゆるやかな道で、高原状のササ原が幅広く刈り込まれている。登って行く道端の所どころに石仏がシラカバを背にして置かれ、ササ原にはエゾムラサキツツジ・クルマユリ・ムラサキタンポポなど、高山植物が咲いている。本州からの登山者は、北国の信仰の山とひしひしと感じるだろう。

ゆるやかな高原を過ぎ、急登になるとミズナラの林となる。登り切ると、四国の剣山と同名の「一の森」（高度906㍍）のゆるやかな稜線に出る。最後の石仏が置かれ、休憩によい所である。

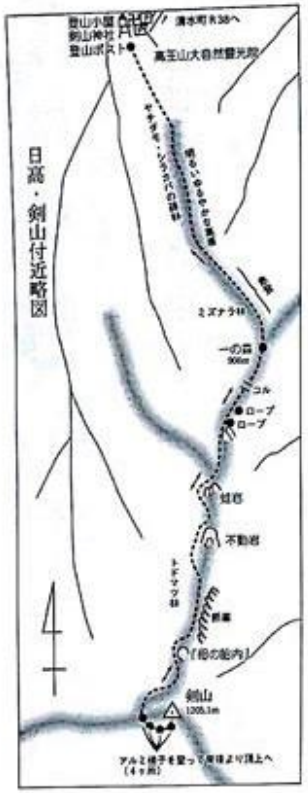
ここからは稜線を行き、いったんくだって登り返す。登りにロープが二ヶ所ある急登となり、「蛙岩（かえるいわ）」といわれる大岩が出てくるが、右を捲くと再び稜線に戻る。また前方に大きな岩山（不動岩）が大きく立ちはだかり、直登は大変と思うが右の大きなスラブを捲いて急登する。再び稜線に立つと、初めて前方に山頂の岩塔を目にする。

稜線の右側は断崖、左側はハクサンシャクナゲ・エゾムラサキツツジをまじえたトドマツ林のやせた岩稜を行く。やがて「母の胎内」潜りの大岩が出てくる。ダ

天に向かって剣が埋まる剣山山頂の露岩

剣山登山道

剣山山頂を見る



イエットしていない登山者にはつらい捲き道がある。捲き道は、最後の頂上の岩塔右奥の裾に出て、アルミ梯子を四ヶ所登り切って頂上直下の岩場に躍り出る。

最上部の岩塔には天に向かって剣が埋め込まれ、その周りは鎖で囲まれ、独特の雰囲気を醸（かも）し出している。

頂上（1205㍍）は岩の尖峰だけに高度感はすごく、芽室岳を目の前にして北日高の山々と大雪山、十勝連峰、そして十勝平野を一望する大展望に胸がすく思いである。

狭い頂上だけに多人数が休憩するには岩塔下の小広場が適当である。下山は往路を忠実にたどればよい。頂上近くの岩場を慎重に過ぎれば、後は樹林と高山植物を愛でながらの下山となる。

（平成16年7月12日歩く）

△コースタイム▽

登山口（1時間30分）一の森（1時間30分）剣山（1時間15分）一の森（1時間15分）登山口

△地形図▽2万5千＝渋山

（問い合わせ先）

清水町観光協会

☎01566（2）2111

（注）

＊日高連峰は夏期オホーツク海高気圧の影響を受けやすく、早朝山麓は曇天でも1000㍍以上は雲海を抜け、快晴となることが多い。

＊登山小屋はブロック造平屋建で約50人収容。トイレ・水場・照明あり。無人で自由に使用可。

＊駐車中の車荒しあり。参拝後、隣接する有人の高王山大自然霊光院駐車場に置くほうが安心。

＊道標あり（山中水場無し）

特選コースガイド③

美濃

天測点のあった 1等三角点の大洞山

一般コース（★　）

山田　明男

登山道が無くて登るのに苦労した山というのは昔の話で、今は大月の森公園が整備されて、周回する登山道が大洞山へ通じていて、一周3～4時間で廻れるようになった。

登山口もわかりにくかったのだが、「和良道の駅」から北に向かえば「大月の森」の看板に導かれて公園に到達できる。公園は平成14年6月に完成したが、それ以前も「生活環境保全林」として遊歩道はあったようである。公園は、キャンプ設備や管理棟が増やされたと思われる。

管理棟の前に駐車して歩き出し、遊歩道を最短で上に向かって歩く。30分程で展望台に近い尾根の分岐に出る。表示は無いが、鉄塔がすぐ西に見えているので、鉄塔に向かって歩いて行く。

尾根は切り開かれていて普通に歩け、杣道を行く感じである。鉄塔から谷を挟んで北に見えている最も高いピークが大洞山山頂である。大洞山南面の紅葉がとても美しいので写真に撮った。

今日は早めに帰らないといけないから大洞山へ行くのを止めて戻ろうかと思ったが、時間があるだけ行って見ることにした。尾根道は鉄塔の先も続き、すぐ右手から巡視路が来ていたが、くだらずに進めば古い木の階段が現れた。10年ほど前に整備されたようで、キノコが生えたり木が腐っているものも見られる。

尾根の周辺はシロモジが多く、黄色に染まって朝陽に映えて美しい。写真に残すが、これだけ美しい谷もめずらしい。来秋の10月末にまた皆さんを案内して来たいと思う。尾根はアップダウンを繰り返して高度を上げていく。

鉄塔から30分程で尾根の分岐で、大月谷からの登山道と合流する。この分岐には札がある。このルートの表示板は分岐と登山口のそれぞれに4本、山頂に1本で、合計5本しか付けられてなかった。

下りに使った東のルートはテープが多くあったが、南と西のルートではほとんどテープ類は見られないので、東のルートが多く使われているのがわかる。

山頂かと思うのは一つ手前のピークで、山頂へはこのピークから5分かかる。大

大洞山山頂の1等三角点

天測点撤去工事の看板

洞山（1034・6㍍）山頂は広場になっていて、1等三角点が奥にある。天測点はと思えばコンクリートの埋設された塊が二つ山積みになっていて、ハンマーが置いてあった。看板を見ると、天測点撤去工事とあり、正式に撤去されるようだ。名板はどこかで保管されているのだろうか？　三角点の写真とコンクリートの山積みと工事の札も写真に残した。

時間は11時なので食事にしようと思ったが、天候が悪化してきているので下山することにして、モンガ洞へのルートをくだる。

尾根分岐に表示があり、そのまま尾根をたどれば市島（☆1082・2㍍）へも行けそうである。どんどんくだって林道終点にすぐ到着し、時間を確認したら山頂から25分でくだれた。そのまま林道をくだれば20分で管理棟前の車に戻れた。

次に大月谷の奥へ行ってみたところ、林道終点からは、モンガ洞と同じ登山道がのびていた。

ルートを選べば1日で大洞山と市島とピーク二つを廻れるだろう。紅葉を楽しむならこのルートがよいだろうが、市島も廻るのであれば置き車が必要である。

（平成17年11月12日歩く）

Ａコースタイム▼

管理棟（40分）遊歩道経由尾根（30分）大月谷ルート分岐（1時間）大洞山（30分）モンガ谷林道終点（20分）管理棟

△地形図▽2万5千＝郡上市島

〈山のレポート〉
山の地名を歩く㉘

个とケとガとがは一族郎党

西尾　寿一

表記したうち、ケ・ガ・がは、やはり体言と体言とを結びつけて別の意味をつくる機能をもつ有力な助詞（字）である。

その意味では、先に述べてきた、ツ・ノ・ガと同じ扱いでもよいのだが、このうち、ガについては一筋縄にいかない複雑さがみられるので、ここではその違いについて述べる。

山岳名で最も知られる槍ヶ岳を例に挙げてこの間の事情を考えてみよう。まず一般に出廻っている本や資料に出ている山名は「槍ヶ岳」でケを小さく扱っている。それは先にあげたツやノと同じで別に不思議は無いのだが、続いて「槍ガ岳・槍が岳」と続くのである。そこで全国の山岳愛好家から、なぜ助詞を統一しないのか、と注文が出る。本の出版元では読者の意見はもっともなのだが、できない事情もあるので、苦慮したうえ三種の助詞のいずれも間違いではないと言うだろう。

こうした違いはどこから生じるのだろう。

まず槍ヶ岳のケはガ・がとは読まないのが普通である。ところがケはなぜかガ・がと発音することになっている。現代かなづかいでは、これは変なので「槍が岳」と表示しなければならない。こんな変なことはないので、疑問は深まるばかりである。

現代かなづかいを忠実に守らねばならない教科書などは「槍が岳」であるが、一般では固有名詞の伝統的な習慣に従えばよいとのことで、ケもガも地形図や資料などに使われることになる（当新ハイ関西誌では全てケに統一している）。そうして三種類の表示法が世間に出廻ることになる。なぜ統一できないのか、その問題に移る。

実はガの親に当たるケは个というれっきとした漢字だったのである。手近かの漢和辞典にはっきり出ている。「字統」には「〝一介の臣〟礼記大学に引いて〝一个の臣〟に作り」とあり、一个を支柱とみなして臣を考えているようだ。また「経典釈文の附音はいずれもカである。箇と通用し」（榜点筆者）と述べており、また「字通でも「礼記に三个・四个のように姓体を数える……」とあって臣の存在を数える場のあったことを述べる。

ケはツと同じく数の後に付す接尾であり、その起源は中国にあったらしい。その用法があまりにもわが国のツの扱いに類似していることに驚くばかりである。

『地名を歩く』で山口恵一郎氏は箇がなぜ転化していったかの事情について見事に解き明かしてくれる。『〝ケは个〟の筆記体つまり行書か草書のかたちであり、同時に箇の省略形である。そして活字体の場合は、かたかなの〝ケ〟を借用したものだと考えることができる。したがって、姿は〝ケ〟でも〝カ〟または〝コ〟と読むべきもので〝ガ〟は先行語を受けるための濁音化である』と明解である。つまり个は箇と同義で数を示す漢字であり、これを助詞として使用し簡略化を進めるうちに意味が不明になった、というわけである。さらになぜ箇が地名に使われたのかについては『個すなわち〝ひとつ〟の意から数量の単位に使われ、

これが地名の場合には形容的接続助詞のような機能をもって転用されて……』である。わかりやすく表現すると、槍ヶ岳なら、槍のような形の山、駒ヶ岳なら、それらしい形容の山であることを意味している。

このあたりの変化と転化は、いかにも日本的でおもしろい。

ケは漢字だから略字化のパターンも転も自由にまかされてきたのであり、これが最初から仮名ならば助詞としては不可で当然のこと、別の字が当てられていたのである。

現代の教育（教科書）では、読み方が優先するので現実には不可解な「槍が岳」が生じてしまうがやむを得ないことになる。

そして現実には様々なバリエーションが統一されずに残ることになった。地図などそのごく一部に性格上一定の統一がなされているが、ケの小文字が多いとはいえ、別に強制力があるわけではない。センセーショナルな言い方をすれば無法に近い状態にあるわけだ。

また、助字を小文字とするのも補助、誘導の目的とする役割と文章の美観を保つ意味で慣例化しているだけで助字といえども大きい字で書いても別段違反では無いのである。

さて、国語問題における表意派と表音派があり、両者は相ゆずらぬ立場のようであるが、前者を「个・ケ」とし、「カ・が」とすると、教科書は後者である。ところが厄介なことに、各自治体などが法律によって規定した地名がある。それは慣用に従ったものが多く現代かなづかいや当用漢字とは相反するものなのだ。自治体などの公文書に規定され固定された地名表記なのに、教科書などでは勝手にケなどをガまたはがに変更しているのである。両者とも法律や規定によっているので言い分は正統である。

この原因は山口氏の指摘するように、やはり『地名を重要な施策の軸としなかった現在の国語政策の罪である。当用漢字や現代かなづかいは地名を混乱させた。従来問題でなかったことが、今日では厄介な問題となったのである。』と言う。

しかし、厄介ではあるが私たちは地名を扱うかぎり、この問題に嫌でも付合わざるを得ないのである。

最後に山口氏の結びの言葉を転記しておきたい。『本来連結の機能をはたすための〝部品〟であるから、メーカーがちがえばその部品もちがい、あまり厳密に「野」が「之」か「乃」かを詮索する必要はなく「ツ」の有無もまた同様、「ケ」も「ガ」もいわば地名観の相違と鷹揚に構えてよいのではないか。問題となるのは慣用の方向を規定していく国語政策のあり方である』

ケの使い方の見本のような文章を古典文献で探ってみると、例えば南北朝時代の北畠親房（南朝の臣）の「神是正統記」がある。この文章のなかに「大日本豊秋津州トナツク、今ハ四十八ヶ國ニワカテリ」とある通り、榜点を筆者が付した部分は明らかに四十八箇の国と述べて数字を表現している。このような使い方が本来は正統なものであったが「槍ヶ岳」のような場合を類推すると「一本の鋭い槍のような形状の山」ということになる。四十八ヶ國のように具体的な数字は示されないが明らかに字意の裏側に、他に例をみない特別な存在として「一箇の」という意味が込められているように感じる。

〈山のレポート〉
2005年1等三角点全登頂を断念した

夏の北海道の山々

生駒　聳峰

夏には毎年北海道の山に出かけている。目的は1等三角点の山に登るためで、今や7山を残すのみである。いずれも困難な山ばかりで、体力の衰えもあり、今夏で最後の挑戦にする。登れても登れなくても、私の20年にわたる1等三角点の山巡りは終了としたい。

今年の北海道は残雪が多く最初から、1等三角点の浜益岳は断念した。

浜益村には、黄金山（740㍍）というすばらしい名前の、北海道百名山にも取り上げられている山がある。もちろん登山道がある。

前夜は浜益キャンプ場に泊まる。真っ赤な太陽が日本海に沈む。この景色だけでも北海道に来た価値がある。

翌日滝川方面に走り、浜益温泉を過ぎた所から林道に入って黄金山の登山口に到着する。トイレと20台ばかりの駐車スペースがある。

山頂まで1884㍍の距離、1時間30分と示されていて、ゆるやかな道が樹林のなかにのびている。

30分足らずで水場に到着する。なかなか旨い水だ。登山道はここで旧道と新道に分かれる。新道をたどって右尾根に取り付く。形の良い山はどこも急だが、手を使っての崖登りで、岩頭に登り着く。左右は切り立つ絶壁、緊張しながら山頂に到着した。

五坪くらいの狭い山頂は、まるで塔の上にいるようだった。浜益御殿・浜益岳・群別岳と雪の山が連なる。山はまだ目覚めてはいなかった。今年は1ヶ月ほど夏は遅いようだ。

その後北上し、1等三角点のイソサンヌプリ（581・4㍍）に挑戦する。一回目は登れず、二回目で何とか登頂を果たした。次いで1等三角点の風烈山（410㍍）にも登頂。結局、残った7山のうち2山は登れたが、最後まで残った5山は断念することにした。

これで、20年にも及ぶ私の1等三角点の山は終局を迎えた。断念してみると、いっぺんに肩の荷が下り、かえって心もさわやかになった。自分でも気づかなかったが、大変な重荷になっていたようだ。後はのんびりと好きな山を楽しもう。

摩周岳（カムイヌプリ・857㍍）も気になっていた山だが、なかなか機会がなかった。

弟子屈の朝は霧に包まれていた。天候を気にしながら摩周湖に車を走らせると、山に近づくにしたがって霧が晴れ青空が広がる。下界は一面の雲海である。

早朝の駐車場に人影は無かった。摩周湖の登山届には、一日4～5組が記載され、6～7時間のコースタイムと見られる。

道は摩周湖の外輪山を半周して行く。刈り払いされてなく、昨夜の雨でびしょ濡れ。青空の下で雨具を着けて草を分ける。三角点ピークの麓で道は明瞭になり、雨具を脱いだ。三角点では視界が開け、青い湖の中にぽつんと中の島が見えた。行く手には荒々しい火口壁を見せる摩周岳が望まれる。どこに道があるのだろう。右には西別岳がそびえ、裾野の樹海は雲海に消えていた。

少しくだったお花畑のなかに、コンクリートの柱が立つ。なつかしい午線標石である。

摩周岳を眺めながら進む。西別岳からの良い道を合わせ、小さい火口をたどり、最後の急坂を登ると山頂の岩峰に踊り出た。

眼前の岩壁が荒々しい。斜里岳が大きく蟠る。さすが百名山だ。その裾野に小さく蒸気を上げるのは硫黄山らしい。西には阿寒の山々の影も見える。摩周湖はあくまでも青かった。

北見富士と言われる山は北海道内に二つあるが、今回は留辺蘂町の山（1291㍍）に登る。御根湯温泉には立派な道の駅があり、大きなカラクリ時計が毎時人形劇を演じ、ヨーロッパの雰囲気を漂わせている。ここでも車泊は可能だが、村はずれの公園には無料のキャンプ場がある。

黄　金　山

国道39号線から北見林道に入り、山の裏側の峠に上がる。北見富士は一応知られた山なので登山道も明瞭かと思ったら、全く道の無い山である。全山樹林に覆われ、ササと灌木で埋まる。所どころに獣道状の踏み跡が残るのみである。富士と名の付く山はどこでも傾斜がきつい。

樹林の山頂からは全く展望が無く、2等標石と林班を示すブリキ板以外、全く登頂者の形跡は無かった。下山後は渓流に竿を出す。数匹のオショロコマが夕食を賑わした。この周辺には幾つも温泉があり、汗を流すのには事欠かない。

次に武華山（1759㍍）を目指す。この山はよく知られた山で、登山路も明瞭で多くの人に登られている。石北峠の手前から林道に入り、ダムの下に駐車する。

登山道は周遊になっていて、中央の沢を挟んだ左右の尾根に付いている。樹林帯を抜け尾根に登り着くと展望が開け、アルプス的な景色が広がる。一面のハイマツの間にイソツツジが満開である。一部残雪が縦走路を塞いでいた。山頂からの展望はすばらしく、1等三角点の武利岳が目の前に広がる。尾根には所どころに踏み跡があり、以前は武華山から武利岳へ縦走できたそうである。北にはまだ残雪の多い平岳がのびて、ニセイカウシュペが頭を出す。その背後には、まだ真っ白な大雪の山々が望まれた。南にはニペソツ山・ウペペサンケ、東には昨日登った北見富士が良い姿を見せ、はるか雲海の彼方には阿寒の山々も見られた。いずれも懐かしい山々ばかりである。

下山はライオン岩を捲いてくだる。尾根から眺めた姿は、確かにライオンだった。

石北峠を越えて大雪湖畔を三国峠に走る。峠から見下ろす十勝三叉の大樹海は、壮観の一語に尽きる。樹海の周囲にはニペソツ・ウペペサンケ・クマネシリと、名ある山々が取り囲む。こんな景観は北海道でも数少ないだろう。

糠平温泉から然別湖に向かう。一軒宿の山田温泉でひと休み。鄙びた浴槽に透

明の湯が溢れ、しばし秘湯を楽しむ。

然別湖の周辺には簡単に登れる山々が点在する。湖の対岸には、白雲山（1187㍍）から天望山（1173㍍）を縦走して湖畔を戻るコースがある。登山口の湖畔には、釣人の車が多く止まっていた。湖は有料で釣れるが、天然記念物のオショロコマはリリースとのことだった。

白雲山山頂は岩石が積み重なり、湖には観光船が尾を引き、白いホテルが箱庭のように眺められた。一度くだって天望山に登り返す。ここも湖の展望がすばらしい。東雲湖に向かってくだると、いつの間にか霧が舞い上がり、小雨が降ってくる。ナキウサギも雨では姿を見せなかった。

南ペトウトル山（1425㍍）はホテルの横から尾根に取り付く。コザサの道を伝い、最後は少し急登だが、簡単に山頂に到着する。ホテルの裏側の位置になり、湖越しに白雲山・天望山が美しい。天望山は唇山と言われるが、形がよくわかる。

然別湖の鹿部側には、東ヌプカウシヌプリ（1252㍍）・西ヌプカウシヌプリ（1212㍍）の二山がある。どちらも簡単に登れるが、まず東ヌプカウシヌプリを目指す。白樺峠の車道脇に車を止める。目の前に大きな山名板が立っている。林のなかの道は、雨水にえぐられていて歩きづらい。しかし、たいした距離でもなく簡単に到着した。2等三角点があった。山頂に続くササ原はお花畑で、何種類もの花が咲いていた。のんびりとした山である。

西ヌプカウシヌプリは、車道を挟んで向かい合う位置にあり、扇ヶ原の展望台に車を置く。ここにも大きな山名板が立っている。ダケカンバのコザサのなかに、なだらかな登山道がのびている。前山は一面のお花畑で、紫のアヤメが目を引く。目の前にはおだやかな東ヌプカウシヌプリが盛り上がっている。牧場のような前山を少しくだって山頂に向かう。こちらは岩石の積み重なる斜面で、前山とはいっぺんに山容が変わる。岩を伝って上部に取り付き、やぶ気味の斜面を稜線に登る。山頂は細い稜線の一隅で、山頂の趣も無く腰を下ろす空地も無い。樹間からわずかに然別湖が覗いていた。前山のほうが余程山らしい。

午後は温泉に入って洗濯をし、衣服を乾かしながらの休養タイム。缶ビールを片手に読書をしたり、昼寝を楽しむ。

山を連続して記録したが、何も連日登ったわけではない。北海道は広いから登山口までででも日時がかかる。梅雨の無い北海道と言われているが、この時期案外と天気は良くなかった。北海道の人は異常気象と話していたが、例年旅をしていると、雨にはよく遭遇する。もちろん雨では山に登れない。

知床は今年世界遺産に取り上げられた。来年からは観光客が増えることが予想される。カムイワッカの湯滝もマイカーでは入れず、バスに乗り換えで不便になった。知床五湖もヒグマの出没で立ち入りできなかった。しかし、知床峠からの羅臼岳は、いつ見ても見事である。

羅臼の熊の湯キャンプ場で数日を過ごす。毎日朝湯の露天風呂は、何と贅沢なことか。無料だからさらに気分爽快だ。

結局、6月末から9月まで、こんな山歩きで2ヶ月間も北海道暮らしをした。宿には一泊もしない全部車泊まりである。本当に北海道はすばらしい。定年後の夏の生活は、北海道に限る。皆さんもいかがですか、夏は北海道に出かけましょう。

せせらぎ

題字・小林玻璃三

1月29日、相津峠から、独り、高野板（こうのいた）山を目指す。林道からは、局ヶ岳～高見山の飯高北嶺が一望だが、尾根からは、烏岳が一時覗くのみ。三角点山頂からは、南側の落葉樹林の間に、総門山、宮川、三瀬谷ダムが辛うじて見えた。この山は取付点に迷ったが、尾根にのれば一本道。隼、鶫など、様々な野鳥に出会えた。

2月12日、志摩市の迫子（はざこ）浅間山へ。近畿自然歩道として整備された登路は、大部分が石段で、土道の部分にさしかかるとほっとする。山頂直下には展望所も設けられ、なかなか良い眺めだった。南伊勢の山々、海苔網の美しい入り江、陽光輝く英虞湾と太平洋、その間にのびる先志摩半島、横山の麓に広がる鵜方の街並。周りの姥目樫がのびるまでは楽しめるだろう。

2月18日、南伊勢町の迫間（はさま）浅間山へ。漁港から10分で山腹の海雲寺に。石龕仏を見ながら、さらに20分で頂上の浅間社に到着。4等△のあるここは砦跡らしい。海側の眺望絶佳。養殖筏が浮かぶ湾内の左右から、宿・田曽の浅間山、南海展望台のある半島がのび、青と緑の複雑なタペストリーを見るようだった。

（松阪市　薮木伸人）

青春18きっぷを使用し、播州赤穂線伊里駅下車、春日山（279㍍）から烏泊山（319・1㍍）を経て日生駅に小縦走を試みた。

伊里駅から北に行きJRを東にくぐり、梅の咲く高速道岡山ブルーラインを南にくぐって沢をつめる。踏み跡は堰堤までしかない。

いきなり下生えが濃い。背の高いウラジロがアゲインストで立ちはだかる。コシダが出て楽になったのも束の間、またウラジロ。難渋し先頭を交替して春日山山頂に着くが、相変わらず身を置く空間もない。三角点は無く展望も山名プレートも無い。こんな山は人も来ない。

春日山から真東にため池にくだる。沢沿いの下生えの薄そうな所を突破し、ため池の堰堤で手早く食事。

この堰堤から烏泊山へ取り付くもやぶだらけ。絶望しつつ右往左往し、堰堤の南数十㍍の沢の下生えの薄そうな所からつめ上げれば山頂で、1等三角点に挨拶した。烏泊山の東斜面は縦横に遊歩道があり、地形図を見ないでもくだれた。

日生の料理店「磯」で二次会。思い出深い山行だったが、このコースは再び訪れることはないだろう。（向日市　湯浅康夫）

4月上旬、口丹波山塊の三郎ヶ岳（614㍍）へ登った。3月の丹波七福神めぐりの時に意識した山である。

バス停「出雲台」から歩き始め、入口に「右あたこ　左そのへ」と彫られた古い石碑の所で林道に入った。背、八木の人がこの道を登って出雲峠を越し、七谷川から原に入り、愛宕山へ参ったとされる峠道である。

峠から三郎ヶ岳へ往復したが、今年初めての山登りであり、それも登山口からの標高差は500㍍以上で、私のような高年者にとっては厳しかった。

三角点標石（太マツの根の横にあり、等級の文字はめずらしく西四）や、プレート標識を確認した後、山頂の小広場でゆっくりした。

出雲峠からは七谷川を目指した。ややこしい谷道をくだって、谷に沿う林道へ出てさらにくだり、原への車道へ出た。七谷川沿いをくだり、一の橋を渡ると

「さくら公園」である。七福神めぐりの時に休憩地だったのだが、今回は満開の花見が楽しめた。

登る前の調査では、三郎ヶ岳は関西の山関係の本に記載されてなく、分県登山ガイド『京都府の山』にも見られなかった。いろいろ探し、『京都北山白山』（北山クラブ）・『京都丹波の山（上）』（内田嘉弘）・『京都北山白山』（上）』（内田嘉弘）・『京滋百山―三角点を行く―上』（芝村文治）に記載を見つけた。

コースは、山と高原地図「京都西山」及び「京都北山Ⅱ」（昭文社）を参考としたが、'87年版の古いものであり、'06年版には「三郎ヶ岳」自体が載っていないことに驚いた。

出雲峠から山頂までで、下山中の中年男女10人組とすれ違って話を交わせたのは嬉しかった。

（枚方市　東谷　宏）

4月の例会で、スミレの東京高尾山、カタクリの新潟角田樋曽山への花巡り山行に参加しました。

天気、山仲間とリーダーに恵まれ、花三昧と登山の醍醐味を満喫し、いまだ幸せな気分に浸っています。

高尾山のエイザン・ヒナ・ナガバノスミレサイシン・アオイ・アカフタチツボのスミレたちはもちろん、お目当てのタカオスミレにも巡り会え、花弁を打ち震わす拍手とみんなのほほ笑みが、一番のお土産になりました。

私も各地の山野草を見ていますが、これほど神秘的なお花に出会えたのは初めてです。

また翌日の角田山の登山道には、谷底から足元までカタクリのオンパレード。その優雅な紅紫色の花弁の鮮やかさに驚き、さらにはオオミスミソウが白、ピンク、紫色とカタクリに負けじと咲き誇り、胸が張り裂けんばかりの感動でした。

また、樋曽山の稜線にも空を染めるかと思わせるカタクリの大群落が広がり、純白のキクザキイチゲも競演していました。

これほどまでの大群生地はこの世の楽園かと目を疑うほどで、お花の優しさが胸に染みるようでした。

高尾山、角田、樋曽山には遠休にもう一度訪れるつもりです。

（神戸市　前田喜久子）

西上州の山は、奇岩怪石と尖峰が乱立する妙義山に代表されるように、独特な山容の山が連なっています。

4月の例会山行では、表妙義中間道を歩いた翌日、名前もきれいな物語山に登りました。この物語山は、西側にメンベ岩という奇岩を従え、この岩に伝わる戦国の世の武将たちの悲話が山名の由来となっていますが、アオヤシオ咲く山頂からの眺めは絶景で、西の方向には、航空母艦とも形容される荒船山の真っ平な頂上部が浮かんでいました。

帰路、物語山の登山口から、コスモス街道の愛称をもつ国道254号を佐久平に向かいましたが、県境の内山峠に近づいた頃、バスの窓には、荒船山の有名な「鱸（とも）岩」と呼ばれる大岩壁が飛び込んできました。福野に豊かな自然林をもち、その上に堂々たる姿でそびえ立つ「鱸岩」の威容は、他に類のない迫力で、私たちはただただ圧倒されるばかりでした。

実は昨年10月に、例会山行で荒船山を歩き、この「鱸岩」まで登っているのですが、当日は本降りの雨で何も見えなかったのです。

もう一度、この荒船山の見事な山容を眺めながら登りたい、そんな思いが募りました。西上州は、冒険とロマンに満ちた山域ですから、当分、いろいろな山に通ってみたいと考えています。

（各務原市　鷲見守康）

山行短歌

2月23日　西播三濃山
洗いたてみたいな綺麗な空だね
山赤蛙が天使の声で鳴く

3月4日　大峰乗鞍岳
白い恋人たち夜半に降りつづき
ぼくを包んでくれる銀世界

3月8日　播州七種薬師
おびただしい倒木が前進阻み
目指す薬師は虚構かも知れず

3月15日　播州七種槍
岩尾根を僕等は嬉々として渡る
槍が揺れつつ遠ざかる道を

3月25日　但馬剣蛇岳
大空へコウノトリ翔けてゆけ
残雪の尾根で手を振るものに

3月30日　南紀高尾山
桜咲き始めた奇絶峡その宙に
海いろの光の粒が舞っている

4月2日　六甲夙川緑道
かけがえのない友と桜堤ゆく
やさしい雨よ咲き初めの花よ

4月6日　紀北国城山
紀ノ川にサクラの花びら流れて
開けゆく海の花嫁となれ

4月14日　西山小塩山
僕が生まれる前の前から君は
地上でほほ笑んでいた片栗よ

4月17日　鈴鹿鍋尻山
福寿草に出会えるはずだから
春物のシャツ着て山へ向おう

4月22日　湖北慕谷山
かなしみの涙色したイワウチワ
山で逝きたる恋人を悼み

（吹田市　木村太郎）

近江の国のほぼ中央に鎮座する繖山（433㍍2等三角点）は古くからの信仰の山で、山頂直下に聖徳太子が創建と伝えられる（西国33番札所）観音寺があったが、平成5年の火災で消失した。

その後、今度は西の山腹から火が出て北斜面に広がり、西と北斜面のほとんどが燃えて丸裸になった。

観音正寺は、平成17年に再建された。木の煎も新たに白澄寄木造で千手千眼観世音菩薩が安置され、今は参拝者で賑わっている。

神社・仏閣は古い建物が多く、建ったばかりのピッカピカの寺と林立する石垣は見事で一見の価値がある。東には佐々木城跡、西には六角氏の居城観音寺城跡、山腹には桑実寺がある。

西と北斜面はモミジを主に植林されたが育ちが悪い。今はワラビが大群落で広がり、春にはワラビ摘みで賑わっている。

十方嶺ともいわれる繖山山頂も近年灌木が切り開かれ、展望が開けた。特に西の安土城に向かう尾根と北の地獄越えに向かう尾根からは、大パノラマが展開する。

琵琶湖・伊庭内湖・西の湖と湖東平野。そして三上山・比叡山・比良山系・湖西や湖北の山々。特に冬期は金糞山・伊吹山・霊仙山の巨峰が雪で白く輝き、御池岳・雨乞岳・綿向山まで近江の国の周りの山々が眺望できる。

自宅から近いこともあり、山火事の後は特に気に入り、再三登って楽しんでいる。

（近江八幡市　岩野　明）

4月、飛鳥の里へ行った。まだ歩いていない石舞台から藤原京跡の間がやっと歩けた。

18年ぶりに訪ねた甘樫丘にはまだ桜が咲いていた。丘の上から、大和三山に囲まれた藤原京跡がよく眺められ、下には推古天皇の豊浦宮跡が見えた。

甘樫丘から天智天皇がつくった日本最古の水時計があった水落遺跡に行った。漏刻台の様子が絵図によって説明されているが、柱の下に礎石が無いのはどうしてだろう。たぶん柱の下に礎石を置くほどに建物が大きくなかったからであろう。

飛鳥寺に向かう。この寺も18年前に訪ねているが、今は当時の様子を留める伽藍は残っていない。飛鳥寺を後に、斉明天皇の土木工事によって出来たという酒船遺跡に向かう。遺跡見物には料金が要るが、ボランティアガイドが説明してくれる。平成12年の発掘調査で新たな石造物が発見されていて、私にもガイドの説明がよくわかり、ガイドの話も楽しい。2人で話をしていたら、周りの人たちがどんどん集まってきた。

皇極天皇の継承をねらう権力抗争で蘇我入鹿が殺された板蓋宮は、思っていたほど大きくなかった。蘇我氏の館がある甘樫丘が見えるこの場所でなぜ入鹿は殺されたのだろう。よほど皇極天皇と軽皇子（孝徳天皇）が用意周到に計画を練ったのだろう。最近、入鹿は歴史でいわれるほど横暴な人ではなかったと言われている。歴史は勝者によって書かれたものだから仕方がないかもしれないが、飛鳥寺で出家して命乞いまでした古人大兄皇子までが、2ヶ月後に殺されているのを思うと、やはり王位継承抗争が原因だったかと思えるのだが、私にはよくわからない。

この後、川原寺・亀石などいくつもの史跡を廻って近鉄あすか駅に出た。

（刈谷市　小出良春）

4月15～16日、神奈川県の百

名山、丹沢山へ10人で行った。百名山だから行ったわけではなく、昔、毎日見ていただけでまだ登っていなかったからである。

山頂では1等三角点標石があり、登りの途中では「宮」と刻まれた御料局の境界標を見た。「御料局三角点はあるのか」と、みやま山荘のオーナーに聞いてみると、「以前あったが無くなった」と言われた。しかし、探してみると標石が転がっていた。御料局と境界点の文字が刻まれている。境界点のことを誰か知りませんか？　知っている方があればお教えください。

「宮」と刻まれた境界標は塩見岳と愛知の岩岳・三河本宮山でも見ているが、三角点は塩見にはあったが他は無かった。同じく愛知の黒山でも境界標は見ているが、ここには宮三角点がある。いろんな標石があるものである。

4月末に行く予定の笈ヶ岳には3等三角点を埋めた時、すでに山林局の標石が埋められていたようで、まだ残っているのだろうか。登れたら探してみたい。

（海津市　山田明男）

4月29日、例会で湖北のカナ山・夜叉ヶ妹池を目指した。樫谷橋からのコースを計画していたが、申し込みが多く40名以上で歩くには大変だと判断し、距離は長いが作業道高山黒内線を利用して登ることにした。

作業道終点から支尾根に取り付き、天吉山からカナ山への主稜線にのると、残雪の上から伊吹山と岐阜県境の山々が一望でき、冠雪の金糞岳が真っ白に見えた。気分をよくして昼食後出発したが、今年は残雪が遅くまであり、稜線は木が横に倒されたままで歩きづらいことこのうえない。

結局、夜叉ヶ妹池までで時間切れで往路を引き返した。秋に再挑戦したいと思う。

（村田智俊）

サービスチェーン　新ハイキング

どこへ行こうか

SHCサービス

チェーン

サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで、必ず予約してください。予約のときに、料金を確認してください。

知床岩尾別ユースホステル（知床国立公園内）
〒099－4356
北海道斜里郡斜里町字岩尾別
電　0152－24－2311
羅臼岳登山、知床連山縦走、知床峠ネイチャーウォッチングボート
知床五湖、カムイワッカに一番近い宿

温泉ペンション　森のふくろう
〒080－1403　北海道河東郡上士幌町字ぬかびら源泉南区27
電　01564－4－2013
http://www.5.bbs.to/~mfukurou
東大雪のニペソツ山・石狩岳・ウペペサンケ山の宿泊拠点。朝・昼用弁当用意します。深夜釣り、新しいお部屋で（SHC会員1000円引、会員往復割）

清里イーハトーヴ　ユースホステル
〒099－4403
斜里郡清里町向陽282
電　0152－25－3995
貸切バス・御宿泊　日本百名山斜里岳近くの宿　貸切バスはお一人様より斜里岳酒岳荘まで承ります　羽田発着格安航空券も手配します　弁当用意します

大雪山層雲峡ユースホステル
〒078－1701
北海道上川郡上川町層雲峡
電　01658－5－3418
大雪山・黒岳ロープウェイへ徒歩5分（2006年グループ割引）8名以上で1名無料！（6・8・10月のみ）

八幡平グリーンホテル
〒018－5141
秋田県鹿角市八幡平大沼温泉
電　0186－31－2111
F　01186－31－2022
http://www.hachimantai-gh.com
東北の百名山の登山基地
国立公園八幡平温泉郷
雲上の大露天岩風呂

山小舎　八甲田山荘
〒030－0111
青森市荒川字寒水沢1－61
電　0127－28－1512
百名山・八甲田山の出発点、最新情報基地
ガイド常駐・山スキー・高山植物
手づくりパン・シチューが大人気
旅のわが家
ロープウェイ前

森吉山こめつが山荘
1泊2食4000円（駅送迎不可）
〒018－4451
秋田県北秋田郡森吉町森吉山高原
電　0186－76－2107
http://www5.et.tiki.ne.jp/~masugi/
花の百名山　森吉山一の腰登山口

妖精の森コテージラウル
1泊2食6000円（駅送迎可）

新鉛温泉　結びの宿　愛隣館
〒025－0252
岩手県花巻市鉛字西鉛23
電　0198－25－2341
F　0198－25－2938
http://www.iwate-kan.com
mail:gifu@iwate-kan.com
名峰二岐登山　小白森－大白森－中子・那須への縦走基地　1名でも最寄り駅送迎可（要予約）露天風呂と内湯

福島・二岐温泉　日観連　大和館
〒962－0621
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
電　0248－84－2021
F　0248－84－2205
せせらぎと露天風呂の一軒宿
名峰早池峰登山とスキーに

駒ケ岳観光ホテル
〒014－1201　秋田県仙北郡田沢湖町生保内字駒ケ岳2の30
電話　01887－46－2211
http://www.komagaken.com
花の百名山・秋田駒ケ岳・乳頭山へ
夏は登山・バイキング
冬はスキー・雪中かんじき体験
田沢湖高原温泉

さんそう　もみの木
1泊2食付き　6500円から
〒992－1121
山形県米沢市万世町刈安
電　0238－28－1051
F　0238－28－2990
（米沢スキー場）
快適なお風呂とおいしい料理のお宿
吾妻・飯豊の登山口と米沢駅まで送迎致します。（白布・大日杉）

尾瀬小屋
〒967－0531
福島県南会津郡檜枝岐村尾瀬ケ原
電　0290－89－2111－8342
オフ　0241－75－2225
（営業期間中）
自然の宝庫　尾瀬ケ原見晴
尾瀬、平ケ岳探勝と釣の山小屋
越後三山只見国定公園内
露天風呂と手打そばの

清四郎小屋
〒946－0000
新潟県魚沼市蓬の巣
電F　0900－2558－0028
期間外・電　F　0257－92－5026
越後三山・只見国定公園内
露天風呂と手打そばの

ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋

黒沢池ヒュッテ
〒949－2112
新潟県妙高市池の平温泉
電　0255－86－2261
ハイカーの宿・池の平温泉

民宿　ふれあい
1泊2食付き　6500円
〒962－0022　福島県南会津郡田島町大字塔江字上坪乙3955
電・F　0241－62－3602
七ケ岳登山に最適な宿です
心のこもった山菜料理でおもてなし
天然記念物指定の駒止湿原や
温泉町野地　新野地温泉バス停
電　0242－64－3624
新野地温泉
相模屋旅館
〒960－2157　福島市土湯
秋田駒登山基地
岩手の秘湯・名物露天風呂
国見温泉　石塚旅館
〒020－0582
岩手県岩手郡雫石町橋場
直通　090－9333－4734
5月から11月10日まで営業
連絡先　0196－92－3355
胃腸病の名湯・山菜料理
磐梯吾妻スカイライン入り口

民宿　ふれあい
1泊2食付き　6500円
〒962－0022　福島県南会津郡田島町大字塔江字上坪乙3955
電・F　0241－62－3602
ハイカーの宿・池の平温泉

ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋

黒沢池ヒュッテ
〒949－2112
新潟県妙高市池の平温泉
電　0255－86－2261

あみはりロッチ
〒020－0585
岩手県雫石町長山字岩手山
電　0196－93－2313
http://www.onyx.dti.ne.jp/~amihari
三回所の登山口、三回所のスキー場送迎OK
新幹線駅また仙女の湯（銭湯）も車で3分
秋田駒登山基地
岩手の秘湯・名物露天風呂
国見温泉　石塚旅館
〒020－0582
岩手県岩手郡雫石町橋場
直通　090－9333－4734
5月から11月10日まで営業
連絡先　0196－92－3355
胃腸病の名湯・山菜料理
磐梯吾妻スカイライン入り口

彩りの里　紅彩館
1泊2食付き　8300円から（入浴・休憩・昼食もできます）
〒960－0807
福島県伊達郡霊山町石田字宮司沢9－1
電　024－589－2233
阿武隈の名峰
霊山登山口の自然あふれる宿

スポーツプラザ四季・原田荘
冬…お得なリフト券パック
春・秋…旬の山菜料理と百名山登山
〒949－2113　新潟県妙高市杉野沢2590
電　0255－86－6016
妙高杉／原スキー場・妙高・火打・斑尾・黒姫・飯縄・戸隠・高妻山の登山基地（駅・登山口へ送迎可）
守門岳・浅草岳名コース送迎可能／新潟駅から登山口まで直接送ります／新ハイキング会員割引500円／ネイチャーガイド実施中
手打そば　大雲沢（おおくもざわ）ヒュッテ
山菜
〒946－0303
新潟県魚沼市大白川新田
電／F　0257－79－6－3024
http://www.ocn.ne.jp/~ookumo13/

山行計画（7・8月）

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（宿泊日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（株式会社損害保険ジャパンと契約）

死亡・後遺障害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

7月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
1(土)～2(日)	飛騨越中・三方岩岳と人形山	20	鷲見	
4(火)	鈴鹿・元越谷（沢歩き）	*10	田中賢	
6(木)	南紀・百間山渓谷	24	木村	
7(金)	大峰・弥山～八経ヶ岳	50	西上	
8(土)	京都北山・八丁平～峰床山・鎌倉山		狩野	
8(土)～9(日)	加越・鷲ヶ岳と越前甲（大日山）	25	森脇	
9(日)	鈴鹿・元越谷（沢歩き）	*	岩野	
14(金)～17(月)	栃木・日光白根山と男体山	20	鷲見	
15(土)	鈴鹿・宮指路岳	*	稲垣	
16(日)	京都北山・桑谷山～麦谷峠	22	村田	
19(水)	台高・西大台ヶ原	24	木村	
23(日)	鈴鹿・綿向山ヒミズ谷（沢歩き）	*	岩野	
25(火)	鈴鹿・神崎川（沢歩き）	*10	田中賢	
29(土)	芦生・京都大学研究林	*15	山田	
30(日)	比良・八淵の滝めぐり		秦	
30(日)	奥美濃・大日岳	*15	山田	

＊＝マイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。

④ グレードは、次のように決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）
（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）
（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）
（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）
（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（18時以降）の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください（リーダーから連絡はしません）。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

8月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
2(木)～4(金)	加賀・白山	24	木村	
5(土)～6(日)	北アルプス・乗鞍連峰	20	鷲見	
5(土)～6(日)	湖北・伊吹山～北尾根		村田	
6(日)	鈴鹿・神崎川～ツメカリ谷～白滝谷（沢歩き）	*	岩野	
6(日)	東濃・三界山	*15	山田	
12(土)～16(水)	北アルプス・立山～薬師岳	17	村田	
17(木)～20(日)	信越・苗場山～鳥甲山	20	鷲見	
18(金)	大峰・稲村ヶ岳	50	西上	
20(日)	湖東・鏡山		木村	
20(日)	鈴鹿・元越谷左俣～白滝山（沢歩き）	*	岩野	
21(月)～22(火)	大峰・前鬼川孔雀又谷（沢歩き）	*10	田中賢	
22(火)	六甲・観音山～ごろごろ岳		仲谷	
26(土)～27(日)	比良・武奈ヶ岳周辺（テント）		村田	
27(日)	芦生・京都大学研究林	*15	山田	

自然観察山行214
飛騨越中・三方岩岳と人形山
（一般向き）

期　日　7月1日(土)～2日(日)
　　1泊2日
集　合　（1日）JR岐阜駅9時15分
コース　（1日）岐阜駅（バス）白山スーパー林道三方岩岳駐車場―三方岩岳―駐車場（バス）五箇山宿（泊）
　　（2日）宿（バス）中根平登山口―宮屋敷―奥境稜線分岐点―人形山―宮屋敷―登山口（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約30000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　2万5千＝鳩谷・中宮温泉・上梨
係　　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
　　＊定員20名
　　＊6月19日まで
　　飛騨と五箇山の秀峰に登ります。雨天決行（コース変更あり）

鈴鹿・元越谷
（沢歩き・健脚向き）

期　日　7月4日(火)　日帰り
集　合　近鉄名張駅前8時00分／JR伊賀上野駅8時30分／JR貴生川駅9時20分／元越谷出合駐車場10時20分
コース　元越谷出合駐車場―元越谷―小岐須峠―猪足谷―駐車場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝伊船
係　　◎田中賢治　○岡平くみ子
申込み　〒518―0626 名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
　　＊定員10名
　　＊マイカー山行（5名まで乗合い可能です。希望者はその旨明記下さい）
　　涼しい沢で、セルフレスキューのためのロープワーク(1)を練習します。沢タビ、水切れのよい服装（スパッツ＋半スポン等）でヘルメットをお持ちであれば持参ください。装備は若干数レンタル可能です。希望者はお申し出ください（保険対象外）。小雨決行

ファミリーハイク87
南紀・百間山渓谷
（一般向き）

期　日　7月6日(木)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口7時20分
コース　新大阪駅（バス）百間山渓谷口―かやノ滝―百間山ノ滝―大落ノ滝―百間山―千体石仏―渓谷口（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約4500円（バス代・入山料含む）
地　図　2万5千＝合川・木守
係　　◎木村太郎
申込み　〒565―0854 吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
　　＊定員24名（会員に限る）
　　熊野大塔山系の深奥、水清冽な秘境の渓谷美を探る。雨天中止

大峰・弥山から八経ヶ岳
（中級向き）

期　日　7月7日(金)　日帰り
集　合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時00分
コース　橿原神宮前駅（バス）トンネル東口―奥駈道―弁天の森―弥山―八経ヶ岳―弥山―弁天の森―トンネル西口（バス）橿原神宮前駅（解散19時頃）
費　用　約4600円（阿部野橋駅起点・バス代含む）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　　◎西上利和　○東山澄夫
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊定員50名
　　広々とした弥山山頂とトウヒ・シラビソの原生林が残る近畿最高峰の八経ヶ岳。そして大峰の名花オオヤマレンゲ。涼を求めて歩きます。小雨決行

週末ハイク74
京都北山・峰床山と鎌倉山
（一般向き）

期　日　7月8日(土)　日帰り
集　合　JR湖西線堅田駅8時40分
コース　堅田駅（バス）葛川学校前―二俣―八丁平―峰床山―オグロ坂峠―鎌倉山―坊村（バス）堅田駅（解散）
費　用　約2200円（堅田駅からバス代）

地　図　昭文社＝「京都北山」
係　　◎狩野東彦
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　山ふところの八丁平湿原を通り、京都府第二の高峰、峰床山から鎌倉山を巡る自然林歩きです。雨天中止

加越・鷲ヶ岳と越前甲（大日山）
（一般向き）

期　日　7月8日(土)～9日(日)
　　1泊2日
集　合　（8日）JR京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース　（8日）京都駅（バス）白山神社登山口―鷲ヶ岳―（往路）―登山口（バス）たけくらべ温泉（泊）
　　（9日）たけくらべ温泉（バス）横倉登山口―大日峠―P1180m―越前甲―（往路）―登山口（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約20000円（バス・宿泊代）
地　図　2万5千＝熊谷・北谷
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　　◎磯野東治
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊定員25名（会員に限る）
　　鷲ヶ岳頂上からは勝山市街と九頭竜川が眼下に広がる。越前甲は急坂が続くが、頂上は360度の展望ですばらしい。赤兎山・荒島岳・白山連峰が望める。雨天決行

鈴鹿を歩く243
元越谷
（沢歩き・健脚向き）

期　日　7月9日(日)　日帰り
集　合　国道477号線元越谷林道入口手前広場8時30分
コース　広場―元越谷林道―元越谷―仏谷―右俣―稜線―猪足谷林道―広場（解散）
装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ必携
費　用　交通費各自（＊沢歩き山行のため保険対象外・救援対策費50円）
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　　◎岩野　明　○山田景三
　　○後藤康幸
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
　　初夏に花盛りになった夏の沢歩きです。白い花崗岩の秘境の渓谷・仏谷右俣を稜線まで突き上げます（37号47～54頁参照）。雨天中止

自然観察山行215
栃木・日光白根山と男体山
（一般向き）

期　日　7月14日(金)夜～17日(日)
　　前夜発2泊3日
集　合　（14日）JR岐阜駅22時00分
コース　（14日）岐阜駅（バス）丸沼高原スキー場（ロープウェイ）山頂駅―奥白根山―前白根山―五色山―湯元温泉（バス）中禅寺湖民宿（泊）
　　（16日）民宿―二荒山神社―男体山―志津峠（バス）戦場ヶ原散策（バス）民宿（泊）
　　（17日）民宿（バス）日光東照宮（バス）岐阜駅（解散）
　　＊帰路に浴食します。
費　用　約50000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　昭文社＝「日光」
係　　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
　　＊定員20名
　　＊6月20日まで
　　栃木の名峰・日光白根山と男体山を歩きます。雨天決行（コース変更あり）

三重の山88
鈴鹿・宮指路岳
（中級向き）

期　日　7月15日(土)　日帰り
集　合　椿大神社駐車場9時00分
コース　椿大神社（車）小岐須渓谷大石橋―小岐須峠道分岐―東海展望―宮指路岳―小岐須峠―大石橋（車）椿大神社（解散16時頃）
費　用　150円
地　図　2万5千＝伊船
係　　◎福田逸夫
申込み　〒519―0311 鈴鹿市大久保町2065 福田逸夫まで
　　＊マイカー山行
　　静かな山です。運がよければカッ

コウを聞けるかも。雨天決行

やぶ漕ぎ山行①
京都北山・桑谷山から麦谷峠
（中級向き）

期　日　7月16日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース　京都駅（バス）広河原能見町—西尾根—P804—桑谷山—東峰—東尾根—P790—P796—寺谷峠—久多下の町（バス）交流の森（入浴・バス）京都駅（解散18時30分）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　2万5千＝花背・久多
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呉比裕美
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員22名まで
やぶ漕ぎで、登山地図にコース表示の無い尾根を歩きます。状況によってはコース変更もあり。必ず長袖で参加ください。雨天中止

ファミリーハイク88
台高・西大谷ヶ原（初級向き）

期　日　7月19日(水)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口構内7時40分
コース　新大阪駅（バス）山上駐車場—七ツ池—開拓跡—開拓分岐—中ノ谷木橋—山上駐車場（バス）入之波温泉五色湯（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約4000円（バス代）
地　図　2万5千＝大台ヶ原
係　◎木村太郎
申込み　〒565—0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員24名（会員に限る）
森の香り漂うブナの樹海、バイケイソウの道を歩く。雨天中止

鈴鹿を歩く244
綿向山のヒミズ谷
（沢歩き・健脚向き）

期　日　7月23日(日)　日帰り
集　合　西明寺表参道広場8時30分
コース　広場—ヒミズ谷—二俣出合—水無尾根登山道—水無林道—水無山専用ロッジ—広場（解散）
装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ必携
費　用　交通費各自（沢歩き山行のため保険対象外・救援対策費50円）
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田晃三　○後藤康幸
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
V字のヒミズ谷を登ります。（37号47～54頁参照）。雨天中止

鈴鹿・神崎川
（沢歩き・健脚向き）

期　日　7月25日(火)　日帰り
集　合　近鉄名張駅前8時00分／JR伊賀上野駅8時30分／JR貴生川駅前9時20分／神崎川発電所入口駐車場10時40分
コース　神崎川発電所—天狗滝（往路）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝御在所岳
係　◎田中賢治　○岡平くみ子
申込み　〒518—0626　名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
＊定員10名
＊マイカー山行（5名まで乗合い可能です。希望者はその旨明記下さい）
涼しい沢で、セルフレスキューのためのロープワーク(2)を練習します。沢タビ、水切れのよい服装（スパッツ＋半ズボン等）で、ハーネス・ヘルメット、ライフジャケット又は浮き袋をお持ちであれば持参ください。装備は若干数レンタル可能です。希望者はお申し出ください（保険対象外）。小雨決行

芦生定点観察5
芦生・京都大学研究林
（中級向き）

期　日　7月29日(土)　日帰り
集　合　JR関ヶ原駅7時15分／JR近江今津駅8時10分／道の駅朽木本陣9時00分
コース　各集合地（車）生杉休憩所—三国峠—野田畑峠—シンコボ—杉尾坂—上谷—地蔵峠—生杉休憩所（車）各集合駅（解散）

費　用　交通費各自（車代1500円・1000円）
地　図　2万5千＝古屋
係　◎山田明男
申込み　〒503—0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員15名程度（集合駅を明記してください）
バイケイソウは見られるでしょうか、他の花は？　雨天決行

比良を歩く51
八淵の滝めぐり（中級向き）

期　日　7月30日(日)　日帰り
集　合　JR近江高島駅9時00分
コース　近江高島駅（バス）ガリバー旅行村—鴨川林道出合—魚止の滝—大摺鉢—貴船の滝—（オガサカ道）—比良明神—北比良峠—（ダケ道）—大山ローイン谷口—比良駅（解散17時頃）＊歩行6時間
費　用　約2200円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松・比良山
係　昭文社＝「比良山系」
申込み　◎桑　康夫　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
魚止の滝から畳子ヶ淵・大摺鉢・小摺鉢・屏風ヶ淵・貴船の滝・七遍返しの滝を探訪します（本誌54号参照）。雨天中止

展望の山19
奥美濃・大日岳（中級向き）

期　日　7月30日(日)　日帰り
集　合　JR西岐阜駅7時00分
コース　西岐阜駅（車）ひるがの高原—いっぷく平—大日岳（往路）ひるがの高原（車）西岐阜駅（解散）
費　用　交通費各自（車代2000円）
地　図　2万5千＝石徹白・大鷲・二ノ峰
係　◎山田明男
申込み　〒503—0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員15名程度
いっぷく平の主三角点を探します。雨天中止

ファミリーハイク89
加賀・白山（中級向き）

期　日　8月3日(木)～4日(金)　1泊2日
集　合　JR新大阪駅1階正面口7時00分
コース　（3日）新大阪駅（バス）別当出合—砂防新道—黒ボコ岩—室堂（泊）（4日）室堂—御前峰—翠ヶ池—室堂—観光新道—別当出合（バス）白山天望の湯・民宿（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約21000円（バス・宿泊・浴食代等）
地　図　2万5千＝白山・加賀市ノ瀬
係　◎木村太郎
申込み　〒565—0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員24名
名花ミヤマクロユリを求めて花の名山を訪ねます。雨天決行

自然観察山行216
北アルプス・乗鞍連峰
（一般向き）

期　日　8月5日(土)～6日(日)　1泊2日
集　合　（5日）JR岐阜駅9時15分
コース　（5日）岐阜駅（バス）畳平—肩ノ小屋—畳平（泊）（6日）畳平（バス）桔梗ヶ原—金山岩—金山尾根—平湯尾根—平湯温泉スキー場（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約31000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　昭文社＝「乗鞍高原」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊6月20日まで
乗鞍連峰シリーズの三回目。平成17年に整備された平湯口コースを歩きます。雨天決行（コース変更あり）

湖北
伊吹山から北尾根（一般向き）

期　日　8月5日(土)夕～6日(日)　1泊2日
集　合　（6日）JR近江長岡駅18時40分
コース　（6日）近江長岡駅（タ

林 佐吉郎
高田カツヤ 0721-98-2213

クシー）登山口（ゴンドラ）三合目―伊吹山頂上小屋（仮眠・泊）
（7日）小屋―お花畑コース―駐車場―静馬ヶ原―御座峰―国見山―（往路）―伊吹山―三合目（解散16時頃）

費　用　約7000円（大阪から宿泊・タクシー代）

地　図　昭文社＝「御在所・鈴鹿・伊吹」

係　◎村田智俊

申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊7月20日まで

小屋でゆっくり仮眠して翌日は北尾根を往復します。伊吹の夏の花盛りを楽しみます。6日が酷暑ならコースを短縮します。雨天中止

鈴鹿を歩く245
神崎川・ツメカリ谷・白滝谷
（沢歩き・健脚向き）

期　日　8月6日(日)　日帰り

集　合　国道421号線江瀬尾神崎橋広場8時30分

コース　広場（車）神崎川林道終点広場―神崎川―ツメカリ谷―白滝谷―スダレの滝―神崎川―白滝谷―アカナメ―神崎川―取水口―林道（解散）

装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ・浮輪又はライフジャケット

費　用　交通費各自（沢歩きのため保険対象外・救援対策費50円）

地　図　昭文社＝「御在所・鈴鹿・伊吹」

係　◎岩野　明　○山田景三
○後藤康幸

申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

神崎川の支流ツメカリ谷と白滝谷の沢を楽しみ、取水口までプカプカと浮輪でくだります（37号47～54頁参照）。雨天中止

展望の山20
東濃・三界山（中級向き）

期　日　8月6日(日)　日帰り

集　合　JR勝川駅7時30分

コース　勝川駅（車）夕森公園―林道経由登山口―三界山―（往路）―夕森公園（車）勝川駅（解散）

費　用　交通費各自（車代2000円）

地　図　2万5千＝奥三界岳・三留野

係　◎山田明男

申込み　〒503―0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員15名程度

4月1日はまだ雪でしたので、1等三角点を探します。雨天中止

北アルプス・立山から薬師岳
（健脚向き）

期　日　8月12日(土)夜～16日(水)前夜発3泊4日

集　合　〈12日〉JR京都駅八条口団体バスのりば22時30分

コース　〈12日〉京都駅（車）〈13日〉（車）立山駅（バス）室堂―一ノ越―雄山（往復）―一ノ越―ザラ峠―五色ヶ原山荘（泊）
〈14日〉五色ヶ原―越中沢岳―スゴ乗越小屋（泊）
〈15日〉スゴ乗越小屋―間山―北薬師岳―薬師岳―太郎平小屋（泊）
〈16日〉太郎平小屋―折立（バス）立山駅（車）京都駅（解散19時頃）
＊帰路に浴食します。

費　用　約35000円（レンタカー・宿泊代等）

地　図　昭文社＝「鎌・立山」

係　◎村田智俊　○安倉正勝
○呉比裕美

申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員17名（会員に限る）

雄大な薬師岳を立山から南へ縦走します。雨天決行

自然観察山行217
信越・苗場山と鳥甲山
（一般向き）

期　日　8月17日(木)夜～20日(日)前夜発2泊3日

集　合　〈17日〉JR岐阜駅22時00分

コース　〈17日〉岐阜駅（バス）〈18日〉（バス）湯沢町かぐらスキー場―和田小屋―神楽ヶ峰―苗場山―九合目―小赤沢八合目

（バス）長野県栄村（泊）
〈19日〉宿（バス）ムジナ平登山口―鳥甲山―屋敷登山口（バス）宿（泊）
〈20日〉宿（バス）野々海高原（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴食します。

費　用　約53000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）

地　図　昭文社＝「谷川岳・苗場山・武尊山」
「志賀高原・草津」

係　◎鷲見守康

申込み　〒504―0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊6月20日まで

豪雪地帯の長野県栄村に泊まり名峰・苗場山と鳥甲山に登ります。雨天決行（コース変更あり）

大峰・稲村ヶ岳（中級向き）

期　日　8月18日(金)　日帰り

集　合　近鉄橿原神宮前駅8時00分

コース　橿原神宮前駅（バス）清浄大橋―レンゲ辻―山上辻―稲村ヶ岳―大日山―山上辻―法力峠―母公堂（バス）洞川温泉（バス）橿原神宮前駅（解散18時30分頃）

費　用　約4600円（阿部野橋駅起点・バス代含む）

地　図　昭文社＝「大峰山脈」

係　◎西上利和　○東山澄夫
○前川和佳子

申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員50名

涼しい沢沿いから登り、新緑爽やかなブナ林の尾根を歩き、少しスリリングな大日山にも登ります。帰路、洞川温泉にて汗を流す。小雨決行

ファミリーハイク90
湖東・鏡山（一般向き）

期　日　8月20日(日)　日帰り

集　合　JR近江八幡駅近江鉄道バスのりば10時10分

コース　近江八幡駅（バス）鏡―鏡神社―鏡登山口―大谷池―竜王山―城山―東枯沢―西ゲート前（バス）野洲駅（解散）

費　用　約700円（バス代）

地　図　2万5千＝近江八幡・野洲

係　◎木村太郎

申込み　〒565―0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで

源義経元服地の里から万葉集の鏡山に登る。帰着の野洲駅前で野洲ほほえみ乃湯に立ち寄れます。雨天中止

鈴鹿を歩く246
元越谷左俣から白滝山
（沢歩き・健脚向き）

期　日　8月20日(日)　日帰り

集　合　国道477号線元越谷林道入口手前広場8時30分

コース　広場―元越谷林道―元越谷―左俣―稜線―大洞ノ頭―白滝山―元越林道―広場（解散）

装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ

費　用　交通費各自（沢歩きのため保険対象外・救援対策費50円）

地　図　昭文社＝「御在所・鈴鹿・伊吹」

係　◎岩野　明　○山田景三
○後藤康幸

申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

元越谷の左俣を稜線につめ、白滝尾根をくだります（37号47～54頁参照）。雨天中止

大峰・前鬼川孔雀又谷核心部
（沢歩き・健脚向き）

期　日　8月21日(月)夜～22日(火)前夜発日帰り

集　合　〈21日〉近鉄橿原駅前21時10分／前鬼川林道終点24時00分

コース　〈22日〉前鬼林道終点―孔雀又谷出合―垢離取り場―前鬼宿坊―前鬼林道終点（解散）

費　用　交通費各自

地　図　2万5千＝釈迦ヶ岳・弥山

係　◎田中賢治　○岡平くみ子

申込み　〒518―0626
名張市枯梗が丘6の2の18　田中賢治まで
＊定員10名
＊マイカー山行（5名まで乗合い可能です。希望

者はその旨明記下さい）

大峰屈指の美渓で行く夏を惜しみます。二ヶ所ロープが必要なので、保険対象外です。冷やしそーめん大会もあり。沢タビ、水切れのよい服装で、ハーネス・ヘルメットをお持ちであれば持参ください。装備は若干数レンタル可能です。希望者はお申し出ください。シュラフ必携。小雨決行

火曜ハイク23

六甲・観音山からごろごろ岳

（初級向き）

期　日　8月22日(火)　日帰り

集　合　阪急夙川駅南口9時20分

コース　夙川駅（バス）鷲林寺バス停―鷲林寺―観音山―ごろごろ岳―柿谷―芦屋川駅（解散14時30分頃）

費　用　交通費各自

地　図　昭文社＝「六甲・摩耶・有馬」

係　◎仲谷孔司　○沖　伸

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

距離は短いですが、岩登りや尾根歩きの雰囲気が楽しめます。雨天中止

テント山行

比良・武奈ヶ岳周辺

（中級向き）

期　日　8月26日(土)～27日(日)　1泊2日

集　合　(26日)　JR近江高島駅9時00分

コース　(26日)　近江高島駅（バス）ガリバー旅行村―大摺鉢―アカサカ道―貴船滝上部―広谷―八雲ヶ原（テント泊）

(27日)　八雲ヶ原―イブルギのコバ―広谷小屋―ナガオ―釣瓶岳―細川越―武奈ヶ岳―西南稜―ワサビ峠―中峠―コヤマノ岳―八雲ヶ原（テント撤収）―北比良峠―ダケ道―イン谷口―比良駅（解散18時頃）

費　用　交通費各自

地　図　昭文社＝「比良山系」

係　◎村田智俊　○安倉正勝　○吳氏裕美

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

八雲ヶ原にテントを張って、武奈ヶ岳周辺の山々を巡ります。テント泊装備・食料・サブザックを持参ください。雨天中止

芦生定点観察6

芦生・京都大学研究林

（中級向き）

期　日　8月27日(日)　日帰り

集　合　JR関ヶ原駅7時15分／JR近江今津駅8時15分／道の駅朽木本陣9時00分

コース　各集合地（車）生杉休憩所―三国峠―野田畑峠―上谷―長谷谷作業所―下谷―地蔵峠―生杉休憩所（車）各集合点駅（解散）

費　用　交通費各自（車代1500円・1000円）2万5千＝古屋

地　図　◎山田明男

係　〒503―0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで

申込み　＊定員15名程度（集合駅を明記してください）

ナツエビネは見られるでしょうか？　雨天決行

山行報告

（3・4月号）

新ハイキングクラブ関西

美濃・各務原アルプス

向山から大岩

（自然観察山行201）

3月4日(土)　晴れ

（集合）JR岐阜駅9・15（バス）桐谷坂9・55～10・00―向山11・00―向山見晴台11・20（昼食）12・20―岩坂峠13・15―金山13・45～50―大岩見晴台14・15～25―各務野自然遺産の森15・00～20（バス）各務原美人の湯15・40（入浴）16・35（バス）岐阜駅17・10（解散）

久しぶりに定員を超過し、26人という大多数だった。春を思わせる穏やかな陽気のなか、アップダウンを繰り返し、里山の稜線を縦走。気温が上がり霞が出たため、すっきりとした展望は得られなかったものの、能郷白山・北アの笠ヶ岳、乗鞍・御嶽・中ア・恵那山などの雪嶺を眺めた。

（参加者）池田繁美　加納由紀子　岩城豊子　川島勝美　菅　キヤウ

木村富子　栗栖崇吉　栗栖君子
小林　桂　小松志信　中澤則司博
田中善雄　佐々木三千代
夏山春子　平田輝美　武藤由美子
牧　和夫　松村雅子　村田はる江
水谷陽子　宮西和子　森　美香子
宮本真幸　山形　明　○森脇貞義
◎鷲見守康　（計26名）

六甲・摩耶山

3月5日(日)　晴れ

（集合）神鉄大池駅9・20―地獄谷東尾根取付9・50―P693 10・50―ノースロード11・30―三国池12・15―桃谷峠口12・45―アゴニー坂13・00―摩耶山掬星台13・20（昼食）14・20―行者尾根分岐14・45―行者堂15・35―東山15・55―雷声寺16・15―新神戸駅16・45（解散）

裏六甲は残雪が残っていて、春の風景はまだ先。掬星台でのんびりと食事。摩耶山からは行者道を経て新神戸駅へくだった。

（参加者）塩尻香織　小谷和子　首藤育子　河合慶行　前田喜久子　楠原良彦　松村雅子　猪狩美枝子　岩鶴健司　柳川常雄　野末あや子　森　瑞代　岩田寿士　市井ユリエ　馬籠忠男　山本武臣　山本令子　磯野重治　林　信男　狩野東彦　前田栄三　和田純子　鮫田二郎　原　文子　○宮下淳一　（計26名）

◎古賀慶三

鈴鹿遊山19

仙ヶ岳・修験者の道

3月5日(日)　晴れ

（集合）坂本集落入口・棚田駐車場8・00―上矢原―タカノス―仙ヶ岳11・30（昼食）13・00―法印のコバ―木動尊―行者像15・00―駐車場17・00（解散）

男性ばかりの参加で「こんなの初めてだ」の声も出る。矢原修験者の道は大峰講に通ずる。優しい仏様の顔を拝しながら回峰しました。下山時にアクシデント発生、参加者諸氏の連携。ありがとうございました。

（参加者）山村恭男　池田隆一　高原芳彦　山下尚男　小川富士雄　丹羽泰彦　伊東弘隆　中井昭二　前野勇夫　毛塚一雄　伊藤喜久男　◎筒井克治　（計12名）

愛知・出来山（展望の山14）

3月5日(日)　晴れ

（集合）名古屋地下鉄上社駅8・00（車）段戸湖9・35―生波峠10・10―登り口10・30―出来山11・00―段戸湖12・10（昼食）12・50（車）和市堤石トンネル前13・35―岩古谷山14・15―奥石峠14・45―和市15・15（車）上社駅17・30（解散）

出来山は南のルートから入るもわかりにくいルートで、少し難渋したが無事山頂へ着けた。戻っても時間があり、段戸山を目指すも道が悪く、県道の先の岩古谷山を一廻りした。

（参加者）佐藤文枝　伊藤恵美子　春見重美　小林一世　南　智恵子　栗栖崇吉　栗栖君子　後藤久美子　森脇貞義　馬場桂子　長坂佐知子　梅村和子　山田妙子　◎山田明男　（計14名）

残雪の雨乞岳

（鈴鹿を歩く235）

3月5日(日)　晴れ

（集合）かもしか荘8・20（車）清水平谷作業場8・55―P835 10・00―草原10・25―清水ノ頭10・55―雨乞岳12・00（昼食）13・00―シャクナゲ尾根取付13・20―林道15・00―広場15・35（解散）

急登1時間30分で植林を出ると、一気に展望が開けた。残雪の尾根はボカボカ陽気で大パノラマが広がり、清水ノ頭からは樹氷の花が光っていた。

（参加者）池田繁美　奥野太一郎　服部　堯　沖　伸　佐古田文子　村田紀生　小林　修　今井みよ子　鈴木　浩　鈴木友子　落合ひろ子　大西節郎　金谷　昭　堀木美恵子　永戸鉄治　白木良弘　白木やす子　武村千鶴　北村　稔　北村つねみ　光川二美子　○山田景三　○後藤康幸　◎岩野　明（計29名）

愛宕山シリーズ10

モミノ木尾根・社務所裏農林道から保津峡駅へ（火曜ハイク18）

3月7日(火)　晴れ

（集合）清滝9・00―モミノ木尾根取付9・35～40―月輪寺道合流点10・40～50―社務所11・30（昼食）12・30―水尾・清和天皇社13・30～45―大岩14・10～20―保津峡駅15・05～10（解散）

モミノ木尾根の急坂に大汗をかきながらも、青空のなか、枯れ葉を踏みしめて旧道を楽しむ。コブシが芽吹き始めていた。

（参加者）沖　紀子　山縣　隆　木村　豊　山岸勝雄　小川富士雄　大林　進　長尾一令　大須賀　實

蓮井洋子　塚本忠次　加納由紀子
豊村雅子　岩本彩子　中嶋日出男
加藤元彦　緒方由子　猪狩美枝子
小松志信　松尾麗子　大園加代子
後藤絢子　栗栖君子　石原君子
武村千鶴　渡部和美　志水明美
青木一雄　山岸勝雄　木下朝子
櫻井康一　谷　守　井上恭子
林　弘毅　狭尾一正　藤井むつみ
上田正子　中川節子　磯部　純
○山縣勝美　○村井寿和
○沖　伸　◎仲谷礼司（計49名）

湖北・七尾山

3月11日(土)　くもりのち晴れ
（集合）今荘ぶどう園10・20―七尾山南ピーク12・00（昼食）13・00―今荘ぶどう園14・55（解散）
南稜コースから頂上を経て、西の南池コースへと下山。下草がのび放題でやぶ山化していた。50㎝の雪上で伊吹山を目の前に昼食。冬から春への移行期の山であった。
（参加者）宮西和子　村田はる江
堀江房雄　磯部　純　渡辺美代子
山田明男　山田妙子　光川二美子
谷　守　水谷陽子　宍戸喜久江
加藤國計　神野孝允　武藤田美子
筒井克治　春見宙美　北村つねみ
◎高島伸浩（計18名）

京都西山・ポンポン山

（地図読み山行73）
3月11日(土)　晴れ
（集合）JR高槻駅9・30～41（バス）出灰10・30～45―登山口11・20―西尾根出合11・45―ツツジの丘11・40（昼食）12・20―竜ヶ谷12・40～13・00―リョウブの丘13・10～20―ポンポン山13・40～14・20―釈迦岳14・50―善峰寺バス停15・50（解散）
37人の大パーティとなり、地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強し、満開で可憐なフクジュソウを楽しんだ。
（参加者）川畠勝美　野末あや子
本間黎子　岩鶴健司　森　つる子
大石吉彦　橋本正子　上西信子
西原辰夫　橋本裕子　宮下淳一
塚本忠次　杉本英一　前田初雄
君塚修子　前田栄三　佐藤としえ
川上久堅　前田幸子　冨松雅子
大西裕郎　大西規子　梅田久子
宮尾信子　常盤純子　武田芙美子
岡本春美　武村千鶴　瀬戸内竹子
中谷栄子　中園昌子　岩本いすゞ
中村津吾　中村克子　徳永加代子
○中村　登　◎塚元一彦（計37名）

葛城・二上山から屯鶴峰

3月12日(日)　◎村田智俊
＊雨天のため中止しました。

曽爾・見通山から鷲ノ巣

3月14日　くもり時々雪
（集合）近鉄桔梗が丘駅9・00（車）猿子10・10―猿子林道10・30―見通山北西尾根11・15―乃木山三角点11・34―見通山11・55―見通山東谷12・15（昼食）12・55―鷲ノ巣13・35―立岩峰13・50―尾高山14・20―富士見峰14・50―大谷林道経由猿子15・25（車）桔梗が丘駅16・30（解散）
猿子は新雪が薄く積もり、山は冬に逆戻り状態。猿子から西風に吹かれながら見通山へ。稜線から東谷へ廃道をたどっていると、やぶから棒に二頭の鹿がドドッと突進して来て一同仰天。イノシシかと思った。鷲ノ巣から計画を変更し、立岩峰、尾高山、富士見峰と足をのばし、吹雪く大谷林道を猿子へ戻った。
（◎初者）緒方由子　前川和佳子
大村俊子　山縣勝美　佐古田文子
上西信子　池田繁美　湯浅みや子
上田久子　梶原泰彦
○岡平くみ子　◎田中賢治（計12名）

揖州・七種山

（ファミリーハイク78）
3月15日(水)　晴れ
（集合）JR新大阪駅7・20（バス）福崎町野外活動センター9・10～20―旧山門9・50～10・00―七種神社10・25～35―七種山11・25（昼食）12・20―小滝林道分岐13・05―七種槍13・50～14・00―3・3・3試峰15・15―鉄塔下15・35～45―野外活動センター16・15～25（バス）香寺荘竹取の湯16・45（入浴）17・50（バス）JR新大阪駅19・45（解散）
七種滝の景観、七種山から山々の展望、七種槍から岩稜歩きなど、趣向に富む山旅を楽しんだ。
（参加者）小泉大直　大園加代子
渡部和美　志水明美　道平きわみ
栗栖崇吉　栗栖君子　猪狩美枝子
本間昭恵　村上嘉子　中澤ちず子
松井明忠　西條良彦　久保田玲子
中井　博　澤田高治　藤原くに代
松尾麗子　西原辰夫　菅　キヤウ
多田陽子　平田輝美　渡辺寿美江
上田裕子　河本英機　河本英子子
上田直代　○秋葉幸人
◎木村太郎（計29名）

湖南アルプス・太神山

（平日ふれあいハイク57）
3月16日(木)　◎寺井恒夫
＊雨天のため中止しました。

奈良・烏ノ塔屋山から竜門岳

3月17日(金)　くもり時々晴れ
（集合）近鉄橿原神宮前駅9・10～15（バス）千本橋9・50―恋の谷分岐10・10―烏ノ塔屋山11・10―鉄塔12・15（昼食）12・40―4等三角点12・50―竜門岳14・15―山口貯水場15・30（バス）橿原神宮前駅16・30（解散）
倒木やイバラの道と悪戦苦闘しながらの縦走だったが、竜門岳の下山道に繁茂としてシロショウジョウバカマが咲き、春の訪れを感じた。
（参加者）渡部和美　野末あや子
栗栖君子　上田久子　岩本彩子
沖　伸　竹田善英　大和　紘
磯部　純　鮫田二郎　森田久子
村川春忠　永富律子　梶　眞知子
中谷栄子　志水明美　馬籠忠男
西村静子　金森節子　原　幸子
鞆　照子　白鳥忠子
○前川和佳子　◎西上利和（計24名）

九州南部の山

高千穂峰・開聞岳・仰烏帽子山
3月17日(金)夜～21日(水)朝
4泊（船中2泊）5日
（17日）（集合）大阪南港かもめフェリーターミナル19・00～30（フェリー泊）
（18日　雨）宮崎港8・05～15（バス）霧島神宮9・45～10・05（バス）高千穂河原10・20～40―高千穂峰お鉢11・30―高千穂河原12・20（昼食）13・05（バス）16・05（バス）開聞町国民宿舎（泊）
（19日　晴れ）宿舎7・30（バス）ふれあい公園駐車場7・40―二合目登山口7・50―五合目8・25―七合目8・55～9・00―開聞岳9・45～10・10―二合目11・50―ふれあい公園12・00（バス）枚聞神社12・10～20（バス）長崎鼻12・40（昼食）13・50（バス）球磨村勝地温泉（泊）
（20日　晴れ）勝地温泉7・30（バス）元井谷登山口駐車場8・50～55―登山口9・05―二本杉9・45―仏石分岐10・10～20―仏石10・25～35―仏石分岐10・45～11・00―仰烏帽子山11・35～12・00―仏石分岐12・35―二本杉13・00―登山口13・30―駐車場13・40（昼食）14・05（バス）五木村道の駅14・25（入浴）15・30（バス）宮崎港18・35～19・10（フェリー泊）
（21日）大阪南港7・20（解散）
（18日）高千穂峰のお鉢に到着したが、火口縁から高千穂峰取付までのやせ尾根が強風のため下山した。
（19日）この日は、指宿市の開聞登山イベント。春霞で屋久島の展望は無かったが、山麓周辺の展望は楽しめた。
（20日）谷崎鼻面のフクジュソウは見頃の終わりに近かったが、下山時は全面に陽が当たって黄色一色に染まっていた。
（参加者）栗栖崇吉　小川富士雄
仲谷礼司　村井寿和　大村俊子
石川　巌　田中善雄　山縣　隆
関田喜章　◎猪野東彦（計10名）

鳥羽・答志島（三重の山84）

3月18日(土)　くもりのち雨
（集合）近鉄鳥羽駅9・10―佐田浜9・20（船）桃取港9・30～40―ヤサク（三角点）10・20～25―浜A11・05―浜B―浜C11・20―浜D―浜E11・40（昼食）12・15―スカイライン12・30―和具瀬音寺13・25～40―岩屋山古墳13・50～14・00―答志漁港14・35―和具漁港15・00―九鬼嘉隆屋敷塚15・10―築上山（嘉隆貴塚）15・20―和具港15・30（船）佐田浜15・50―鳥羽駅16・00（解散）
尾根筋にたわわに実ったヤマトタチバナが数本あった。後半少し雨に降られたが展望は良好。なかなかの散策コースだった。船は定期船ではなく観光船を利用。
（参加者）永戸鉄治　岡本美千子
平　龍一　平　幸子　石田貞由美
山本雅子　中森義信　宮路ちへ子
村川春忠　林崎　功　岩城豊子
徳田暢子　栗栖君子　竹田勝英
繁田広美　繁田光浩　◎稲垣英夫（計17名）

スノーハイキング

乗鞍濃・毘沙門岳と野伏ヶ岳

（自然観察山行202）
3月18日(土)～19日(日)　1泊2日
（18日　くもり）（集合）JR岐阜駅9・20（車）白鳥高原スキー場駐車場11・00～15―最終リフト上部付近12・40（昼食）13・00―毘沙門岳13・50～14・05―スキー場駐車場15・20（車）石徹白宿15・50（泊）
（19日　くもりのち雪）宿7・20

(車) 白山中居神社7・30—和田山牧場跡9・25—野伏ヶ岳11・50～12・00—ダイレクト尾根12・30(昼食) 13・00—白山中宮祭社15・20(車) 宿15・30～16・15(車) 満天の渦16・45(入浴) 17・30(車) 岐阜駅18・40(解散)

両日とも天候が優れず見晴らしは望めなかったが、毘沙門岳と野伏ヶ岳の気高い雪化粧の姿を仰いだ。体調不良のリーダーと1人が野伏ヶ岳を途中リタイア、6人が残雪の野伏ヶ岳に立った。下山時、ダイレクト尾根で2ヶ所のブナのクマ棚を発見した。

(参加者) 北野泰信　石倉真佐子　大須賀　實　森　美香子　武藤由美子　山形　明　○中澤廣司博　◎鷲見守康　(計8名)

霊仙山からホッケ山

(比良を歩く47)

3月19日(日)　小雪

(集合) JR堅田駅8・50(タクシー) NTT栗原無線中継所9・15～30—霊仙山10・20—スゴバン10・50—権現山11・45～50—水分神社分社11・50(昼食) 12・15—ホッケ山12・40—権現山13・05～15—スゴバン13・40—林道終点14・10—霊仙山口14・17—栗原バス停14・45～15・13(バス) 堅田駅16・00(解散)

行きのタクシーでは、霊仙山の山麓に大きな虹がかかり、天候の回復を期待させたが、そうはいかなかった。2月下旬の「比良八講」法会で荒れしまいといわれるが、「比良八荒」に遭遇したのか、この日は終日小雪模様。時折薄日が射すが、権現山からの稜線には深雪が残り、踏み跡も無かった。

(参加者) 木本恭子　蓮井洋子　岩佐　修　中島　隆　平田和子　平塚明美　松尾厚子　武部美美子　多賀久子　妹尾公代　平田輝美　◎秦　康夫　(計12名)

残雪の御池岳・奥の平

(鈴鹿を歩く236)

3月19日(日)　雪

(集合) 小文谷分岐広場8・40—ノタノ坂9・40—土倉尾根10・50—土倉岳11・20—奥の平11・40—ドリーネ11・55(昼食) 12・20—青のドリーネ12・35—ブナ権現13・00—ブナ観察14・00—御池林道15・00—広場15・20(解散)

ノタノ坂へ登路は崩れて道が消え、送電線は強風でウォーン・ウォーンと異様な唸りを響かせていた。奥の平は凄い雪まじりの強風とガスで白一色の別世界。ドリーネの中での食事も地吹雪がして寒くて早々に切上げた。青のドリーネを廻りT字尾根を一気にくだった。冬山の厳しさを体験した思い出に残る山行となった。

(参加者) 伊東弘隆　奥野太一郎　池田繁美　武村千鶴　高原芳彦　大石将美　小松志信　大西俗郎　小林　修　奥田真雄　石田真由美　村田紀生　西村　修　岡平くみ子　澤崎　実　岩本彩子　網木美恵子　池田隆一　○後藤康寺　○山田景三　◎岩野　明　(計21名)

大峰・山上ケ岳

3月21日(日)　晴れ

(集合) 近鉄下市口駅8・40～50(タクシー) 五番関トンネル入口9・50～10・00—五番関10・30—蛇腹12・20(昼食) 13・00—洞辻茶屋13・30～40—お亀石14・00—山上ヶ岳14・25～40—洞辻茶屋15・20—清浄大橋16・40～17・00(タクシー) 下市口駅17・50(解散)

五番関から旧吉野道に入り、山上ヶ岳を目指して登った。洞辻茶屋で見廻役の3人と出会い女性の登山を制止されたが、無視して全員山頂へ登った。下山は参道をくだった。

(参加者) 松見　昭　宮路ちへ子　三井紘一　大和　紘　宮路聖希子　松村雅子　首藤育子　野末あや子　上山正二　遠藤　率　猪狩美枝子　小山誠次　筒居義文　山本福太郎　和田純子　細野欽也　佐々木輝子　岩本彩子　小谷和子　○呉比裕美　○安倉正勝　◎村田智俊　(計22名)

湖北・伊吹山 (花巡り山行28)

3月22日(水)　◎田中　明

＊雨天のため中止しました。

京都北山・オグラス (蛇谷ケ峰)

3月26日(日)　くもり

(集合) JR関ヶ原7・15／道の駅「朽木本陣」9・00(車) いきものふれあいの里9・30—カツラ谷10・15—グリーンパーク分岐11・45—オグラス12・00(昼食) 12・30—分岐12・40—林道13・30—ふれあいの里13・40～14・00(解散)

＊定点観察1の京大芦生の研究林へは大雪で入れず、オグラス(蛇谷ヶ峰)に変更した。

国道367号線が通行止めで迂廻りで集合した。カツラ谷も予想以上の雪で難儀したが、山頂からの展望は楽しめた。

(参加者) 竹田勝英　生越恵美子　沖　伸　藤本紀子　猪狩美枝子　木本恭子　小林　修　佐古田文子　朝倉紀雄　小林一世　長坂佐知子　竹内正子　北村　稔　北村つねみ　山本久雄　金谷　昭　西村文男　林　正義　◎山田明男　(計19名)

東山36峰 (最終第5回)

第28峰～第36峰 (火曜ハイク19)

3月28日(火)　くもりのち雨

(集合) 京阪伏見稲荷駅9・00—稲荷山9・50～55—光明峰(本寺山) 10・40～50—本多山11・25—恵日山11・35(昼食) 12・10—泉涌寺(泉山) 12・30—今熊野山13・10～15—阿弥陀ヶ峰13・40～50—清閑寺(清閑寺山) 14・10～20—清水山14・40—鳥辺山(鳥辺野) 15・15—大谷本廟15・25～30(解散)

光明峰ははっきりしない。入れない山もあるので、位置関係を確認しながら歩く。神社仏閣の歴史に触れる山行が多かったが、皆さんが楽しんでくれたのが嬉しい。最後の清水山は大雨に遭い東山36峰の紹介は終わった。

(参加者) 小栗大直　宮西初子　石原君子　白井忠子　北村つねみ　堀江房雄　渡部和美　光川二美子　吉藤孝次　西　悠子　岩本彩子　木下朝子　山根弘美　和田直樹　武田元司　横江　進　塚本忠次　東中次夫　船越利明　大林　進　○沖　伸　◎仲谷礼司　(計22名)

貴船から旧花背道・八瀬大原へ

(北山ちょっと歩き76)

3月29日(水)　くもり時々雪

(集合) JR京都駅八条口8・10(バス) 貴船駐車場9・10—旧花背峠11・00—天狗杉11・20—花背峠11・45—電波中継塔12・10(昼食) 12・40—百井峠13・25—焼杉山分岐15・30—大原バスターミナル16・20～25(バス) 京都駅17・25(解散)

花背峠の鉄塔下で食事にしたが、風と雪で京都方面や琵琶湖の展望が無く残念であった。鉄塔から百井峠間のやぶ漕ぎがよい思い出となった。

(参加者) 塚本忠次　磯部　純　山岸勝雄　加藤元彦　原　みとえ　宮崎紀正　井上巌美　井上由紀晴　岩本彩子　武村千鶴　風見瑞子　川上久堅　中川光郎　中村英雄　中尾博子　和田純子　豊村雅子　石原君子　後藤彩子　宮路ちへ子　上田裕子　神野孝允　山盛加奈子　西尾巳了子　林　弘毅　竹田善英　○金谷　昭　○谷　守　◎呉山繁三　(計29名)

箱根・金時山と箱根駒ヶ岳

(花巡り山行29)

3月29日(水)夜～31日(金)

前夜発—泊2日

(29日) (集合) JR大垣駅23・05～19(電車)

(30日　くもり) (電車) 御殿場駅7・33(バス) 乙女峠8・00—長尾山9・00—金時山9・45～10・10—矢倉沢峠10・45—火打石岳12・00(昼食) 12・25—明神ヶ岳13・20—明星ヶ岳14・40—強羅温泉16・30(泊)

(31日　晴れ) 宿—強羅駅8・30(ケーブル) 早雲山駅8・40—神山10・55～11・10—駒ヶ岳12・10(昼食) 12・40(ロープウェイ) 箱根園12・50～13・15(バス) 元箱根(バス) 熱海駅14・52(電車) 京都22・24(解散)

4年前の東海自然歩道ハイク以来、久しぶりの箱根の山だった。初日は曇りがちで残念だったが、二日目は最高の富士見日和となり、特に神山・駒ヶ岳からは、真っ白な冠雪の富士山と箱庭のような仙石原が大観望で、気分も爽快であった。(若松記)

(参加者) 木村　豊　船本裕巳子　村井寿和　山根弘美　村田はる江　仲谷礼司　若松　寛　冨松雅子　小松志信　山科邦彦　○西原敏夫　◎田中　明　(計12名)

南紀・高尾山

(ファミリーハイク79)

3月30日(木)　雨のち晴れ

(集合) JR新大阪駅7・40(バス) 奇絶峡滝見橋前10・20～30—三尊磨崖仏10・35～45—尾根展望地11・10～20—高尾山12・00(昼食) 12・50—東の展望台12・55～13・05—秋津川道分岐13・15—登山道分岐13・55～14・05—谷川口バス停14・20～30(バス) かんぼの宿紀伊田辺15・00(入浴) 16・10(バス) 新大阪駅19・00(解散)

歩き始めに降り出した雨が、尾根にかかると止んで、山頂に着くと薄日が差した。田辺湾に白波が立ち、大塔山系や果無の山々が波のように重なって見えた。

新ハイキング選書

第4巻 一等三角点のすべて　多摩雪雄 編
改訂2版／上製本／B6判352頁／定価1890円　一等三角点の知識をこの一冊に収録

第9巻 一等三角点の名山100　安藤正義/市川静子/多摩雪雄/冨田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中／B6判336頁／定価1631円　一等三角点峰100座の紀行・案内文集

第14巻 百歳までの山登り　冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判360頁／定価1835円　話題豊富な著者の紀行と随想集

第18巻 一等三角点の名山と秘境　安藤正義/多摩雪雄/冨田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判340頁／定価1837円　一等三角点の山100座の登山コースを紹介

第19巻 山との出会い　冨田弘平 編
B6判328頁／定価1680円　山の随想集。55名が執筆の説物

第20巻 一等三角点の山々　山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判310頁／定価1680円　第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介

第23巻 多摩100山　守屋龍男 著
B6判244頁／定価1575円　多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書

第24巻 山岳巡礼　佐藤光雄 著
B6判362頁／定価1680円　山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集

第25巻 東京近郊里山ハイキング　新ハイキング・ペンクラブ 著
A5判232頁／定価1680円　武蔵野／多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース

深田久弥の研究　深田クラブ 編
A5判389頁／定価1680円　深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

花と山　エーデルワイス・クラブ 編
A5判219頁／定価1680円　山と花を愛する100人が選った100山

田舎ごっこ　中山権四郎 著
B6判234頁／定価1680円　新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の説物

発行所 新ハイキング社　〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話／Fax03-3915-8110
振替00130-9-146915
●価格は消費税込み●振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で15年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

四季の自然に触れながら山を歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（ワッペン共）
年会費　3000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5185番から5207番まで（敬称略）。

【東京】森岡敏夫　神谷恵美子
【三重】藤本旅雄
【滋賀】川原徹也
【京都】中川佐代子　鍬田トシエ
【大阪】薄井宗範　竹本 敏　寺西幸代　津田周子　前田順子　竹本照子　木山義勝　吉見久子　武田久子　織田知子　西村静子　橋口タエ子
【奈良】都築由美子　梶 眞知子
【兵庫】岡本典子　西田俊治　都津謙治

（23名）

訂正とお詫び

87号（隔巻）68ページ下段最後から2行目「京橋」は「市・橋」が正しい。

88号（初秋）83ページ二段14行目「東中・宏」は「東谷・宏」が正しい。

（編集室）

新ハイキング社
（東京本社）〒114－0023　東京都北区滝野川7－5－5 高橋ビル301
TEL・FAX 03－3915－8110　（編集室）TEL 03－3915－8852
「新ハイキング」（月刊）・新ハイキング選書
（関西分社）〒610－0121　京都府城陽市寺田大畔10－10
TEL・FAX 0774－53－2754
「新ハイキング別冊 関西の山」（隔月刊）

「新ハイキング」ホームページ
インターネットで「新ハイキング」の全てがご覧になれます。
http://shinhai.net/

書店でお求めになりたい方へ
前もって毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃（隔月刊）の発売。

（参加者）栗栖崇吉　栗栖君子
森本幹雄　兼田幸子　大谷豊子
中谷峯子　宮西和子　山本千鶴子
渡部和美　前田一代　中澤ちず子
村上嘉子　柳川常雄　小栗大直
加藤浩一　竹田勝美　成川みさお
若林文夫　岩城豊子　滝本美和恵
松尾麗子　平田輝美　田中三重子
岩本彩子　小田潤子　本田久美子
長沢佑美　本家浩子　中尾美智子
中村静香　上田直代　河本美千子
奥田則夫　中島　隆　東中次夫
崎山悦子　須藤雅浩子　小河美奈子
松田　久　田口寿一　田口富子
小林博子　○西條良彦
◎木村太郎　（計44名）

奥三河
鳳来寺山と愛知県民の森尾根縦走
（自然観察山行203）
4月1日(土)～2日(日)　1泊2日
（1日　晴れ）（集合）JR岐阜駅9・20（車）鳳来寺駐車場12・50～55―鳳来寺本堂13・00（昼食）13・30―奥の院14・15～30―鳳来寺山14・40―天狗岩15・25～30―鷹打場16・05～15―東照宮16・35―駐車場16・50（車）愛知県民の森17・15（泊）
（2日　雨）宿舎8・45（車・奥三河・東美濃観光）岐阜駅17・00
（解散）
東名高速の渋滞で到着が遅れたものの、岩崎新日本百名山の鳳来寺山を予定通り登った。翌日は本格的な雨。愛知県民の森尾根縦走は断念した。
（参加者）上田久子　萩野美紀恵
田中善雄　夏山春子　森　美香子
堀田輝子　栗栖君子　○栗栖崇吉
◎鷲見守康　（計9名）

鈴鹿を歩く237
花の霊仙山西南尾根
4月2日(日)　◎岩野　明
＊雨天のため中止しました。

六甲仁川ピクニックセンター
甲山・北山貯水池・夙川堤
4月2日(日)　雨
（集合）阪急仁川駅10・00―展望台11・00―甲山レストハウス休憩所11・15（昼食）12・30―北山貯水池13・00―北山公園13・30―銀水橋14・00―夙川堤―夙川駅15・00（解散）
昼前に雨が強くなったので甲山を正面に見るレストハウス休憩所でゆっくりした。甲山登山は止めて北山貯水池から公園を通って夙川堤をくだった。終日雨で、桜はちらほら咲き、楽しみにした花見宴会にはならなかった。
（参加者）宮下淳一　伊東ナナ子
岩城豊子　小田潤子　木村太郎
中村静香　林　信男　佐野信江
兼田幸子　妹尾二正　小林博子
○安倉正勝　◎村田智俊（計13名）

越前・鍋倉山と藤倉山
（鈴鹿遊山20）
4月2日(日)　◎筒井克治
＊雨天のため中止しました。

鈴鹿
白滝山尾根から大洞の頭・水沢岳
4月4日(火)　晴れ
（集合）近鉄桔梗が丘駅8・10／野洲川ダムサイト9・30（車）大河原橋手前駐車場10・00―白滝山下のコル10・30―白滝山11・15―大洞の頭12・20（昼食）12・45―主稜線13・20―水沢岳14・00―水沢峠14・20―元越林道終点15・20―大河原橋16・00（車）桔梗が丘駅17・20（解散）
元越谷入口少し先の小沢から白滝山下のコルへ。そこから急峻な尾根を行くが、数年前と比べ刈り払いがあって格段に歩きやすい。日当たりのよい斜面には、早くもハルリンドウが咲いている。大洞の頭を過ぎると、ボカボカ陽気の尾根となり、鎌尾根の展望が開ける国境稜線へ。下りは、水沢岳を越え、水沢峠から元越谷道をくだった。
（参加者）大村俊子　鮫田二郎
上西信子　池田繁美　佐古田文子
高原芳彦　松村雅子　落合ひろ子
村田紀生　○西平くみ子
◎田中賢治　（計11名）

関東越後
高尾山と角田山・樋曽山
（花巡り山行30）
4月5日(水)夜～8日(土)朝
前夜発車中3泊3日
（5日）（集合）JR大垣駅23・05～19（電車）
（6日　晴れ）（電車）高尾駅7・12（バス）大下7・25―小下沢林道9・35～45―景信山11・15（昼食）12・00―城山13・00～30―高尾山15・00～20―一号路―高尾山口15・20（入浴・電車）新宿駅23・09（電車）
（7日　晴れ）（電車）新潟駅4・51（電車）巻駅5・43～6・20（タクシー）角田岬6・35―角田山9・30～10・00―東屋10・30（昼食）11・15―五ヶ峠12・25―樋曽山13・55～14・10―五ヶ峠16・00～40（タクシー）温泉（タクシー）JR巻駅21・00（電車）新潟駅22・05（夜行バス）
（8日）（バス）京都駅6・00
（解散）
花巡り山行と銘打った夜行続きの厳しい旅程、でも日中はゆっくりの花三昧。高尾山ではタカオスミレなど10種ものスミレ類とハナネコノメたちに感嘆し、角田山・樋曽山では、写真でよく見る斜面をいっぱいに埋め尽くすカタクリに出会え、一度は見たいと思っていた夢がかなえられた。さらに、オオミスミソウ・キクザキイチゲなどの豪華な花の競演に、皆ニコニコ顔で大満足でした。（志信記）
（参加者）奈良邦子　加納由紀子
小松志信　福松雅子　猪狩美枝子
前田喜久子　○中川光郎
◎田中　明　（計8名）

京都西山
花の寺からポンポン山
（週末ハイク72）
4月8日(土)　晴れ一時雨
（集合）JR向日町駅8・30～39（バス）南春日町9・05～15―大原野神社9・30―花ノ寺9・40―小塩山11・25―大原野森林公園案内所12・05（昼食）12・55―ポンポン山14・25～35―釈迦岳15・00―大沢越峠15・35～45―立石橋16・30（解散）
花ノ寺の桜はまだ咲き始め、小塩山のカタクリもほとんど蕾だった。黄砂のため太陽光がさえぎられ、稜線からの展望も悪かった。町中の桜は満開だった。
（参加者）宮下淳一　河本美千子
竹内正子　岩田育士　上田直代
繁田広美　東村由美　小林　桂
前田初雄　若林和人　森　美香子
小島理史　宮川和生　宮川ひろみ
筒井克治　本間黎子　森実喜美子
岩佐　修　岡本和子　井林寿奈子
佐野信江　夏山春子　中嶋日出男
小川晴美　中谷峯子　萩野美紀恵
○青木一雄　◎狩野東彦（計28名）

京都西山・小塩山
（地図読み山行74）
4月9日(日)　晴れ
（集合）阪急桂駅西口9・00～06（バス）南春日町9・30～45―正法寺10・00―金蔵寺分岐10・50―車道11・10―小塩山11・20（昼食）12・35―カタクリの谷13・00～10―大原山14・10～15―洛西ニュータウン15・25―洛西高校前バス停15・40（解散）
桜が満開。小塩山と大原山を結んで歩き、コンパスと地形図の読み方を勉強した。楽しみにしていたカタクリは開花が遅れていて寂しかった。
（参加者）宮下淳一　野末あや子
若林文夫　塚本忠次　森　つる子
米山昌子　堀　竜夫　宮路ちへ子
中窓昌子　前田一代　中谷峯子
和田純子　井上聡美　井上由紀晴
高下倉吉　萩野鶴子　岩本いすゞ
前田幸子　原田清弘　○中村　登
◎塚元一彦　（計21名）

比良・リトル比良縦走
4月9日(日)　晴れ
（集合）JR近江高島駅9・00～10―音羽長谷寺登山口9・30―石灯籠10・10―岳山10・50～11・00―オーム岩11・30―烏越峠11・40（昼食）12・30―岩阿沙利山13・00～15―鵜川越13・30―嘉嶺ヶ岳13・50～14・00―滝山14・10―寒風峠14・35―涼峠15・00―登山口15・35―北小松駅15・50～16・00（解散）
午前中は風が強く雨がパラついたが、昼食時にはよい天気になった。バイカオウレン・ショウジョウバカマが咲いていた。岩阿沙利山から見る武奈ヶ岳にはまだ残雪があり、白く光っていた。
（参加者）木本恭子　竹内正子
西原辰夫　蓮井洋子　長尾一令
山崎勝雄　中島　隆　市井ユリエ
前田初雄　平田和子　竹内喜久子
谷口義治　西脇　稔　森　美香子
川田洋子　金森節子　水本加津榮
宮野哲郎　宮野慈子　武部美美子
豊村雅子　山根弘美　渡部和美
小林　修　北村　稔　北村つねみ
牧　和夫　宮本真幸　久保田玲子
岡本春美　後藤純子　船本裕巳子
瓜阪利明　山本京子　藤井むつみ
中川光郎　福岡　章　○磯野重治
○中西信行　◎森脇貞義（計40名）

大峰・百貫岳から吉野山
4月14日(金)　くもり時々晴れ
（集合）近鉄橿原神宮前駅9・10～20（バス）地蔵峠10・00―鷲聞寺10・45―百貫岳11・25―西行庵12・15（昼食）12・45―青根ヶ峰13・10―高城山展望台14・00―近鉄吉野駅16・00（バス）橿原神宮

前駅16・45（解散）

百貫缶付近はガスに包まれ、吉野山の桜は見られるだろうかと心配したが、西行庵に着いた頃はガスも切れ、千守茶屋展望所から咲き誇る千本桜がすばらしかった。

（参加者）竹田勝英　宮路ちへ子　木村　豊　北　紀美　神　伸　神　紀子　山根弘美　渡部和美　森田久子　岡　葵子　山中あさみ　志水明美　加藤元彦　安田文美江　米山昌子　中尾博子　岩本彩子　細野欽也　田中延子　光川二美子　本家洸子　鞆　恕子　藤原くに子　○東山澄夫　○前川和佳子　◎西上利和　（計26名）

美濃・各務原アルプス

迫間山・明王山・金比羅山・城山（自然観察山行204）

4月15日(土)　雨

（集合）JR岐阜駅9・15（バス）城山登山口10・00～10―城山10・50～11・00―明王山11・40（昼食）12・25―金比羅山12・35―迫間山13・15～30―各務野自然遺産の森15・00～15（バス）各務原美人の湯15・30（入浴）16・30（バス）岐阜駅17・00（解散）

朝から小雨が降り続いていたが、予定通り歩く。城山から明王山への尾根の北斜面には淡い黄色のヒカゲツツジの群落が見事。さらに（ただの）ミツバツツジとコバノミツバツツジが縦走路全体に華やかな彩りを添え、里山の早春を満喫した。

（参加者）岩城豊子　萩野美紀恵　小松志信　佐々木三千代　夏山春子　平田輝美　森　美香子　松村雅子　水谷陽子　武藤由美子　宮本真幸　山形　明　○田中善雄　◎鷲見守康　（計14名）

湖東三山ハイキング

4月15日(土)　雨

（集合）ドライブイン「一休庵」9・45（車）百済寺10・15～40―古墳公園11・45（昼食）12・40―金剛輪寺13・25～14・05―西明寺15・00～20（百済寺へ車を取りに行く）15・50（解散）

湖東三山（百済寺・金剛輪寺・西明寺）をつないで春雨のなかをハイキング。桜が満開の古墳公園にて昼食。咲き出した春の花々を各お寺の庭園や民家の庭に眺めながらの花三昧の一日であった。

（参加者）遠藤　率　遠藤和子　伊藤　紘　伊藤良子　光川二美子　下村啓三　下村啓子　岩本彩子　加藤國計　足立孔子　谷　守　吉野栄子　◎高島伸浩　（計13名）

中辺路2

⑮近露から三越峠

⑯三越峠から熊野本宮大社

（紀伊山地の参詣道を歩く8）

4月15日(土)～16日(日)　1泊2日

（15日　雨）（集合）近鉄上本町駅8・00（バス）道の駅中辺路11・30～40―牛馬童子像11・50―著折峰休憩所12・00（昼食）12・30―近露王子跡12・40―継桜王子社野中の一方杉13・40～50―小広王子跡14・40―熊瀬川王子跡―草鞋峠15・00―女坂―仲人茶屋跡15・20（バス）わたらせ温泉15・50（泊）

（16日　晴れ）宿8・00（バス）仲人茶屋跡8・30―男坂―岩神王子跡9・00―おぎん地蔵9・30―蛇形神社9・50～10・05―湯川王子社10・15―三越峠10・35～45―船玉神社公園11・30（昼食）12・15―猪鼻王子跡12・25―発心門王子社12・50―水呑王子跡13・10―伏拝王子跡茶屋13・40～14・00―三軒茶屋跡14・20―熊野本宮大社15・00～20（バス）難波駅19・00（解散）

近露からは雨と風のなかで、林道の仲人茶屋跡でマイクロバスに乗り込んだ。2日目は上天気で、仲人茶屋跡からおぎん地蔵を経て三越峠に上がった。船玉公園の桜の芝生で昼食後、発心門王子社からは、のんびりと花と春の村景色を見ながら本宮大社へくだった。2日間で26キロを歩き、小辺路に続き中辺路コースも終点に至った。

（参加者）西原辰夫　武部芙美子　宮野稔子　大石吉彦　河原美代子　冨松雅子　佐野信江　野末あや子　中川節子　白鳥忠子　伊東ナナ子　仲谷礼司　高橋舜治　村田はる江　和田純子　岩鶴健司　小河美奈子　岡本佳子　川田洋子　岡崎知子　○呉比裕美　○安倉正勝　◎村田智俊　（計23名）

葛城・大和葛城山

（ファミリーハイク80）

4月16日(日)　◎木村太郎

＊雨天予報のため中止しました。

高畑・猿ヶ山・比婆山

（鈴鹿を歩く238）

4月16日(日)　晴れ

（集合）寺院坂地8・25―中村8・30―高畑10・30―猿ヶ山10・50―尾根分岐11・20―比婆神社12・00（昼食）13・00―男鬼14・00―落合14・50―広場15・30（解散）

急登40分で苔蒸したカレンフェルトの岩稜に変わると展望も開け、刺たらけのカラタチ、マルスグリ・ヒトリシズカ・ヤマシャクヤク等、貴重な植物が見られた。高畑・猿ヶ山・比婆山は冬枯れの樹木が続いた。男鬼・落合と芦川沿いでは、フクジュソウ・セツブンソウ・イチリンソウ・ニリンソウ等、早春の花々を愛でた。

（参加者）池田繁美　武村千鶴　高原芳彦　磯部　純　奥野太一郎　小林　修　宮城勝江　光川二美子　永戸鉄治　北村　稔　伊藤喜久男　緒方由子　岩本彩子　友田美保子　原　光一　原　幸子　佐古田文子　金谷　昭　大西修郎　石田眞由美　谷　守　吉岡　仁　網木美恵子　金原和子　一芝義雄　一芝美知子　山田京子　福島一美　○後藤康幸　○山田景三　◎岩野　明　（計31名）

台高

神之谷川から柏原辻・白髭岳南尾根

4月18日(火)　晴れ

（集合）近鉄榛原駅8・10／神之谷東の谷出合9・20～42―柏原辻北西尾根取付10・20―ショウジ山尾根11・30―柏原辻三角点11・45（昼食）13・00―白髭岳14・25～50―東の谷分岐16・20―東の谷出合17・20（車）近鉄榛原駅18・40（解散）

東の谷出合スペースは使用禁止のため、神之谷橋付近に分散して置車。雨後で一斉に草花が芽吹き始めた林道から柏原辻への植林帯を急登。うららの日差しを浴びながら、柏原辻三角点で長～いランチタイム。神之谷と北股川を振り分ける、ブナの林立するブロムナードの尾根を白髭岳へ。帰路は一般路を東の谷へ。谷では草花が開花して、いろいろ名前を教えてもらったが、すぐに忘れるのが情けない。（柏原辻で正蔵にも昼寝をした係は大物ヤマトグニのお土産を貰った）

（参加者）緒方由子　佐古田文子　鮫田二郎　池田繁美　梶原泰彦　村本俊弘　西村静子　梶　真知子　大村俊子　○岡平くみ子　◎田中賢治　（計11名）

愛宕山シリーズ11

長坂道・パノラマコースからイワウチワコースへ

（火曜ハイク20）

4月18日(火)　晴れ

（集合）清滝9・00―落合9・35～40―長坂谷―峠10・45～55―ツツジ尾根―七合目出合11・35（昼食）12・25―パノラマコース―月輪寺尾根13・20―P707 13・30―イワウチワコース―梨の木大神碑14・20～30―清滝15・30（解散）

長坂谷は少し明るくなったようだが、パノラマコースは今は名ばかりで景色は楽しめなくなっている。コースを一部変更して咲き始めたイワウチワを見に行く。

（参加者）長尾一令　大須賀　實　大林　進　山岸勝雄　小川富士雄　岩本彩子　塚本忠次　船越みよ子　本間琴子　渡部和美　中嶋日出男　巻田　晃　小乗大直　森　つる子　後藤純子　志水明美　猪狩美枝子　加藤元彦　川上久堅　山内弥栄子　和田直樹　青木一雄　谷　守　前田澄子　鈴木靖子　大熊和子　荒木邦彦　荒木悠美子　中岡昌子　宮野直子　藤井むつみ　林　弘毅　村井寿和　石原若子　竹田善英　宮野稔子　中川節子　○小松志信　○加納由紀子　○神　伸　◎仲谷礼司　（計19名）

京都西山・小塩山

（花巡り山行31）

4月20日(木)　くもり

（集合）阪急桂駅東口8・20～26（バス）斉掛西口8・50～9・00―登山口―林道終点9・35～45―鉄塔10・40～11・00―西山団地11・35―カタクリ地11・45～55―大暑山12・00（昼食）12・40―一ノ谷13・10～20―三ノ谷13・30～45―ドコモ前13・55～14・10―小塩山14・15～25―金蔵寺分岐14・40―二本杉14・55～15・05―南春日町15・45―灰方16・18（車中解散）

名残の山桜咲く洛西の森からカタクリを求めて大暑山より小塩山の五箇所のポイントを巡り、可憐な花を堪能した。なかでも白花カタクリは気品ある姿で一行を魅了した。アカネ・ヒメスミレ等スミレの仲間も多く咲き、カタクリとともに春の花を満喫した。

旅の本棚では「田中明と行くフラワートレッキング」にデビューと聞いています。新ハイでの花の名解説ありがとうございました。今後の活躍を応援します。（西原記）

（参加者）西　悦子　田中三恵子　宮西和子　猪狩美枝子

大園加代子　森本真智子
鈴木百合子　○西原辰夫
◎田中　明　（計9名）

西上州・妙義山と物語山

（自然観察山行205）

4月21日(金)夜～23日(日)
前夜発1泊2日
〈21日〉（集合）JR岐阜駅22・00（バス）
〈22日　晴れ〉（バス）ドライブインおぎのや4・45（朝食休憩）5・50（バス）妙義神社駐車場6・05～10―妙義神社6・30～40―大の字7・20～40―辻7・50―奥の院8・00～25―第一見晴らし9・25―第二見晴らし10・00～10―本読みの僧10・30―あずまや11・00（昼食）11・30―大砲岩12・30―第四石門13・00―第三石門―第二石門―第四石門13・40―中之岳神社14・10―神社駐車場14・20～25（バス）松井田町国民宿舎15・40（泊）
〈23日　くもり〉国民宿舎7・20（バス）サン・スポーツランド駐車場8・15～20―林道―登山口9・05～10―コル9・35～45―物語山9・55～10・10―コル10・20―西峰10・30～35―コル10・40―登山口11・00―サン・スポーツランド駐車場11・30～40（バス）荒船の湯11・45（入浴・昼食）13・14（バス）岐阜駅18・40（解散）

表妙義中間道から少し外れて奥の院や大砲岩、そして石門巡りの鎖場も歩いた。日本三奇勝の表妙義の奇岩怪石のすばらしい景観と春の花を堪能した。翌日は名前のきれいな物語山を歩き、アカヤシオのふっくらとしたピンクの名花と、西上州の山々の眺めを楽しんだ。

（参加者）石川　厳　相原悠紀子　沖　伸　金森節子　荻野美紀恵　栗栖栄吉　栗栖君子　川上香代子　上田久子　田中普雄　森　美香子　平田輝美　安田文美江　○狩野東彦　◎鷲見守康（計15名）

奥美濃・湧谷山

4月22日(土)　晴れ
（集合）旧坂内村役場8・50（車）道ランドスキー場入口9・07―ゲレンデ頂上9・24―東南尾根との分岐10・15―十字山11・00―湧谷山11・25（昼食）12・30―丁字山12・50―ゲレンデ頂上14・00―道ランドスキー場14・22（解散）
＊五蛇池山の登山道が積雪と損傷で湧谷山に変更した。

前日の新雪が残り、御嶽を始めとする奥美濃の大展望を楽しみつつの昼食タイム。雪の春山を堪能し、ピンチヒッターが快打する好結果となった。

（参加者）前田悦子　加納由紀子　堀江房酉　木下朝子　佐古田文子　高原芳彦　大石村美　網木美恵子　小松志信　北村　稔　奥野太一郎　細野欽也　筒井克治　南　智恵子　奥田真雄　村田紀生　友田美保子　伊東弘隆　島尾信吾　今井みよ子　竹田善美　山本久雄　船本裕巳子　村井寿和　鍬田トシエ　○磯部　純　◎食谷　昭（計27名）

湖北・竹生島・海津大崎・山門水源

（展望の山15）

4月22日(土)　くもり
（集合）JR関ヶ原駅8・30／JR木之本駅9・10（車）海津大崎経由飯浦10・20（船）竹生島11・00（昼食）12・20（船）飯浦13・00（車）山門水源13・20～15・30（車）木之本駅16・10（解散）

海津大崎の桜は、散り始めで4000本がきれいだった。竹生島はカワウの被害が大きい。山には入れてもらえず三角点は見られない。山門水源の春は昨年より10日遅れていて、トキワイカリソウは蕾だった。

（参加者）林　正義　東中次夫　緒方由子　若林文夫　馬場桂子　伊藤　明　伊藤紀子　宮路ちへ子　森美東美　倉田喜子　宮路亜希子　竹本　勲　竹本恵子　◎山田明男（計14名）

南伊勢・道方山（若山）

（三重の山85）

4月22日(土)　くもり
（集合）伊勢道玉城インターパーキングエリア9・30（車）新能見坂トンネル（車）旧能見坂峠10・35―尾根―展望地11・00～05―P586 11・30―道方山（若山）12・20―（往路）―ヒカゲツツジ群落地13・00（昼食）13・30―P586 14・00―展望地14・25―旧能見坂トンネル15・00（解散）

いろんな花と出会えた。ミツバツツジ・シキミ・ミヤマシキミ・アセビ・ヤブツバキなど。圧巻はヒカゲツツジの群落。にぎり飯はその群落のなかで。解散後、有志で烏ヶ岳山麓の飯高の湯へ。

（参加者）永戸鉄治　石田真由美

山本雅子　大西節郎　中森義信
林崎　功　川村政和　相沢正二
◎稲垣逸夫　（計9名）

蓬莱山から鳥谷山

（比良を歩く48）

4月23日(日)　くもり
（集合）JR志賀駅8・50～9・02（バス）びわ湖バレイ前9・17～25（ゴンドラ）打見山9・40～50―蓬莱山10・13～20―白谷10・40―竹谷10・50―木戸峠11・00―比良岳11・37（昼食）12・10―葛川越12・23―鳥谷山12・47―荒川峠13・10～15―南比良峠13・35―府立医大小屋下14・30～35―堂満小屋15・00～20（解散）―比良駅15・55

蓬莱山から白谷へ下りの北斜面、木戸峠から南比良峠への稜線上は、4月下旬だというのに残雪が豊富だった。南比良峠から堂満小屋までの深谷道はなかなかの難路だが、メンバーの足が揃っていたので、予定時間より早く下山できた。

（参加者）岩田育士　長尾一令　塚本忠次　前田初雄　豊村雅子　小栗大直　松尾麗子　野里マツ代　志水明美　岩本彩子　山口敏明　渡部和美　小林　修　渡辺秀美江　後藤純子　多賀久子　妹尾公代　松村雅子　山縣勝美　○三井紘一　◎森　康夫　（計21名）

芦生・京都大学研究林

（芦生定点観察2）

4月23日(日)　くもりのち晴れ
（集合）JR近江今津駅8・10／道の駅朽木本陣9・00（車）生杉休憩所10・00―三国峠10・30―野田畑峠11・30―シンコボ手前12・00（昼食）12・30―杉尾坂13・45―地蔵峠14・20―生杉休憩所15・55（車）針畑ルネサンス16・20（車）近江今津駅17・10（解散）

トクワカソウが咲き始めていて、昼食後の群落は圧巻で今日のハイライトとなった。上谷には多くの雪が残って歩きづらく、水量も多かった。

（参加者）西村文男　光川二美子　林　正義　北村　稔　北村つねみ　池田隆一　井上恭子　猪狩美枝子　竹田勝美　笹岡庄蔵　長坂佐知子　小林一世　川戸せつ　佐古田文子　藤本紀子　三上神夫　山田妙子　◎山田明男　（計18名）

頭巾山と野鹿の滝

（北山ちょっと歩き77）

4月26日(水)　晴れのちくもり
（集合）JR京都駅八条口7・20～25（バス）山森福居9・45―上の谷林道終点10・25―横尾峠分岐11・15―頭巾山12・25（昼食）13・40―賀能の滝15・10―林道入口15・35（バス）京都駅18・10（解散）

登り下りの厳しい登山であったが、イワカガミの帯を見、イワウチワも咲き初めで可愛いかった。野鹿の滝の雄大さにも驚いた。

（参加者）横江　進　砂原重美子　上田裕子　多田陽子　奥田則夫　平田和子　川俣富子　須藤浩子　岡本和子　塚本忠次　中辻勝子　本間　隆　本間黎子　澤田高治　小栗大直　森　つる子　志水明美　川島勝美　中嶋日出男　太田欽弥　山岸勝雄　庁　すみ子　渡部和美　井上聡美　野末あや子　本家洸子　宮崎紀正　井上由紀晴　後藤純子　松本忠雄　戸田サエミ　細野欽也　田中順子　平　幸子　星野正弘　冨田薄子　中尾博子　恩見瑞子　清　紀嘉　長尾一令　市野博文　黒田時子　若林文夫　岩本彩子　○金谷　昭　○谷　守　◎眞山繁三（計51名）

京都北山・天ヶ森から天ヶ岳

（平日ふれあいハイク58）

4月27日(木)　◎寺井恒夫
＊雨天のため中止しました。

鈴鹿・三国岳

（ファミリーハイク81）

4月27日(木)　◎木村太郎
＊雨天のため中止しました。

美濃・舟伏山

（自然観察山行206）

4月29日(日)　くもり
（集合）JR大垣駅9・00（バス）あいの森駐車場10・35～40―さくら峠11・30～35―みのわ平12・00～10―舟伏山13・10（昼食）13・50―小舟伏―あいの森駐車場15・40～45（バス）大野温泉17・00（入浴）17・40（バス）大垣駅18・10（解散）

今年の花期は一週間ほど遅れているようだが、それよりも森や花たちが寡選している感じで、昔の花盛りの舟伏山を記憶している者には、寂しさを隠せない。

（参加者）井上恭子　荻野美紀恵　大林　進　大林尊子　林　えい子　崎山悦子　佐々木三千代　須藤浩子　田邊弘子　森　美香子

中谷峯子　夏山春子　渡辺かつこ
堀田輝子　水谷陽子　竹田善英
○仲谷孔司　◎鷲見守康（計18名）

湖北・カナ山と夜叉ヶ妹池

4月29日(日)　晴れ

（集合）JR京都駅八条口7・40（バス）鳥越林道作業道入口9・45～55—作業道高山黒内線—作業道終点11・00—P8431 1・20—町界尾根合流点12・00（昼食）12・40—夜叉ヶ妹池13・50～14・10—町界尾根合流点15・30—P8433 15・50—作業道終点16・10—鳥越林道17・00～30（バス）京都駅19・30（解散）

カナ山への町界尾根には残雪が多く、解けた所は、雪の重みで折れ曲がった木が寝たままで歩きづらい。夜叉ヶ妹池までで時間切れになり、カナ山は断念した。まだ冬枯れの静かな樹林のなかで薄氷が張り、明るい夜叉ヶ妹池だった。

（参加者）小栗大直　武部美美子
森本幹雄　志水明美　野末あや子
白鳥忠字　宮野哲郎　宮野稔子
中川光郎　山高義治　山高多恵子
木村　豊　松見　昭　高園富美子
岡崎知子　高橋群治　河原美代子
岩城豊子　繁田広美　砂原恵美子
平田輝美　前田悦子　森　つる子
岩佐　修　若林文夫　濱本美和恵
東中次夫　松井明忠　大須賀　實
岩本彩子　北村　正　伊東ナナ子
奥田則夫　石原順次　嘉瀬井　豊
西田俊治　遠藤　率　池田繁美
筒井克治　○呉比裕美
○安倉正勝　◎村田智俊（計42名）

岡山鳥取県境・毛無山

4月29日(日)～30日(月)　1泊2日

〈29日　晴れのち雨〉（集合）JR西明石駅7・30（バス）山の家10・35—登山口11・00—毛無山12・10—カタクリの丘12・30（昼食）13・10—白馬山13・25—俣野越13・50—山の駅分岐14・50—山の駅16・00（バス）山の家16・35（泊）

〈30日　晴れ〉山の家6・55（バス）岡山県立森林公園8・55～9・05—すずの子平10・45—広場11・15（昼食）11・35—真禅三叉路11・45—もみじ平12・00—千軒平12・15—管理事務所13・20～35（バス）大釣温泉14・00（入浴）15・00（バス）西明石駅18・15（解散）

毛無山のカタクリ満開の夢は破れ（少しは咲いていた）、俣野越辺りから雷鳴が轟き雨となった。

金ヶ谷山を中止して山の駅へ下山した。山の家では、囲炉裏を囲んでヤマメの炭火焼を楽しみ、女性陣が料理した豚汁は最高でした。翌日は、多数決で森林公園へ向かった。ミズバショウやザゼンソウなど、花と適度なコースで早春の高原を楽しんだ。

（参加者）栗栖宗吉　栗栖君子
岩田育士　小谷和子　前田喜久子
河合敏行　上田直代　安田文美江
前川　一　森　瑞代　猪狩美枝子
馬籠忠男　松村雅子　塩尻香織
福隅　章　岩鶴健司　首藤育子
○岡田　昇　◎古賀慶一（計19名）

四国・宇和島の山

三本杭と篠山

4月30日(日)～5月2日(火)

2泊3日

〈30日　晴れ〉（集合）JR新大阪駅7・50～58（電車）宇和島駅13・38～14・40（車）滑床15・30（泊）

〈1日　晴れ〉滑床万年橋8・25—雪輪の滝8・50～9・00—奥千畳10・10—熊のコル11・10～25—三本杭11・50（昼食）12・30—御祝山13・15～20—万年橋14・10—滑床森の国ロッジ14・15～35（車）宇和島ユースホステル15・45（泊）

〈2日　くもりのち晴れ〉宿舎7・20（車）篠山登山口8・35～45—篠山9・25～10・00—登山口10・35～50（車）鮫川温泉11・20（入浴）11・45（車）宿毛12・45（昼食）13・20（車）宇和島駅15・10～50（電車）新大阪駅20・54（解散）

（30日）参加者が少ないため、JRとレンタカーを利用する日程にした。登山コースから外れた渓谷の観光コースを探勝した。

（1日）万年橋から滑床渓谷沿いを上流へ向かい、奥千畳で本流から分かれて二の俣沿いに急な登りをつめて熊のコルに至り、さらに急坂を登り三本杭に到着。下山は檜尾根コースに点在するアケボノツツジを見ながらブナ林を過ぎ、咲き始めたシャクナゲの大群落を抜け、御祝山から急坂を万年橋へとくだった。

（2日）八合目の登山口まで車で入った。雲が垂れ込めて篠山山頂付近はガスがかかり雨も一時ばらついたが、満開のアケボノツツジの大群落が楽しめた。地元の人にも知られていない秘湯で汗を流した。

（参加者）沖　伸　上田久子
関口恵子　園田憲章　田中普雄
松尾麗子　船越利明　船越みよ子
南　利憲　吉植　清　◎狩野東彦
（計11名）

佐渡・大佐渡山脈

金剛山・ドンデン山・金北山とアオネバ渓谷

（自然観察山行207）

5月2日(火)～5日(木)

前夜発2泊3日

〈2日〉（集合）JR岐阜駅22・00（バス）

〈3日　晴れ〉（バス）佐渡汽船新潟ターミナル4・30（朝食休憩）6・10（船）両津港7・10～20（バス）白瀬登山口8・10～20—タン平水路8・50～9・00—組上10・35～45—金剛山11・50（昼食）12・35—組上13・20～30—タン平水路14・15—白瀬登山口14・35（バス）宿16・10（泊）

〈4日　晴れ〉宿7・30（バス）姫ヶ沢登山口8・25～30—縦池清水8・55～9・05—じゅんさい池9・55～10・00—二ノ鳥居10・15～25—神子岩10・40～50—天狗岩11・05—金北山12・00（昼食）12・45—天狗岩13・15—神子岩13・30—追分14・00—沢口登山口14・35～50—林道—姫ヶ沢登山口15・30～16・00（バス）宿17・00（泊）

〈5日　くもり時々晴れ〉宿7・05（バス）ドンデン山荘8・10—ドンデン山8・20—ドンデン山荘8・35—アオネバ渓谷十字路—アオネバ登山口10・00～05（バス）新穂潟上温泉10・30（入浴）11・05（バス）両津港11・25（昼食）12・30（船）新潟港13・30～45（バス）米原駅20・15（解散・バス）岐阜駅21・15（解散）

稜線上は残雪があって花が期待できないため、縦走を取りやめて金剛山・金北山はそれぞれ下から登り、ドンデン山はドンデン山荘から歩いてアオネバ渓谷をくだった。雪の消えた中腹までは季節が順調に巡り、見事な花盛り。とりわけ、金北山の白花もまぜたカタクリの群落、ルリイチゲをまぜたキクザキイチゲの群生、神子岩から天狗岩のオオミスミソウの群生は、夢の世界のよう。アオネバ渓谷はさらに季節が進み、わが国固有種シラネアオイが見事だった。佐渡はいつも期待を裏切らない。

（参加者）石川　厳　猪狩美枝子
石田賢二　上田裕子　市井ユリ子
金森節子　田邊弘子　大園加代子
鳥居信吾　西村文男　萩野美紀恵
加納山紀子　野末あや子
林　えい子　村田はる江
森本淳子　若林文夫　森　美香子
和田純子　○三井紘一
◎鷲見守康（計21名）

台高・明神平から池木屋山

（テント山行）

5月3日(水)～6日(土)　3泊4日

〈3日　晴れ〉（集合）近鉄榛原駅8・30（車）大又林道駐車場10・30～40—明神平12・40（昼食）13・30—水場付近のテント場13・40（テント泊）

〈4日　晴れ）明神平7・50—明神岳8・30—桧塚奥峰9・20—桧塚9・40—明神岳11・00—笹ヶ峰鞍部11・30（昼食）12・30—千石山13・30—奥ノ平谷蓮滝テント場14・00（テント泊）

〈5日　晴れ）奥ノ平谷テント場7・50—赤嵓山9・00—奥ノ平峰9・40—池木屋山10・15～30—木屋池10・40（昼食）11・30—奥ノ平峰12・00—赤嵓山12・40—テント場14・20（テント泊）

〈6日　晴れ）テント場8・00—明神平10・30（昼食）11・10—明神滝11・40—登山口12・10—大又林道駐車場12・20（車）やはた温泉12・30（入浴）14・00（車）榛原駅15・00（解散）

山行中ずっと快晴で、快適なテント生活が送れ、夜空の星も大きく見えてきれいだった。主稜は芽吹き前で周辺の山々が大展望。のんびりと歩いて台高山中での運休4日間を楽しんだ。

（参加者）山本武臣　山本令子
宮野哲郎　宮野稔子　中嶋日出男
奥野民憲　奥野富美　多賀周二
多賀久子　○呉比裕美
○安倉正勝　◎村田智俊（計12名）

（3・4月の参加　延1057名）